

京都薬科大学教育研究業績録

第 4 2 集

2 0 2 3

(2023 年 1 月～12 月)

2 0 2 4

教員一覽表

() は兼務 五十音順

2023年5月1日現在

	教授	准教授	講師	助教	助手
学長	赤路 健一				
副学長	斎藤 博幸				
薬化学	古田 巧	小林 祐輔		浜田 翔平	
薬品製造学	南部 寿則			岩崎 宏樹	
薬品化学	大石 真也	小林 数也			
生薬学		中村 誠宏			
薬品分析学	武上 茂彦			木口 裕貴	
代謝分析学	安井 裕之	木村 寛之		内藤 行喜	
薬品物理化学	(斎藤 博幸)	長尾耕治郎			
衛生化学	長澤 一樹	高山健太郎		森戸 克弥	
公衆衛生学	渡辺 徹志			松本 崇宏	
微生物・感染制御学	八尋錦之助			鴨志田 剛	
細胞生物学	藤室 雅弘		関根 勇一		
生化学	中山 祐治			齊藤 洋平	
病態生理学	芦原 英司	細木 誠之		幸 龍三郎	
病態生化学	秋葉 聡	石原 慶一		戸田 侑紀	
薬物治療学	加藤 伸一			河下 映里	
臨床薬理学		小原 幸		安田 浩之	
薬理学	田中 智之	藤井 正徳		鳥羽 裕恵	
臨床腫瘍学		中田 晋		飯居 宏美	
薬剤学	異島 優	勝見 英正		森下 将輝	
薬物動態学	栄田 敏之		伊藤由佳子	河渊 真治	
臨床薬学	西口 工司		辻本 雅之		
臨床薬剤疫学	村木 優一			豕瀬 諒	
健康科学		長澤 吉則		棚橋高一郎	
物理学	田中 憲一				
数学	上野 嘉夫				
一般教育	佐藤 毅	今井 千壽	岩崎 大輔	朝比奈裕子	
		坂本 尚志	岸野 良治		
薬学教育研究センター	細井 信造		開 章宏	吉村 典久	
臨床薬学教育研究センター	(村木 優一)	津島 美幸	今西 孝至	地寄 悠吾	
	橋詰 勉		中村 暢彦		
情報処理教育研究センター	(村木 優一)		石川 誠司		
	藤原 洋一				
学生実習支援センター	(藤原 洋一)	木村 徹		金瀬 薫	徳山 友紀
				高尾 郁子	
				高田 哲也	
				林 美沙	
				平山恵津子	
シナジーラボ	高田 和幸				
放射性同位元素研究センター	(赤路 健一)	河嶋 秀和			
共同利用機器センター	(古田 巧)		服部 恭尚	扇田 隆司	
バイオサイエンス研究センター	(加藤 伸一)	斉藤美知子			
図書館	(古田 巧)				
薬用植物園	(渡辺 徹志)			月岡 淳子	
創薬科学コンテニア研究センター	(大石 真也)				
生涯教育センター	(村木 優一)				
知的財産・産学官連携センター	(赤路 健一)				
国際交流センター	(佐藤 毅)				

目次

薬化学	1
薬品製造学	6
薬品化学	10
生薬学	17
薬品分析学	21
代謝分析学	23
薬品物理化学	28
衛生化学	31
公衆衛生学	35
微生物・感染制御学	38
細胞生物学	41
生化学	45
病態生理学	50
病態生化学	53
薬物治療学	57
臨床薬理学	61
薬理学	64
臨床腫瘍学	66
薬剤学	70
薬物動態学	75
臨床薬学	80
臨床薬剤疫学	84
健康科学	92
物理学	95
数学	97
一般教育	98
薬学教育研究センター	102
臨床薬学教育研究センター	103
学生実習支援センター	107
シナジーラボ	109
放射性同位元素研究センター	113
共同利用機器センター	116
バイオサイエンス研究センター	120
薬用植物園	121

薬化学

論文

1. Oxidative Deprotection of Benzyl Protecting Groups for Alcohols by an Electronically Tuned Nitroxyl-Radical Catalyst

Shohei Hamada, Maiko Sumida, Rikako Yamazaki, Yusuke Kobayashi, Takumi Furuta

The Journal of Organic Chemistry 2023年8月16日 査読有り

2. Dual Chalcogen-Bonding Interactions for The Conformational Control of Urea.

Takumi Inoue, Moe Ota, Yui Amijima, Haru Takahashi, Shohei Hamada, Seikou Nakamura, Yusuke Kobayashi, Takahiro Sasamori, Takumi Furuta

Chemistry - A European Journal e202302139 2023年7月28日 査読有り

3. Diverse Site-Selective Transformation of Benzylic and Allylic Silyl Ethers via Organocatalytic Oxidation

Shohei Hamada, Kaori Sakamoto, Eri Miyazaki, Elghareeb E. Elboray, Yusuke Kobayashi, Takumi Furuta

ACS Catalysis 2023年5月31日 査読有り

4. 1,3-Dipolar Cycloaddition of 3-Chromonyl-Substituted Glycine Imino Esters with Arylidenes and in situ Diastereodivergent via Retrocycloaddition

Mohammed F. Radwan, Elghareeb E. Elboray, Hemat M. Dardeer, Yusuke Kobayashi, Takumi Furuta, Shohei Hamada, Toshifumi Dohi, Moustafa F. Aly

Chemistry - An Asian Journal 18(10) 2023年5月16日 査読有り

5. Biosynthesis of Dillapiole/Apiole in Dill (*Anethum graveolens*): Characterization of Regioselective Phenylpropene O-Methyltransferase

Takao Koeduka, Bunta Watanabe, Konomi Shirahama, Masaru Nakayasu, Shiro Suzuki, Takumi Furuta, Hideyuki Suzuki, Kenji Matsui, Tomoyuki Kosaka, Shin-ichi Ozaki

Plant J.113(3) 2023年 査読有り

MISC

1. カルコゲン結合を活用した触媒構造制御

古田 巧

ファルマシア, 59, 745-747. 2023年

2. 2種類の過活動膀胱治療薬を服用中の患者における便秘が薬剤師の介入により改善した一例

野水弘司、古田 巧、村木優一

京都薬科大学紀要, 4(1), 112-116. 2023年

3. 分子内ハロゲン結合を利用した新規ニトレンおよびカルベン等価体の開発

小林祐輔、竹本佳司

有機合成化学協会誌, 81, 483-491 2023年

講演・口頭発表等

1. Site-Selective Oxidation of Benzylic and Allylic Silyl Ethers by an Electronically Tuned Nitroxyl-Radical Catalyst

Shohei Hamada, Kaori Sakamoto, Eri Miyazaki, Elghareeb, E. Elboray, Yusuke Kobayashi, Takumi Furuta

The 16th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia, Singapore, 2023年12月1日

2. ニトロキシル型酸化触媒によるベンジル・アリル位のシリルエーテル選択的酸化法の開発

浜田翔平, 阪本圭織, 宮崎瑛梨, Elghareeb E. Elboray, 小林 祐輔, 古田 巧

第16回有機触媒シンポジウム、仙台 2023年11月28日

3. 高機能薬物送達人工ペプチドの開発を基盤とする治療薬創製

古田 巧

第13回4大学連携研究フォーラム、京都 2023年11月21日

4. ニトロキシルラジカルを触媒としたシリルエーテルの酸化の反応機構解析

阪本圭織, 浜田翔平, 宮崎瑛梨, 小林 祐輔, 古田 巧

第49回反応と合成の進歩シンポジウム、岐阜 2023年11月6日

5. ビアール型アミノ酸の創製からカルコゲン結合による触媒構造制御への展開

古田 巧

2023年度有機合成化学北陸セミナー、金沢 2023年10月21日

6. カルコゲン結合により配座制御されたウレア誘導体の立体構造と物性

網島 唯, 井上 拓美, 太田 萌絵, 森田 名美, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、神戸 2023年10月14日

7. 不活性アルケンの光アジリジン化反応の開発

上田 敬, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、神戸 2023年10月14日

8. カルコゲン結合を持つロジウム二核錯体の合成と第二級アルコールの位置選択的アルキル化の検討

中村 優希, 三上 紋加, 松山 千夏, 井上 拓美, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、神戸 2023年10月14日

9. α -位に芳香環を有するニトロキシラジカルの合成と触媒活性評価

大霜 彩乃, 浜田 翔平, 松田 彩花, 古賀 貴裕, 阪本 圭織, 小林 祐輔, 古田 巧

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、神戸 2023年10月14日

10. 単純ヘルペスウイルス1型(HSV-1)を標的とした抗ウイルス化合物の開発

前田 笙, 角谷 廣智, 太田 萌絵, 井上 拓美, 古田 巧, 藤室 雅弘

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、神戸 2023年10月14日

11. ヒドリド移動機構を鍵とする触媒的酸化反応の開発

浜田 翔平

第7回関西薬学シンポジウム：化学系の若い力、大阪 2023年9月16日

12. N-アシルイミノヨージナン反応剤による不活性アルケンのアミノ化反応の開発

小林 祐輔, 上田 敬, 浜田 翔平, 古田 巧

第26回ヨウ素学会シンポジウム、千葉 2023年9月15日

13. カルコゲン元素を持つチオウレア誘導体の合成と立体構造

森田 名美, 井上 拓美, 太田 萌絵, 浜田 翔平, 古田 巧, 小林 祐輔, 古田 巧

第43回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」、京都 2023年8月8日

14. ベンジル・アリル位のシリルエーテル選択的酸化法の開発

浜田翔平, 阪本圭織, 宮崎瑛梨, Elghareeb E. Elboray, 小林 祐輔, 古田 巧

日本プロセス化学会 2023 サマーシンポジウム、東京 2023年8月4日

15. 医薬品情報を読み解くための「薬化学」

古田 巧

第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会、山科 2023年6月10日

16. カルコゲン結合で立体制御したウレア型軸性不斉配位子の合成

高橋 暖, 中村 梨那, 太田 萌絵, 井上 拓美, 村井 琢哉, 笹森 貴裕, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧

第21回次世代を担う有機化学シンポジウム、名古屋 2023年5月26日

17. カルコゲン結合で立体制御したビピリジル部を持つ軸性不斉非対称ウレアの合成

高橋 暖, 中村 梨那, 太田 萌絵, 井上 拓美, 村井 琢哉, 笹森 貴裕, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月27日

18. アミドのN-グリコシル化反応における反応中間体の解析

小西 祐史, 浜田 翔平, 古田 巧, 竹本 佳司, 小林 祐輔
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月27日

19. 高度に電子不足なニトロキシルラジカルの合成と触媒活性評価

山崎 理香子, 檜木 結衣, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月27日

20. カルコゲン結合による配座制御ウレアの合成とその物性評価

井上 拓美, 太田 萌絵, 中村 梨那, 網島 唯, 高橋 暖, 笹森 貴裕, 浜田 翔平, 小林 祐輔, 古田 巧
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月27日

21. Electronic Tuning 型ニトロキシル触媒によるベンジル・アリル位のシリルエーテル選択的酸化

浜田 翔平, 阪本圭織, 宮崎瑛梨, 小林 祐輔, 川端猛夫, 古田 巧
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月27日

22. 超原子価ニクトゲン化合物-ブレンステッド酸複合体の合成と応用

石田 渚, 西田 佑希, 浜田 翔平, 古田 巧, 小林 祐輔
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月26日

23. β 位にスルホニル基を有する非天然型アミノ酸の合成法の開発

小林 祐輔, 石本 優太, 元木 香織, 金生 拓真, 鈴木 菜々, 浜田 翔平, 古田 巧
日本薬学会第143年会(北海道札幌市) 2023年3月26日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. カルコゲン結合で構造制御する分子認識型触媒の創製

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2021年4月 - 2024年3月
古田 巧, 小林 祐輔, 浜田 翔平

2. 次世代ペプチド創薬の基盤となる分子技術の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2025年3月

小林 祐輔, 浜田 翔平

3. ニトロキシル型触媒による C-H 酸化反応の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

浜田 翔平

4. 高機能薬物送達人工ペプチドの開発を基盤とする治療薬創製

京都ヘルスサイエンス総合研究センター 共同研究 2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

古田 巧, 椿 一典, 大庭 誠

5. 膜タンパクと脂質の協奏機構解明に向けた分子化学的研究と新規膜受容体機能調整因子の創製

京都薬科大学シナジー共同研究 2023 年 5 月 - 2024 年 3 月

佐藤 毅、古田 巧、服部恭尚、朝比奈 裕子、長谷川 功紀、佐甲靖志

6. ビアリアルカルボン酸構造に基づく距離認識型触媒の創製とアミノ酸のサイト選択的 C-H 官能基化法の開発

有機合成化学協会 研究企画賞 2023 年 4 月 - 2025 年 3 月

浜田 翔平

薬品製造学

論文

1. Regioselective SmI₂-Mediated Radical ipso-Substitution Cyclization for the Construction of Pyrrolophenanthridinone Skeletons: The Synthesis of Amaryllidaceae Alkaloids

Hiroki Iwasaki, Mari Ikemoto, Haruka Shibata, Yuka Shima, Erina Himeno, Naoto Kojima, Masayuki Yamashita, Hisanori Nambu

CHEMICAL & PHARMACEUTICAL BULLETIN 71(7) 515-519 2023年7月1日

2. Thiophene Carboxamide Analogs with Long Alkyl Chains Comprising Ethylene Glycol Units Inhibit Glioblastoma Cell Proliferation by Activating AMPK

Kaito Ohta, Hiromi Ii, Chiami Moyama, Shota Ando, Hisanori Nambu, Susumu Nakata, Naoto Kojima

JOURNAL OF MEDICINAL CHEMISTRY 66(9) 6403-6413 2023年5月

3. Ring-Opening Cyclization of Spirocyclopropanes with Stabilized Phosphorus Ylides: Access to Indane and Azulene Skeletons

Yuta Onuki, Koga Yamazaki, Yuto Masuda, Takayuki Yakura, Hisanori Nambu

ADVANCED SYNTHESIS & CATALYSIS 2023年3月

4. Facile Synthesis of 5-Alkoxy-4-Aryltetrahydrofuran-2-one Using Hypervalent Iodine Reagents

Takuya Matsumoto, Saya Okazaki, Shui Aoki, Aya Niki, Hiroki Iwasaki, Minoru Ozeki, Masayuki Yamashita, Naoto Kojima, Ikuo Kawasaki

Tetrahedron Letters 118 154382-154382 2023年1月

MISC

1. 高反応性スピロシクロプロパンの開裂一環化反応による複素環化合物の新規合成法の開発とその応用

南部 寿則

京都薬科大学紀要 4(1) 30-41 2023年5月29日

講演・口頭発表等

1. D-allulopyranosylation Reaction Using Thioglycoside Prepared Directly from Rare Sugar D-allulose
Kenji Arimitsu, Ikumi Nakazawa, Hiroki Iwasaki, Yoshimi Hirokawa, Naoyoshi Maezaki

The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry 2023年11月21日

2. 新規膠芽腫治療薬の創出を目的とした N-トリエチレングリコール含有アルキルチオフェンカルボキサミドの合成とその生物活性評価

大田海斗, 藤井真人, 茂山千愛美, 安藤翔太, 飯居宏美, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 中田 晋, 小島直人

第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2023 年 11 月 13 日

3. シアナートイオンを求核種として用いるスピロシクロプロパンの開裂-環化反応の開発

南部寿則, 野呂瞳, 佐々木彩夏, 安川瑞起, 岩崎宏樹

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム 2023 年 11 月 7 日

4. SmI₂ を用いた位置選択的イプソ置換環化反応の開発とヒガンバナアルカロイド合成への応用

岩崎宏樹, 柴田遥香, 志磨優佳, 南部寿則

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム 2023 年 11 月 6 日

5. 硫黄イリドを用いるスピロシクロプロパンの環拡大反応の開発

金森百香, 阿曾可那, 大貫悠太, 南部寿則, 矢倉隆之

2023 年度有機合成化学協会北陸セミナー 2023 年 10 月 21 日

6. N-トリエチレングリコール含有アルキル-3-チオフェンカルボキサミド誘導体の合成と膠芽腫に対する生物活性の評価

大田海斗, 飯居宏美, 茂山千愛美, 安藤翔太, 中田晋, 岩崎宏樹, 南部寿則, 小島直人

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

7. 分子内不斉 Heck 反応を用いた(+)-dichroanal A の全合成研究

小関稔, 齊藤雅弥, 福田可南子, 鈴木梨佳子, 山北美憂, 松本卓也, 佐々裕隆, 仁木亜弥, 岩崎宏樹, 小島直人, 川崎郁勇

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

8. 5 位にハロゲン原子を有するアルコールが置換した γ -ラクトン誘導体の合成法に関する検討

松本卓也, 岡崎紗耶, 青木朱衣, 仁木亜弥, 佐々裕隆, 岩崎宏樹, 小関稔, 山下正行, 小島直人, 川崎郁勇

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

9. D-プシコースから調製したチオグリコシドを用いたプシコピラノシル化反応の開発

中澤郁美, 有光健治, 岩崎宏樹, 広川美視, 前崎直容

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

10. SmI₂ を用いたアミノケチルラジカルとアルキンとの環化反応の開発

花木真子, 岩崎宏樹, 吉岡虹太, 南部寿則

第 52 回複素環化学討論会 2023 年 10 月 12 日

11. 高反応性スピロシクロプロパンを用いた有用化合物の合成法の開発

南部寿則

名城大学農学部 天然物有機化学研究室特別研究講演会 2023 年 10 月 6 日

12. ヒガンバナアルカロイド合成を志向した SmI₂ を用いる位置選択的環化反応の開発

志磨優佳, 岩崎宏樹, 柴田遥香, 南部寿則

第 43 回有機合成若手セミナー 2023 年 8 月 8 日

13. SmI₂ を用いたアミノケチルラジカルとアルケンとの閉環反応の検討

伊東咲歩, 岩崎宏樹, 岩本柚葉, 南部寿則

第 43 回有機合成若手セミナー 2023 年 8 月 8 日

14. シアン酸カリウムを用いたスピロシクロプロパンの開裂—環化反応による γ -ラクタム構築法

安川瑞起, 野呂瞳, 佐々木彩夏, 岩崎宏樹, 南部寿則

第 43 回有機合成若手セミナー 2023 年 8 月 8 日

15. 膠芽腫治療薬の創製を指向したチオフェンカルボキサミド誘導体の合成と抗腫瘍効果の評価

大田海斗, 藤井真人, 茂山千愛美, 安藤翔太, 飯居宏美, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 中田 晋, 小島直人

第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2023 年 6 月 23 日

16. 炭素小員環の歪みエネルギーを利用した有用化合物の合成法の開発とその応用

南部寿則

創薬科学フロンティア研究センター講演会 2023 年 4 月 6 日

17. シアン酸カリウムを用いるスピロシクロプロパンの開裂—環化反応の開発

野呂 瞳, 岩崎 宏樹, 小島 直人, 南部 寿則

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

18. ヨウ化サマリウムを用いたスピロシクロプロパンの開環反応の検討

岩崎 宏樹, 山下 智仁, 小島 直人, 南部 寿則

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

19. ヨウ化サマリウムを用いたトリフルオロアセトアミド基をラジカル前駆体とする閉環反応の開発

岩崎 宏樹, 吉岡 虹太, 花木 真子, 山下 正行, 小島 直人, 南部 寿則

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

20. イソキノリン N-オキシドを反応中間体とした 1-アミノイソキノリン誘導体の one-pot 合成反応の開発

岩崎 宏樹, 野村 凜, 山下 正行, 小島 直人, 南部 寿則

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

21. 超原子価ヨウ素試薬を用いた 5-アルコキシ-4-アリアルテトラヒドロフラン-2-オン誘導体の簡便な合成法の開発

松本 卓也, 岡崎 紗耶, 青木 朱衣, 仁木 亜弥, 岩崎 宏樹, 小関 稔, 山下 正行, 小島 直人, 川崎 郁勇

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

22. エチレングリコール単位を含むアルキル基を側鎖に持つチオフェンカルボキサミド誘導体の合成と膠芽腫幹細胞に対する増殖抑制活性

高橋 達哉, 大田 海斗, 竜石 侑璃, 安藤 翔太, 茂山 千愛美, 飯居 宏美, 中田 晋, 岩崎 宏樹, 山下 正行, 南部 寿則, 小島 直人

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

23. アセトゲニンチオフェン誘導体の THF 環部分をトリエチレングリコールに置換した新規誘導体の合成とその抗腫瘍効果評価

大田 海斗, 藤井 真人, 茂山 千愛美, 飯居 宏美, 中田 晋, 岩崎 宏樹, 山下 正行, 南部 寿則, 小島 直人

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

24. シクロペンタン環により配座を固定したアセトゲニンチオフェン誘導体の合成とその作用機序の解明研究

細見 紘幸, 小柴 佐和子, 松本 卓也, 安藤 翔太, 茂山 千愛美, 飯居 宏美, 中田 晋, 岩崎 宏樹, 山下 正行, 南部 寿則, 小島 直人

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

25. 分子内不斉 Heck 反応を鍵反応に用いた(+)-dichroanal A の不斉全合成

小関 稔, 鈴木 梨佳子, 福田 可南子, 山北 美優, 青木 朱衣, 松本 卓也, 仁木 亜弥, 岩崎 宏樹, 小島 直人, 山下 正行, 川崎 郁勇

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 高反応性スピロシクロプロパンの開裂一環化反応を用いる新規環状化合物合成法の開発とその応用

公益財団法人 篷庵社 研究助成 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月

南部寿則

2. イリド求核剤を用いるスピロシクロプロパンの開裂一環化反応による炭素環構築法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

南部 寿則

薬品化学

論文

1. Design and Synthesis of Monobody Variants with Low Immunogenicity

Naoya Iwamoto, Yukino Sato, Asako Manabe, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

ACS Medicinal Chemistry Letters 14(11) 1596-1601 2023年11月9日

2. Helix-based screening with structure prediction using artificial intelligence has potential for the rapid development of peptide inhibitors targeting class I viral fusion

Satoshi Suzuki, Mio Kuroda, Keisuke Aoki, Kumi Kawaji, Yoshiki Hiramatsu, Mina Sasano, Akie Nishiyama, Kazutaka Murayama, Eiichi N. Kodama, Shinya Oishi, Hironori Hayashi

RSC Chemical Biology 5(2) 131-140 2023年11月7日

3. Mirror-Image Single-Domain Antibody for a Novel Nonimmunogenic Drug Scaffold.

Keisuke Aoki, Asako Manabe, Hiroyuki Kimura, Yohei Katoh, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

Bioconjugate chemistry 34(11) 2055-2065 2023年10月26日

4. Design of Synthetic Surrogates for the Macrolactone Linker Motif in Coibamide A

Rikito Suzuki, Daphne R. Mattos, Takashi Kitamura, Rina Tsujioka, Kazuya Kobayashi, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Jane E. Ishmael, Kerry L. McPhail, Shinya Oishi

ACS Medicinal Chemistry Letters 14(10) 1344-1350 2023年10月12日

5. Establishment of an MR1 Presentation Reporter Screening System and Identification of Phenylpropanoid Derivatives as MR1 Ligands.

Takuro Matsuoka, Akira Hattori, Shinya Oishi, Mitsugu Araki, Biao Ma, Toshiki Fujii, Norihito Arichi, Yasushi Okuno, Hideaki Kakeya, Sho Yamasaki, Hiroaki Ohno, Shinsuke Inuki

Journal of Medicinal Chemistry 66(17) 12520-12535 2023年9月14日

6. Construction of a Bicyclo[2.2.2]octene Skeleton via a Visible-Light-Mediated Radical Cascade Reaction of Amino Acid Derivatives with N-(2-Phenyl)benzoyl Groups

Yuki Yoshida, Haruka Takeuchi, Kohei Nakagawa, Toshiki Fujii, Norihito Arichi, Shinya Oishi, Hiroaki Ohno, Shinsuke Inuki

Organic Letters 25(26) 4846-4851 2023年7月7日

講演・口頭発表等

1. VHH 抗体提示 T7 ファージライブラリーの作製と鏡像 VHH 抗体の探索

前田佳夕, 青木啓輔, 眞鍋麻彩子, 大野浩章, 森瀬讓二, 岡昌吾, 大石真也, 野中元裕

第 2 回日本抗体学会学術集会 2023 年 12 月 2 日

2. ヒドロキシプロリンを母核とするプロテアーゼ阻害剤の設計と BACE1 阻害剤探索への適用

小林数也, 川上夏輝, 谷口智奈美, 田中美咲, 木村蘭希, 小紫香穂, 桑野芽, 池本茉由, 服部恭尚, 大石真也

第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2023 年 11 月 14 日

3. Chemical Synthesis of Mirror-image Human Serum Albumin Domain III

Naoya Iwamoto, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Shinya Oishi

第 60 回ペプチド討論会 2023 年 11 月 8 日

4. 金触媒連続環化反応を基盤とした Aspidophylline A の全合成研究

笠置拓実, 田口淳一, 奥村怜司, 大原礼子, 橋本直季, 大石真也, 有地法人, 井貫晋輔, 大野浩章

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム 2023 年 11 月 8 日

5. 可視光酸化還元触媒を用いたラジカルカスケード反応によるビシクロ[2.2.2]オクテン骨格構築反応の開発

井貫晋輔, 吉田悠生, 竹内春佳, 中川航平, 藤井俊樹, 有地法人, 大石真也, 大野浩章

第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム 2023 年 11 月 6 日

6. KOR 作動薬および NK3R 拮抗薬の経口投与によるテストステロン分泌抑制効果の検証

迫野貴大, 棟朝亜理紗, 佐藤真梨萌, 大石真也, 真方文絵, 松田二子

第 49 回神経内分泌学会学術集会 2023 年 10 月 27 日

7. ピロリジン環を基盤とするプロテアーゼ阻害剤設計と BACE1 阻害剤への展開

小林数也, 川上夏輝, 谷口智奈美, 田中美咲, 木村蘭希, 小紫香穂, 桑野芽, 池本茉由, 服部恭尚, 大石真也, 赤路健一

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

8. Generation of VHH antibody-displaying T7 phage library for development of mirror-image VHH antibodies

Kayuu Maeda, Keisuke Aoki, Hiroaki Ohno, Jyoji Morise, Shogo Oka, Shinya Oishi, Nonaka Motohiro

医薬系研究交流サロン 2023 年 9 月 27 日

9. Development of Mirror-Image VHH for a Novel Protein Therapeutics with Less Immunogenicity

Keisuke Aoki, Sakiho Oda, Katsuaki Higashi, Asako Manabe, Hiroyuki Kimura, Shinsuke Inuki, Hiroaki

Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

医薬系研究交流サロン 2023年9月21日

10. 細胞表面のMR1存在量に基づきリガンドスクリーニング法の開発とMAIT細胞制御分子の同定

松岡巧朗, 服部明, 大石真也, 荒木望嗣, 馬彪, 藤井俊樹, 有地法人, 奥野恭史, 掛谷秀昭, 山崎晶, 大野浩章, 井貫晋輔

第65回天然有機化合物討論会 2023年9月14日

11. 鏡の中の世界からの医薬シーズの探索

大石真也

熊本大学理学部講演会 2023年8月31日

12. Inhibitory effect of a KOR agonist and an NK3R antagonist on testosterone secretion in male rats

Takahiro Sakono, Arisa Munetomo, Marimo Sato, Dai Ishiyama, Shinya Oishi, Fumie Magata, Fuko Matsuda

JSPS 二国間交流事業共同セミナー 2023年8月25日

13. Synthesis and Functional Evaluation of a Mirror-Image Monobody for Application to Mirror Image Screening

Yukino Sato, Naoya Iwamoto, Asako Manabe, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

第55回若手ペプチド夏の勉強会 2023年8月9日

14. Coibamide Aの構造活性相関研究：N末端の直鎖状構造の変換

辻岡里菜, 鈴木力斗, Mattos Daphne, 小林数也, Ishmael Jane, McPhail Kerry, 大石真也

第55回若手ペプチド夏の勉強会 2023年8月9日

15. Mirror-Image VHH for Less Immunogenic Protein Therapeutics

Keisuke Aoki, Motohiro Nonaka, Sakiho Oda, Katsuaki Higashi, Asako Manabe, Hiroyuki Kimura, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Shinya Oishi

28th American Peptide Symposium 2023年6月28日

16. Development of a Mirror-image Monobody Scaffold for Less Immunogenic Protein Therapeutics

Naoya Iwamoto, Yukino Sato, Asako Manabe, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

28th American Peptide Symposium 2023年6月28日

17. 免疫原性の低減を志向した鏡像 VHH 抗体の開発

青木啓輔, 野中元裕, 小田幸穂, 東克暁, 眞鍋麻彩子, 木村寛之, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也
創薬懇話会 2023 2023 年 6 月 8 日

18. MR1 の細胞表面量を指標とするリガンドスクリーニング法の開発と MAIT 細胞モジュレーターの同定

松岡巧朗, 服部明, 大石真也, 有地法人, 掛谷秀昭, 山崎晶, 大野浩章, 井貫晋輔
日本ケミカルバイオロジー学会第 17 回年会 2023 年 5 月 27 日

19. 非特異的結合を抑えた合成 VHH 抗体ライブラリーの構築と抗 VEGF 鏡像 VHH 抗体の探索

前田佳夕, 青木啓輔, 大野浩章, 森瀬譲二, 岡昌吾, 大石真也, 野中元裕
第 69 回日本生化学会近畿支部例会 2023 年 5 月 27 日

20. Synthetic Studies of Antibody-like Scaffolds for Mirror-Image Screening

Shinya Oishi

The 19th Akabori Conference 2023 年 5 月 19 日

21. タンパク質間相互作用を標的とする RS ウイルスの新薬候補創出

鈴木聡志, 河治久実, 笹野美奈, 西山瑛絵, 平松佳樹, 林宏典, 児玉栄一, 村山和隆, 橋本浩一, 天野陽斗, 薄井友輔, 大石真也
第 97 回日本感染症学会学術講演会 2023 年 4 月 29 日

22. 新型コロナウイルスへの創薬に応用できるタンパク質間相互作用

鈴木聡志, 河治久実, 平松佳樹, 林宏典, 児玉栄一, 村山和隆, 黒田実央, 大石真也
第 97 回日本感染症学会学術講演会 2023 年 4 月 29 日

23. タンパク質間相互作用を応用した RS ウイルスの新薬候補創出

鈴木聡志, 河治久実, 笹野美奈, 西山瑛絵, 平松佳樹, 林宏典, 村山和隆, 橋本浩一, 天野陽斗, 薄井友輔, 大石真也, 児玉栄一
第 126 回日本小児科学会学術集会 2023 年 4 月 14 日

24. 新型コロナウイルスへの創薬に応用できるタンパク質間相互作用

鈴木聡志, 河治久実, 林宏典, 村山和隆, 黒田実央, 大石真也, 児玉栄一
第 126 回日本小児科学会学術集会 2023 年 4 月 14 日

25. 大環状 BACE1 阻害剤を基盤とする P4 位置換基の構造活性相関研究

川北百花, 大谷拓也, 服部恭尚, 大石真也, 小林数也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

26. 免疫原性の低減を志向した鏡像 VHH 抗体の開発

青木啓輔, 野中元裕, 小田幸穂, 東克暁, 眞鍋麻彩子, 木村寛之, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

27. 可視光レドックス触媒を用いた脱芳香化反応によるビスクロ[2.2.2]オクテン骨格構築法の開発

吉田悠生, 井貫晋輔, 竹内春佳, 中川航平, 有地法人, 大石真也, 大野浩章
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

28. Coibamide A の構造活性相関研究 : N 末端の直鎖状構造の変換

辻岡里菜, 鈴木力斗, Daphne Mattos, 小林数也, Jane Ishmael, Kerry McPhail, 大石真也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

29. 免疫チェックポイントを調節するタンパク質の化学合成研究

岩本直也, 佐々木順平, 青木啓輔, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

30. 創薬モダリティとしての応用を指向した鏡像モノボディの化学合成法の確立と応用

佐藤志乃, 岩本直也, 眞鍋麻彩子, 井貫晋輔, 大野浩章, 野中元裕, 大石真也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

31. Avionin 構造における α -アミノ不斉四置換炭素構築法の開発と Microvionin の合成研究

山口亞由太, 井貫晋輔, 有地法人, 大石真也, 大野浩章
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

32. 鏡の中の中分子化合物からの医薬シーズの探索技術

大石真也
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

33. 鏡像タンパク質を活用した創薬研究

大石真也
大阪大学蛋白質研究所セミナー : タンパク質に挑戦する化学 2023 年 3 月 2 日

34. タンパク質間相互作用を応用し RS ウイルス、新型コロナウイルスへ新薬を創出

鈴木聡志, 天野陽斗, 薄井友輔, 黒田実央, 河治久実, 笹野美奈, 臼井恵美子, 村上周明, 奥田春香, 西山瑛絵, 平松佳樹, 林宏典, 橋本浩一, 村山和隆, 大石真也, 児玉栄一
東北大学医学系研究科大学院生リトリート 2023 年 2 月 26 日

35. 鏡像タンパク質を活用した創薬研究

大石真也

第12回有機「ものづくり」化学研究会 2023年1月8日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. Modulation of Protein Biogenesis and Secretion by Natural Product Translocon Ligands

NIH 2019年6月 - 2027年7月

Shinya Oishi

2. アルツハイマー病予防・治療薬への展開を指向した新規大環状 BACE1 阻害剤の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023年4月 - 2026年3月

小林 数也

3. 鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スキャフォールドの創製と応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2026年3月

大石 真也, 野中 元裕

4. 家畜の排卵・卵胞発育制御法の開発に資するエストロゲンフィードバック機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(S) 基盤研究(S) 2021年7月 - 2026年3月

東村 博子, 大蔵 聡, 平林 真澄, 羽田 真悟, 真方 文絵, 上野山 賀久, 大石 真也, 井上 直子, 中村 翔

5. 受容体共役因子による B 型肝炎ウイルス感染制御と創薬研究

肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業 2022年4月 - 2025年3月

大石 真也, 小林 数也

6. CDR グラフトによる抗体様分子ライブラリーの開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 2022年6月 - 2024年3月

野中 元裕, 大石 真也

7. コロナウイルス制圧のための新規膜融合阻害ペプチドの創出と合理的な設計法の確立

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 挑戦的研究(萌芽) 2021年7月 - 2024年3月

児玉 栄一, 大石 真也

8. ヒドロキシプロリンを基盤とする汎用的プロテアーゼ阻害剤設計戦略の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020年4月 - 2024年3月

小林 数也

9. 抗ウイルス薬シーズ探索のための鏡像スクリーニング系の構築と応用

武田科学振興財団 薬学系研究奨励 2020年11月 - 2023年3月

大石真也

10. 構造解析・生物進化学による学際融合は、迅速かつ有効なペプチド PPI 創製に有用である

AMED 創薬基盤推進研究事業 2020年6月 - 2023年3月

大石真也, 小林数也

11. 免疫原性に起因する副作用の回避を指向した鏡像型 VHH 抗体の開発

AMED 創薬基盤推進研究事業 2020年6月 - 2023年3月

野中元裕, 大石真也

論文

1. Dual Chalcogen-Bonding Interactions for the Conformational Control of Urea

Takumi Inoue, Moe Ota, Yui Amijima, Haru Takahashi, Shohei Hamada, Seikou Nakamura, Yusuke Kobayashi, Takahiro Sasamori, Takumi Furuta

Chemistry - A European Journal 29(60) e202302139 2023年10月26日

2. Production of Dihydroisocoumarins by Callus Induction from *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii* Leaves

Junko Tsukioka, Tomoka Takami, Yuki Ario, Seikou Nakamura

Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(11) 832-837 2023年11月1日

3. Quantitative analysis of taxiphyllin, a cyanogenic glycoside, in the leaves of *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii*

Junko Tsukioka, Yutaro Ohki, Momona Nakao, Seikou Nakamura

Journal of Natural Medicines 77(4) 978-985 2023年9月

4. Antiproliferative Activities of Diterpenes from Leaves of *Isodon trichocarpus* against Cancer Stem Cells

Seikou Nakamura, Sachiko Sugimoto, Taichi Yoneda, Akari Shinozaki, Moe Yoshiji, Takahiro Matsumoto, Souichi Nakashima, Hisashi Matsuda

Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(7) 502-507 2023年7月1日

5. Comparison of Growth in *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii* Grown in Different Soil pH and Quantitative Analysis of Its Sweetness-Related Constituents

Junko Tsukioka, Seikou Nakamura

Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(5) 368-373 2023年5月1日

6. Plantainoside B in *Bacopa monniera* binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β

Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Aoi Hanaki, Mizuki Okazaki, Erika Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito, Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata

Biological and Pharmaceutical Bulletin 46(2) 320-333 2023年2月1日

7. One-Pot Synthesis of Carbazoles by a Domino Reaction Using Microwave Heating and Antiproliferative Activities of Constituents from *Murraya* Plants Against Cancer Stem Cells
Kouta Ugawa, Momona Nakao, Chikako Sawada, Takahiro Matsumoto, Takahiro Kitagawa, Yutaro Ohki, Kousuke Araki, Seikou Nakamura
HETEROCYCLES 106(4) 725-725 2023 年

8. 7,8-Dihydroxy-3-(4'-hydroxyphenyl)coumarin inhibits invasion and migration of osteosarcoma cells
Yuki Sugiyama, Seikou Nakamura, Yuichi Tokuda, Masakazu Nakano, Yasunao Hattori, Hiroki Nishiguchi, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Masayuki Yamashita, Kei Tashiro, Eishi Ashihara
Biochemical and Biophysical Research Communications 638 200-209 2023 年 1 月

MISC

1. New biofunctional effects of oleanane-type triterpene saponins
Hisashi Matsuda, Toshio Morikawa, Seikou Nakamura, Osamu Muraoka, Masayuki Yoshikawa
Journal of Natural Medicines (2023) 77(4), 644-664 2023 年 7 月 12 日

講演・口頭発表等

1. がん幹細胞に対する駆逐作用を有する香辛料オオバグキツ (*Murraya koenigii*, 葉部) 由来カルバゾール成分の合成
川竹永伽、大城優太郎、市岡 桜、中村誠宏
第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

2. 天然由来成分シクロヘキセニルカルコン panduratin A のがん細胞に対する抑制作用および親和性を示すタンパク質の解明研究
金子萌恵、石倉玲愛、中村誠宏
第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

3. アマチャ (*Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii*) のカルスにおけるデヒドロイソクマリン生成の検討
高見朋花、月岡淳子、有尾友希、中村誠宏
第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

4. マイクロ波加熱還流を利用したカルバゾール誘導体の合成とアルカロイド合成への展開
峻 朋美、奥田晴生、大城優太郎、中村誠宏
第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

5.オオバゲッキツ葉部由来の酵素群を利用したグラニルカルバゾールの合成

市岡 桜、池田匠吾、川竹永伽、月岡淳子、中村誠宏

第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

6.生細胞イメージングシステムを利用した生薬川骨由来成分の抗がん作用の機序解析

原みなみ、澤田智佳子、齊藤洋平、中山祐治、中村誠宏

第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

7.がん幹細胞に対する駆逐作用を有するアカネ (*Rubia argyi*, 根部) 由来成分の探索研究

清水晴志、月岡淳子、澤田智佳子、中村誠宏

第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 9 月 25 日

8.がん幹細胞に対する駆逐作用を有する香辛料オオバゲッキツ (*Murraya koenigii*, 葉部) 由来カルバゾール成分の合成

大城優太郎、澤田智佳子、中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

9.がん幹細胞に対する駆逐作用を有する染料アカネ (*Rubia argyi*, 根部) 由来成分の探索研究

山本怜耶、澤田智佳子、松本崇宏、月岡淳子、中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

10.既存の抗がん薬とは異なる作用機序を有する薬用植物由来抗がん薬の開発研究 – 生細胞イメージングシステムを利用した生薬川骨由来成分の抗がん作用の機序解析 –

澤田智佳子、中西友里、橋本英里香、齊藤洋平、中山祐治、中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

11.コショウ (*Piper nigrum*) 成分 piperine の Vero 細胞における単純ヘルペスウイルス 1 型への影響

池田匠吾、苗村朋世、中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

12.がん幹細胞に対する駆逐作用を有するシソ科クロバナヒキオコシ (*Isodon trichocarpus*) 由来ジテルペン成分の探索研究

中尾桃菜、杉本幸子、松本崇宏、中嶋聡一、松田久司、中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

13.オオツツラフジ (*Sinomenium acutum*) 茎および根茎中のがん幹細胞増殖抑制活性物質の探索

大西英里加、松本崇宏、北川翔大、岡山真也、中村誠宏、太田智絵、吉田達貞、渡辺徹志

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

14.薬用植物から得られる化学的に不安定な成分を使用した機能性化合物の開発研究

中村誠宏

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

15.*Bacopa monniera* に含有される A β 結合物質 *plantainoside B* による A β 凝集体の検出と神経保護作用

福田愛菜、中嶋聡一、尾田好美、西村周泰、河嶋秀和、木村寛之、扇田隆司、河下映里、石原慶一、花木 葵、岡崎瑞紀、松田英里香、田中雪衣、中村誠宏、松本崇宏、秋葉聡、斎藤博幸、松田久司、高田和幸

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(B)

2023 年 4 月 - 2027 年 3 月 中村誠宏, 齊藤洋平, 小川慶子, 芦原英司, 松本崇宏, 木村寛之, 中田晋

2.アシクロビルリン酸化酵素制御に基づく薬用植物由来抗単純ヘルペスウイルス薬の開発

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2020 年 4 月 - 2023 年 3 月 中村誠宏, 小川慶子, 中嶋聡一

3.糖化タンパク質による神経新生阻害をターゲットとする新規認知症治療薬シード探索研究

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2021 年 4 月 - 2024 年 3 月 中嶋聡一, 中村誠宏

4.がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(B)

2020 年 4 月 - 2024 年 3 月 松本崇宏, 太田智絵, 中村誠宏, 渡部匡史, 渡辺徹志, 齊藤洋平

5.ドーパミン受容体を介する肺線維化の病因機序の解明と新規治療薬の開発

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2020 年 4 月 - 2023 年 3 月 川人 豊, 中村誠宏, 細木誠之, 河野正孝

論文

1. Framework-Directed Amino-Acid Insertions Generated over 55-Fold Affinity-Matured Antibody Fragments That Enabled Sensitive Luminescent Immunoassays of Cortisol.

Yuki Kiguchi, Izumi Morita, Kouya Yamaki, Shigehiko Takegami, Norihiro Kobayashi

Biological & pharmaceutical bulletin 46(12) 1661-1665 2023 年

講演・口頭発表等

1. 解離非依存型 CAP 法により取得した高親和力変異 scFv を用いるコルチゾールの高感度生物発光 ELISA

木口裕貴, 森田いずみ, 武上茂彦, 小林典裕

第 2 回日本抗体学会学術大会 2023 年 12 月 1 日

2. 間接競合法による電気化学発光イムノアッセイへの多粒子結合型リポソームの適用

田中亜季, 高井涼太, 武上茂彦

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2023 年 7 月 29 日

3. 電気化学発光における共反応物の探索とルミノフォア-共反応物の単一分子の設計

目黒絢音, 田中亜季, 武上茂彦

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2023 年 7 月 28 日

4. 分子インプリントポリマーとアルギン酸ゲルを組み合わせたワルファリンインプリントゲルに対するワルファリンの吸着に関する検討

澤田果奈, 田中亜季, 小西敦子, 武上茂彦

第 83 回分析化学討論会 2023 年 5 月

5. イクオリン生物発光に及ぼす ATP の影響

加藤史帆里, 田中亜季, 小西敦子, 武上茂彦

第 83 回分析化学討論会 2023 年 5 月

6. 電気化学発光イムノアッセイへの多粒子結合型リポソーム適用に関する基礎的検討

田中亜季, 武上茂彦

第 83 回分析化学討論会 2023 年 5 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.多粒子結合イオン液体ナノ粒子を用いた超高感度電気化学発光イムノアッセイ法の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
武上茂彦

2.次世代診断薬の開発を支援する効率的な高親和力変異抗体創製法の確立
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022年4月 - 2024年3月
木口 裕貴

論文

1. Mirror-Image Single-Domain Antibody for a Novel Nonimmunogenic Drug Scaffold.
Keisuke Aoki, Asako Manabe, Hiroyuki Kimura, Yohei Katoh, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi
Bioconjugate chemistry 34(11) 2055-2065 2023 年 11 月 15 日
2. 高たんぱく食を給餌して高強度の運動負荷を与えたマウスの運動パフォーマンスへの影響
橋本優希, 義澤克彦, 井原 希, 中田大介, 寺尾啓二, 竹之内明子, 内藤行喜, 安井裕之, 吉川 豊
Functional Food Research 19 ffr22-0705 2023 年
3. Effect of Water on Direct Radioiodination of Small Molecules/Peptides Using Copper-Mediated Iododeboronation in Water-Alcohol Solvent
Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Sumina Koike, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui
ACS Omega 8(27) 24418-24425 2023 年 6 月 27 日
4. Syntheses of Cu(II), Ni(II), and Zn(II) complexes with 2-acetylpyrazine N(4)-phenylthiosemicarbazone and evaluation of their antidiabetic effects
Chihiro Tanaka, Yuki Naito, Yutaka Yoshikawa, Hiroyuki Yasui
Metallomics Research 3(2) reg01-reg12 2023 年 6 月
5. Novel [¹¹¹In]In-BnDTPA-EphA2-230-1 Antibody for Single-Photon Emission Computed Tomography Imaging Tracer Targeting of EphA2
Takenori Furukawa, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Takumu Yamada, Takumi Iwasawa, Yusuke Yagi, Kazunori Kato, Hiroyuki Yasui
ACS Omega 8(7) 7030-7035 2023 年 2 月 9 日
6. Plantainoside B in Bacopa monniera binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β .
Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Aoi Hanaki, Mizuki Okazaki, Erika Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito, Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata
Biol. Pharm. Bull 46(2) 320-333 2023 年 2 月 1 日

講演・口頭発表等

1. 造血幹細胞移植患者におけるポサコナゾール血中濃度に影響を与える因子の解析～薬剤肝代謝率と遺伝子多型の影響～

安井友佳子, 岡山裕介, 久野雅智, 康 秀男, 柴多 渉, 掛屋 弘, 安井裕之

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月 4 日

2. 硫黄化したヒノキチオール/亜鉛錯体の合成とマウス皮膚移行性の検討

鎌田愛莉, 安井裕之, 吉川 豊

第 73 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

3. COVID-19 重症化と低亜鉛血症との連関から私たちが学ぶべきこと－これからの健康格差縮小とゼロ次予防に向けて－

安井裕之

第 34 回日本微量元素学会学術集会 シンポジウム『亜鉛は未来を拓く「がん・生殖・COVID-19」』2023 年 9 月 15 日

4. $^{65}\text{Cu}/^{63}\text{Cu}$ の安定同位体比分析を用いた病態診断法の開発－潰瘍性大腸炎を取り上げて－

武田里佳子, 葛原寛子, 嶋田佳子, 安井裕之

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2023 年 7 月 29 日

5. 亜鉛輸送体の発現制御を基軸とした亜鉛代謝維持機構の理解

西藤有希奈, 安井裕之, 神戸大朋

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 若手シンポジウム『分析科学で代謝が分かる』2023 年 7 月 28 日

6. ホウ素含有医薬品の生体試料中分析を目指した誘導結合プラズマ質量分析法 (ICP-MS) によるホウ素定量法の開発

亀山佳世, 土井裕巴, 奥野杏佳音, 木村寛之, 安井裕之

第 35 回バイオメディカル分析科学シンポジウム 2023 年 7 月 28 日

7. ポリコナゾールの血中トラフ濃度の個体間変動に影響する因子の探索と遺伝子多型情報を用いない血中濃度予測式の提案

安井友佳子, 山本圭城, 石坂敏彦, 安井裕之

第 39 回日本 TDM 学会・学術大会 2023 年 6 月 24 日

8. COVID-19 重症化と血清亜鉛値の連関解析

安井裕之

キンカ京都化学者クラブ 第 396 回例会 2023 年 6 月 3 日

9. 老化に伴う認知行動の変容に関連する生体金属の脳局所動態

安井裕之

第76回日本酸化ストレス学会学術集会 若手の会シンポジウム『生体金属を捉える・分析する・活かす』2023年5月24日

10. 褐色脂肪組織を標識するイメージングプローブの開発

藤田義人, 李 瀛, 南野寛人, 村上隆亮, 何 雨舟, 木村寛之, 古田愛美, 磯村 望, 武居晃平, 張 靖維, 後藤 剛, 川原崎聡子, 稲垣暢也

第66回日本糖尿病学会年次学術集会 2023年5月13日

11. Bacopa monniera に含有される A β 結合物質 plantainoside B による A β 凝集体の検出と神経保護作用

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 河嶋秀和, 木村寛之, 扇田隆司, 河下映里, 石原慶一, 花木葵, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 中村誠宏, 松本崇宏, 秋葉聡, 斎藤博幸, 松田久司, 高田和幸

日本薬学会第143年会 2023年3月26日

13. ホウ素を含む有機化合物の体内動態解析を目指した誘導結合プラズマ質量分析法 (ICP-MS) によるホウ素定量法の開発

亀山佳世, 土井裕巴, 奥野杏佳音, 木村寛之, 安井裕之

日本薬学会第143年会 2023年3月28日

13. 銅触媒を用いた放射性ヨウ素標識反応と固相合成法を組み合わせたワンポット標識

近藤悠斗, 木村寛之, 河嶋秀和, 服部恭尚, 安井裕之

日本薬学会第143年会 2023年3月28日

14. チオウレアおよびその関連化合物は一重項酸素ならびにヒドロキシラジカルに対して高い消去活性を有する生体適合性の抗酸化物質である。

岡本未奈子, 安井裕之

日本薬学会第143年会 2023年3月27日

15. 小腸炎における亜鉛の役割

大塚勇輝, 辻井大晴, 池田一生, 安井裕之, 天ヶ瀬紀久子

日本薬学会第143年会 2023年3月27日

16. Erythropoietin-producing hepatocellular receptor A2 イメージングプローブとしての [125 I]EFT-7 の開発研究

古川武典, 木村寛之, 志賀智華, 吉村茜音, 屋木祐亮, 河嶋秀和, 安井裕之

日本薬学会第143年会 2023年3月26日

17. ^{111}In 標識-抗 EphA2 抗体による SPECT プロブの合成と評価

佐々木美音, 木村寛之, 古川武典, 山田拓武, 岩澤卓弥, 加藤和則, 安井裕之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

18. DNFB の低用量塗布によるアトピー性皮膚炎モデルマウスの作製と亜鉛ヒノキチオール錯体軟膏による治療効果

清水 黎, 柏木彩花, 際本有加, 安原駿介, 森口有里, 安井裕之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

19. 亜鉛欠乏ラットにおける UVB 誘発性皮膚炎症に対する亜鉛アスピリン錯体の抑制効果

梶村紗希, 赤木彩希, 小森靖子, 西藤有希奈, 安井裕之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

20. 新規糖連結白金錯体と ^{191}Pt 標識体のマウスにおける体内分布評価

面川真里奈, 木村寛之, 初川雄一, 河嶋秀和, 安井裕之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

21. がん細胞株 Panc-1 担がんモデルマウスを用いた ^{10}B -borono phenyl alanine の体内分布評価

奥野杏佳音, 木村寛之, 亀山佳世, 小池澄奈, 河村優華, 安井裕之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

22. EWOD を用いた微量放射性医薬品の自動調製技術

茂木 克雄, 木村寛之, 高田尚樹

第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 2023 年 2 月 3 日 一般社団法人日本臨床微生物学会

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 亜鉛要求酵素の活性変動を分子基盤とした炎症性腸疾患の病態解析と新規治療戦略の探索

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

安井裕之

2. 原発性アルドステロン症の核医学検査法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

木村寛之

3. 亜鉛錯体を用いたインスリン抵抗性改善効果・糖尿病の発症予防効果へのチャレンジ

日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2021 年 8 月 - 2023 年 3 月

内藤行喜

4.RT/AR が切り開く医薬品調製デジタルトランスフォーメーション

科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) トライアウト 2022年10月 - 2024年3月
木村寛之

5.分子量毎のメタロミクス解析による新規生活習慣病発症危険因子の網羅的検討

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(開拓) 2023年6月 - 2026年3月
林 朝茂, 佐藤恭子, 安井裕之, 康 秀男

論文

1. Structural flexibility of apolipoprotein E-derived arginine-rich peptides improves their cell penetration capability

Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Akiko Usui, Kazuchika Nishitsuji, Kenji Uchimura, Yasuhiro Abe, Ryuji Kawano, Monika I. Konaklieva, Mart Reimund, Alan T. Remaley, Yoji Sato, Ken-ichi Izutsu, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 13 19396 2023年11月8日

2. Amyloidogenic 60–71 deletion/ValThr insertion mutation of apolipoprotein A-I generates a new aggregation-prone segment that promotes nucleation through entropic effects

Norihiro Namba, Takashi Ohgita, Hiroko Tamagaki-Asahina, Kazuchika Nishitsuji, Toshinori Shimanouchi, Takeshi Sato, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 13 18514 2023年10月28日

3. Intramolecular interaction kinetically regulates fibril formation by human and mouse α -synuclein.

Takashi Ohgita, Hiroki Kono, Izumi Morita, Hiroyuki Oyama, Toshinori Shimanouchi, Norihiro Kobayashi, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 13 10885 2023年7月5日

4. Plantainoside B in *Bacopa monniera* binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β .

Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Aoi Hanaki, Mizuki Okazaki, Erika Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito, Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata

Biol. Pharm. Bull 46(2) 320-333 2023年2月

5. The plasma membrane of focal adhesions has a high content of cholesterol and phosphatidylcholine with saturated acyl chains

Hiroshi Tachibana, Kodai Minoura, Tomohiro Omachi, Kohjiro Nagao, Takafumi Ichikawa, Yasuhisa Kimura, Nozomu Kono, Yuta Shimanaka, Hiroyuki Arai, Kazumitsu Ueda, Noriyuki Kioka

Journal of Cell Science 136(16) jcs260763 2023年

6. Organelle-selective click labeling coupled with flow cytometry allows pooled CRISPR screening of genes involved in phosphatidylcholine metabolism
Masaki Tsuchiya, Nobuhiko Tachibana, Kohjiro Nagao, Tomonori Tamura, Itaru Hamachi
Cell Metabolism 35(6) 1072-1083 2023 年

7. Cellular function of (a)symmetric biological membranes (Review)
Kohjiro Nagao, Masato Umeda
Emerging Topics in Life Sciences 7(1) 47-54 2023 年

MISC

1. 私が生体膜脂質を研究する理由～若手研究者, そして若手教育者としての選択～
長尾 耕治郎
膜 (MEMBRANE) 48(5) 223-225 2023 年 9 月

2. 膜脂質を介する低温適応の新規メカニズムの発見 : 細胞自律的な細胞内温度制御
村上 光, 長尾 耕治郎, 梅田 眞郷
低温科学 81 27-36 2023 年 3 月

3. 脂質膜相互作用を基盤としたアポリポタンパク質の構造機能研究
斎藤博幸
膜 (Membrane) 48 (1) 31-37 2023 年 1 月

講演・口頭発表等

1. リン脂質分子を介する “しなやかな” 細胞応答
長尾 耕治郎
第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 15 日

2. リン脂質のリモデリング解析から迫る細胞機能の理解
長尾 耕治郎
日本膜学会「第 45 年会」・「膜シンポジウム 2023」合同大会 2023 年 11 月 20 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. アミロイド共存分子によるタンパク質凝集・線維化制御機構の解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月
斎藤 博幸

2. 「しなやかさ生物学」の創成に向けた総括研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究(B) 2023年4月 - 2026年3月

氏原 嘉洋, 土谷 正樹, 長尾 耕治郎, 原 雄二, 片野坂 友紀

3. 膜脂質による細胞応答のしなやかさ制御

日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究(B) 2023年4月 - 2026年3月

長尾 耕治郎

4. ショウジョウバエの温度応答と適応を決定づける脂質の同定

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2021年4月 - 2025年3月

曾我部 隆彰, 長尾 耕治郎

5. 細胞外基質による細胞機能制御機構の包括的理解とその応用基盤の研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 2021年4月 - 2025年3月

木岡 紀幸, 阿部 雄一, 長尾 耕治郎, 小段 篤史

6. 膜脂質リモデリングを介する細胞自律的な温度適応機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月

長尾 耕治郎

論文

1. Development of conformationally restricted negamycin derivatives for potent readthrough activity
Noriko Omura, Akihiro Taguchi, Tomoki Kuwahara, Keisuke Hamada, Mizuki Watanabe, Masanori Nakakuki, Sho Konno, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Toshifumi Nomura, Satoshi Shuto, Yoshio Hayashi
ACS Medicinal Chemistry Letters 2023年12月
2. Precision engineered peptide targeting leukocyte extracellular traps mitigate acute kidney injury in Crush syndrome
Koshu Okubo, Kentaro Takayama, Hiroshi Kawakami, Kiriko Iida, Hiroaki Miyauchi, Yoshimi Roppongi, Hiroaki Ikeyama, Matsuhiko Hayashi, Seitaro Fujishima, Junichi Sasaki ...
Biochemical and Biophysical Research Communications 671 173-182 2023年9月
3. Molecular species profiles of plasma ceramides in different clinical types of X-linked adrenoleukodystrophy
Katsuya Morito, Ryota Shimizu, Hanif Ali, Akina Shimada, Tohru Miyazaki, Naoko Takahashi, M Motiur Rahman, Kazuki Tsuji, Nobuyuki Shimosawa, Michiyasu Nakao, Shigeki Sano, Momoyo Azuma, Meera Nanjundan, Kentaro Kogure, Tamotsu Tanaka
The Journal of Medical Investigation 70(3.4) 403-410 2023年8月
4. Transient receptor potential ankyrin 1 in taste nerve contributes to the sense of sweet taste in mice
Kenjiro Matsumoto, Mayu Kamide, Kunitoshi Uchida, Mitsuki Takahata, Runa Shichiri, Yuka Hida, Yumi Taniguchi, Akihiro Ohishi, Makoto Tominaga, Kazuki Nagasawa, Shinichi Kato
Biological & pharmaceutical bulletin 46(7) 939-945 2023年7月
5. X-ray conformation and structure-activity relationships of MA026, a reversible tight Junction opener
Minagi Mukaiyama, Chihiro Uchiyama, Akane Fukuda, Yoshiki Nakazawa, Yuka Kuramochi, Yudai Shibata, Sho Konno, Kyohei Muguruma, Naohiro Matsugaki, Tomo Asari, Kazuyoshi Ogawa, Akihiro Taguchi, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Yoko Nagumo, Toshiya Senda, Yoshio Hayashi, Takeo Usui
Journal of Medicinal Chemistry 66(13) 8717-8724 2023年6月

6. Establishment of one-pot disulfide-driven cyclic peptide synthesis with a 3-nitro-2-pyridinesulfenate
Hayate Shida, Akihiro Taguchi, Sho Konno, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Yoshio Hayashi
Chemical & Pharmaceutical Bulletin 71(6) 435-440 2023 年 6 月
7. Increasing skeletal muscle mass in mice by non-invasive intramuscular delivery of myostatin inhibitory peptide by iontophoresis
Kohki Michiue, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Yoshio Hayashi, Kentaro Kogure
Pharmaceuticals (Basel, Switzerland) 16(3) 2023 年 3 月
8. Inactivation of myostatin by photooxygenation using functionalized d-peptides
Hideyuki Okamoto, Shuko Amber Murano, Kaoru Ikekawa, Masahiro Katsuyama, Sho Konno, Akihiro Taguchi, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Yoshio Hayashi
RSC Medicinal Chemistry 14(2) 386-392 2023 年 2 月
9. Peroxisomes attenuate cytotoxicity of very long-chain fatty acids
Hanif Ali, Miyu Kobayashi, Katsuya Morito, Rumana Yesmin Hasi, Mutsumi Aihara, Junji Hayashi, Ryushi Kawakami, Koichiro Tsuchiya, Kazunori Sango, Tamotsu Tanaka
Biochimica et Biophysica Acta. Molecular and Cell Biology of Lipids 1868(2) 159259-159259
2023 年 2 月

講演・口頭発表等

1. Evaluation of hypothalamic messenger RNA levels of neuromedin U and its receptors in mice with decreased sociality by chronic social defeat stress
Yui Suzuki, Asuka Nomoto, Katsuya Morito, Kazuki Nagasawa, Kentaro Takayama
第 60 回ペプチド討論会 2023 年 11 月
2. Doxorubicin decreases sweet taste sensitivity in mice
Keisuke Mogi, Misaki Azuma, Shiori Iwaki, Chisaki Yoshioka, Katsuya Morito, Kentaro Takayama, Kazuki Nagasawa
第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月
3. 慢性社会敗北ストレス負荷マウスの大脳皮質における生理活性スフィンゴ脂質組成の変動と社会性低下との関連
森戸克弥, 西村由紀, 原悠介, 羽尻光佑, 木村涼美, 高山健太郎, 長澤一樹
第 96 回日本生化学会大会 2023 年 10 月

4. ドキソルビシン投与に伴ったマウス甘味感受性変動に関する研究
茂木啓佑, 東実咲, 岩城汐里, 吉岡千咲, 森戸克弥, 高山健太郎, 長澤一樹
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月
5. 老齢マウスにおけるマイオスタチン阻害ペプチドの筋肥大効果に対する投与量依存性の解析
和田哲也, 西川美里, 森戸克弥, 長澤一樹, 高山健太郎
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月
6. マイオスタチン阻害ペプチドのマウス筋肉内投与による筋肥大に伴う筋分化マーカーの発現変動解析
西川奈津希, 玉木理菜, 西川美里, 和田哲也, 森戸克弥, 長澤一樹, 高山健太郎
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月
7. Doxorubicin 投与マウスにおける甘味感受性の変化
茂木啓佑, 東実咲, 岩城汐里, 吉岡千咲, 森戸克弥, 高山健太郎, 長澤一樹
日本味と匂学会第 57 回大会 2023 年 9 月
8. マウスにおけるマイオスタチン阻害ペプチドの筋肥大効果に対する投与量依存性と加齢の影響の解析
西川美里, 寺西里紗, 和田哲也, 森戸克弥, 長澤一樹, 高山健太郎
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
9. 高脂肪食誘発性肥満マウスにおけるマイオスタチン阻害ペプチド MID-35 の筋肥大効果の評価
寺西里紗, 西川美里, 森戸克弥, 長澤一樹, 高山健太郎
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
10. 2 型ニューロメジン U 受容体選択的ペプチドアゴニストのマウス鼻腔内投与が摂食およびストレス応答行動に与える影響の解析
野本明日香, 鈴木優衣, 森戸克弥, 長澤一樹, 高山健太郎
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
11. PEG 修飾リポソーム化オキサリプラチン投与マウスにおける不安様及びうつ様行動の誘発に関する研究
茂木啓佑, 森戸克弥, 高山健太郎, 石田竜弘, 長澤一樹
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
12. マウス海馬における社会敗北ストレス負荷に伴う生理活性脂質代謝の変動解析
西村由紀, 森戸克弥, 原悠介, 羽尻光佑, 高山健太郎, 長澤一樹
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 食欲刺激ホルモン・グレリンの産生におけるペルオキシソームでのβ酸化の役割解明
公益財団法人三島海雲記念財団 2023年度 個人研究奨励金 2023年7月 - 2024年6月
森戸克弥
2. マイオスタチンとアクチビンのデュアル阻害に基づく先端的な骨格筋増強ペプチドの創出
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023年4月 - 2026年3月
高山 健太郎
3. 抗がん剤のうつ病発症リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証
日本学術振興会: 科学研究費助成事業 基盤研究 C
2022年4月 - 2026年3月 長澤一樹, 森戸克弥, 高山健太郎, 村木優一
4. 白血球細胞外トラップを標的としたクラッシュシンドローム新規治療薬の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2026年3月
平橋 淳一, 高山 健太郎
5. 好酸球性副鼻腔炎に対するニューロメジンの機能解析と治療薬への応用
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022年4月 - 2025年3月
若林 健一郎, 神崎 晶, 高山 健太郎
6. 1型ニューロメジン U 受容体アンタゴニストの創出と2型炎症克服のための創薬基盤構築
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020年4月 - 2023年3月
高山 健太郎

論文

1. Antiproliferative activities of diterpenes from leaves of *Isodon trichocarpus* against cancer stem cells
Seikou Nakamura, Sachiko Sugimoto, Taichi Yoneda, Akari Shinozaki, Moe Yoshiji, Takahiro Matsumoto, Souichi Nakashima, Hisashi Matsuda
Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(7) 502-507 2023 年
2. Chemical structures and anti-proliferative effects of *Valeriana fauriei* constituents on cancer stem cells
Takahiro Matsumoto, Hayato Yoshikawa, Takahiro Kitagawa, Daisuke Imahori, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Tetsushi Watanabe
Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(7) 495-501 2023 年
3. Chemical structures and cell death inducing activities of the metabolites of *Aspergillus terreus*
Takahiro Matsumoto, Masaya Okayama, Hayato Yoshikawa, Shifu Maeda, Takahiro Kitagawa, Tetsushi Watanabe
Heterocycles 106 707-715 2023 年
4. Azaphilones produced by *Penicillium maximae* with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell.
Takahiro Matsumoto, Erika Ohnishi, Takahiro Kitagawa, Masaya Okayama, Youhei Saito, Hayato Yoshikawa, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Yuji Nakayama, Tetsushi Watanabe
Genes and Environment 45(1) 5 2023 年
5. One-Pot synthesis of carbazoles by a domino reaction using microwave heating and antiproliferative activities of constituents from *Murraya* plants against cancer stem cells
Kouta Ugawa, Momona Nakao, Chikako Sawada, Takahiro Matsumoto, Takahiro Kitagawa, Yutaro Ohki, Kousuke Araki, Seikou Nakamura
Heterocycles 106(4) 725-733 2023 年
6. Plantainoside B in *Bacopa monniera* binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β .
Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Mizuki Okazaki, Erika

Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito,
Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata
Biological and Pharmaceutical Bulletin 46(2) 320-333 2023 年

MISC

1. ベンラファキシンに起因すると疑われる 頭痛に対する薬剤師の介入
今堀 翔太, 松本 崇宏, 幸 龍三郎, 今西 孝至, 辻本 雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 83-88 2023 年
2. ダサチニブによる口内炎副作用に対する半夏瀉心湯含嗽の有効性を示した一症例
溝口 浩晃, 幸 龍三郎, 松本 崇宏, 今西 孝至, 辻本 雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 117-121 2023 年

講演・口頭発表等

1. 薬剤抵抗性がん細胞の駆逐に寄与する天然由来新規医薬品シーズの探索
松本崇宏
日本生薬学会第 69 回年会 2023 年 11 月
2. 大気浮遊粉塵 (PM10) による上皮・炎症性サイトカインの誘導
渡辺徹志, 川上大輔, 林真由, 信清依央, 矢野ふみか, 松本崇宏, 山岸伸行
日本環境変異原ゲノム学会第 52 回大会 2023 年 11 月
3. オオツツラフジ (*Sinomenium acutum*) 由来化合物による Wnt/ β -catenin 経路の阻害を介したがん幹細胞の駆逐
岡山真也, 松本崇宏, 渡辺徹志
第 4 回和漢医薬学会若手研究者フォーラム 2023 年 8 月
4. がん幹細胞に対する駆逐作用を有するシソ科クロバナヒキオコシ (*Isodon trichocarpus*) 由来ジテルペン成分の探索研究
中尾桃菜, 杉本幸子, 松本崇宏, 中嶋聡一, 松田久司, 中村誠宏
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
5. がん幹細胞に対する駆逐作用を有する染料アカネ (*Rubia argyi*, 根部) 由来成分の探索研究
山本怜耶, 澤田智佳子, 松本崇宏, 月岡淳子, 中村誠宏
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

6. オオツツラフジ (*Sinomenium acutum*) 茎および根茎中のがん幹細胞増殖抑制活性物質の探索
大西英里加, 松本崇宏, 北川翔大, 岡山真也, 中村誠宏, 太田智絵, 吉田達貞, 渡辺徹志
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
7. *Bacopa monniera* に含有される A β 結合物質 plantainoside B による A β 凝集体の検出と神経保護作用
福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 河嶋秀和, 木村寛之, 扇田隆司, 河下映里, 石原慶一, 花木葵, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 中村誠宏, 松本崇宏, 秋葉聡, 斎藤博幸, 松田久司, 高田和幸
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
8. 真菌 *Penicillium maximae* 産生化合物による HSP105 発現抑制を介した DNA 障害性抗がん剤の作用増強
岡山真也, 松本崇宏, 大西英里加, 北川翔大, 太田智絵, 吉田達貞, 渡辺徹志
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月
9. 新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害物質 linderapyrone の作用機序解明
北川翔大, 松本崇宏, 渡辺徹志
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

共同研究・競争的資金などの研究課題

1. 薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023 年 4 月 - 2027 年 3 月
中村 誠宏, 齊藤 洋平, 小川 慶子, 芦原 英司, 松本 崇宏, 木村 寛之, 中田 晋
2. 大気粉塵の炎症反応誘発性と喘息発作の関係の解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
渡辺 徹志, 松本 崇宏
3. がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
松本 崇宏, 太田 智絵, 中村 誠宏, 渡部 匡史, 渡辺 徹志, 齊藤 洋平

論文

1. Genetic relatedness of third-generation cephalosporin-resistant *Escherichia coli* among livestock, farmers, and patients in Japan
Ryuichi Nakano, Akiyo Nakano, Ryuji Nishisouzu, Kenji Hikosaka, Yuki Suzuki, Go Kamoshida, Shigeru Tansho-Nagakawa, Shiro Endo, Kei Kasahara, Yasuo Ono
One Health 16 100524-100524 2023 年 6 月
2. Modification of Silver Nanoplates with Cell-Binding Subunit of Bacterial Toxin and Their Antimicrobial Activity against Intracellular Bacteria
Ayaka Harada, Wei Xu, Katsuhiko Ono, Hiroyasu Tsutsuki, Kinnosuke Yahiro, Tomohiro Sawa, Takuro Niidome
ACS Applied Bio Materials 2023 年 3 月 27 日 査読有り

MISC

1. 細菌毒素による宿主傷害機構の解明
八尋錦之助
京都薬科大学紀要 2023 年

講演・口頭発表等

1. SubAB-increased KLHDC7B regulates Harakiri (HRK), which an important role in the apoptosis signaling pathway. 八尋錦之助、小倉康平、津々木博康、伊豫田淳、大西真
第 57 回 US-JAPAN Cooperative Medical Science Program-Joint Panel Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections 2023 年 12 月 12 – 14 日 (沖縄)
2. *Acinetobacter baumannii* 臨床分離株を用いた肺炎モデルでの深部 in vivo イメージング 山口大貴、中野竜一、矢野寿一、鴨志田剛
第 7 1 回日本化学療法学会西日本支部総会 2023 年 11 月 9 – 11 日 (兵庫)
3. *Acinetobacter baumannii* の二成分制御系 PmrAB が制御する遺伝子群と応答因子の解明 山田倫暉、鴨志田剛、山口大貴、松岡萌々子、山内玲佳、神田奈々、上岡禄、藤室雅弘、八尋錦之助
第 96 回日本生化学学会 2023 年 10 月 31 日–11 月 2 日 (福岡)
4. アシネトバクテリウムの特異な薬剤耐性メカニズム 鴨志田剛

第 35 回微生物学シンポジウム 2023 年 9 月 1 – 2 日 (岡山)

5. *Acinetobacter baumannii* の二成分制御系 PmrAB レギュロンとその応答因子の解明 山田倫暉、鴨志田剛、山口大貴、藤室雅弘、八尋錦之助

第 17 回細菌若手コロッセウム 2023 年 8 月 17 日–19 日 (福岡)

6. 小胞体ストレス誘導型毒素 SubAB の細胞傷害機構 八尋錦之助
- 第 43 回近畿腸管微生物研究会 2023 年 6 月 2 日 (大阪)

7. 薬剤併用により変化するアシネトバクターバウマニ抗菌耐性メカニズムと病原性 鴨志田剛
- 第 143 回日本薬学会 2023 年 3 月 25–28 日 (札幌)

8. アシネトバクターバウマニのコリスチン耐性に関与する二成分制御系 PmrAB が制御する遺伝子群の解明 山田倫暉、鴨志田剛、山口大貴、松岡萌々子、中村友香、山内玲佳、藤室雅弘、八尋錦之助

第 143 回日本薬学会 2023 年 3 月 25–28 日 (札幌)

9. 近赤外発光による細菌性肺炎のライブイメージング

山口大貴、鴨志田剛、山田倫暉、川久保駿、成田晴香、奥田絢音、八尋錦之助、加藤伸一

第 143 回日本薬学会 2023 年 3 月 25–28 日 (札幌)

10. 人口呼吸器関連性肺炎を模し実験進化させた *Acinetobacter baumannii* の病原性解析 鴨志田剛

第 96 回日本細菌学会総会 2023 年 3 月 18 日 (姫路)

共同研究・競争的資金などの研究課題

1. 近赤外発光を利用した生体ライブイメージングで細菌感染症を経時的可視化し治療評価する
- 公益財団法人杜の都医学振興財団 2023 年度助成金 2023 年 9 月 - 2024 年 9 月

鴨志田 剛

2. AI 予測による小胞体ストレス誘導毒素の阻害剤創薬 (継続)

物質・デバイス領域共同研究拠点 クロスオーバー共同研究 2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

代表 八尋錦之助

3. レンサ球菌高病原化変異株が分泌する aromatic-rich ペプチドの機能解析

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月 分

担 鴨志田剛

4. 重症例由来下痢症起因菌のサーベイランス手法および病原性評価系の確立に関する研究

AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 2021年4月 - 2024年3月

分担 八尋錦之助

論文

1.Potential therapeutic applications of targeting signal-transducing adaptor protein-2 in autoimmune diseases

Yuto Sasaki, Shoya Kawahara, Yuichi Sekine, Jun-Ichi Kashiwakura, Kenji Oritani, Tadashi Matsuda

Exploration of Immunology 3(6) 604-612 2023年12月28日

2.Amino-terminal proteolytic fragment of the axon growth inhibitor Nogo-A (Rtn4A) is upregulated by injury and promotes axon regeneration.

Yuichi Sekine, Xingxing Wang, Kazuna Kikkawa, Sachie Honda, Stephen M Strittmatter

The Journal of biological chemistry 105232-105232 2023年9月8日

3.STAP-2-Derived Peptide Suppresses TCR-Mediated Signals to Initiate Immune Responses

Yuto Sasaki, Kodai Saitoh, Kota Kagohashi, Toyoyuki Ose, Shoya Kawahara, Yuichi Kitai, Ryuta Muromoto, Yuichi Sekine, Michiko Ichii, Akihiko Yoshimura …

The Journal of Immunology 2023年7月7日

4.Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus ORF67.5 Functions as a Component of the Terminase Complex.

Yuki Iwaisako, Tadashi Watanabe, Youichi Suzuki, Takashi Nakano, Masahiro Fujimuro

Journal of virology 97(6) e0047523 2023年6月5日

5.Nigericin Induces Apoptosis in Primary Effusion Lymphoma Cells by Mitochondrial Membrane Hyperpolarization and β -Catenin Destabilization.

Haruka Umeyama, Zenpei Shigemi, Yusuke Baba, Naoko Hara, Tadashi Watanabe, Masahiro Fujimuro

Anticancer research 43(6) 2455-2465 2023年6月

6.Conserved cysteine residues in Kaposi's sarcoma herpesvirus ORF34 are necessary for viral production and viral pre-initiation complex formation

Tadashi Watanabe, Akshara Narahari, Esha Bhardwaj, Kazushi Kuriyama, Mayu Nishimura, Taisuke Izumi, Masahiro Fujimuro, Shinji Ohno

2023年3月9日

7.Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus ORF21 Enhances the Phosphorylation of MEK and the Infectivity of Progeny Virus.

Tatsuo Yamaguchi, Tadashi Watanabe, Yuki Iwaisako, Masahiro Fujimuro

International journal of molecular sciences 24(2) 2023 年 1 月 8 日

講演・口頭発表等

1.SARS-CoV-2 を標的とした化合物探索

馬場麻有子, 角谷廣智, 田中智久, 森石恆司, 藤室雅弘

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

2.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス感染による多剤排出ポンプ P-gp の発現亢進

木村佳苗, 上野友輔, 清原美咲, 山口達生, 祝迫佑紀, 山岸伸行, 藤室雅弘

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

3.薬物・遺伝子送達キャリアとして利用できる B 型肝炎ウイルス様粒子の開発

大塩ひとみ, 酒井智帆, 布藤愛望, 堀田真梨, 祝迫佑紀, 上田啓次, 藤室雅弘

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

4.B 型肝炎ウイルスのスパイクタンパク質を利用した DDS キャリアの開発

小川真都花, 酒井智帆, 布藤愛望, 堀田真梨, 祝迫佑紀, 上田啓次, 藤室雅弘

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

5.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス ORF27,ORF58 の性状解析

岡部理美子, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

第 70 回日本ウイルス学会学術集会 2023 年 9 月 26 日

6.KSHVORF7・ORF29・ORF67.5 はターミネーゼ複合体として機能する

祝迫佑紀, 渡部匡史, 鈴木陽一, 中野隆史, 藤室雅弘

第 22 回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフォーラム 2023 年 9 月 8 日

7.KSHV ORF7・ORF29・ORF67.5 はターミネーゼ複合体機能に重要である

祝迫佑紀, 渡部匡史, 鈴木陽一, 中野隆史, 藤室雅弘

第 35 回微生物シンポジウム 2023 年 9 月 2 日

8.KSHV ターミネーゼ複合体構成分子の機能解析

祝迫佑紀, 渡部匡史, 鈴木陽一, 中野隆史, 藤室雅弘

第 36 回ヘルペスウイルス研究会 2023 年 7 月 7 日

9.抗 HSV-1/2 活性を示す低分子化合物 YG-67 の作用機序解析

角谷廣智, 田中 旭, 河瀬 順, 吉田昌弘, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 28 日

10.B 型肝炎ウイルス様粒子を利用した薬物・遺伝子送達キャリアの調製法の開発

布藤愛望, 酒井智帆, 石丸華子, 関根勇一, 上田啓次, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

11.ピリジニウム型フラーレン誘導体の非ホジキン B 細胞性リンパ腫(PEL)に対する細胞増殖抑制効果

聳城美沙, 門田彩乃, 森口美里, 渡部匡史, 関根勇一, 中村成夫, 安野拓実, 大江知之, 増野匡彦, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

12.単純ヘルペスウイルス 1 型 (HSV-1) 感染細胞は神経細胞に対する傷害物質を産生する

黒橋 萌, 山元優輝, 小久保友絵, 関根勇一, 須賀 圭, 中曾一裕, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

13.がんウイルス感染が誘導する宿主 USP5 の脱ユビキチン化修飾

北村友梨奈, 池田茉莉那, 祝迫佑紀, 関根勇一, 前本佑樹, 伊藤昭博, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

14.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスのカプシド関連テグメント複合体の ORF32 はウイルス産生に重要である

鳥谷優太, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

15.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子 ORF9 はウイルスゲノム複製に重要である

鹿井遥花, 祝迫佑紀, 関根勇一, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

16.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス ORF21 は MEK のリン酸化を促進し、子孫ウイルスの感染性を高める

山口達生, 渡部匡史, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 27 日

17.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV)遺伝子 ORF27 の性状解析

岡部理美子, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

18.がんウイルスがコードする膜タンパク質 gN の機能解析

堀口翔矢, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

共同研究・競争的資金などの研究課題

1.機能性食品成分による中枢神経再生調節についての研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

関根 勇一

生化学

論文

1. Phosphotyrosine proteomics in cells synchronized at monopolar cytokinesis reveals EphA2 as functioning in cytokinesis.

Nanami Hasegawa, Mayue Hongo, Misaki Okada, Takahisa Kuga, Yuichi Abe, Jun Adachi, Takeshi Tomonaga, Naoto Yamaguchi, Yuji Nakayama

Experimental Cell Research 432(1) 113783 2023 年 11 月

2. The C-terminal tail of Rad17, iVERGE, binds the 9-1-1 complex independently of AAA+ ATPase domains to provide another clamp-loader interface.

Yasunori Fukumoto, Tyuji Hoshino, Yuji Nakayama, Yasumitsu Ogra

DNA Repair 130 103567 2023 年 10 月

3. Distinct effects of heat shock temperatures on mitotic progression by influencing the spindle assembly checkpoint.

Saki Ota, Yui Tanaka, Ryuji Yasutake, Yuki Ikeda, Ryuzaburo Yuki, Yuji Nakayama, Youhei Saito

Experimental Cell Research 429(2) 113672 2023 年 6 月

4. v-Src delocalizes Aurora B by suppressing Aurora B kinase activity during monopolar cytokinesis.

Ryoko Ota, Takumi Watanabe, Yuuki Wazawa, Hiroki Kuwajima, Takuya Honda, Shuhei Soeda, Youhei Saito, Ryuzaburo Yuki, Yasunori Fukumoto, Noritaka Yamaguchi, Naoto Yamaguchi, Yuji Nakayama

Cellular Signalling 109 110764 2023 年 6 月

5. SH2D4A promotes centrosome maturation to support spindle microtubule formation and mitotic progression.

Ryuzaburo Yuki, Yuki Ikeda, Ryuji Yasutake, Youhei Saito, Yuji Nakayama

Scientific Reports 13(1) 2067 2023 年 2 月

6. Azaphilones produced by *Penicillium maximae* with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell.

Takahiro Matsumoto, Erika Ohnishi, Takahiro Kitagawa, Masaya Okayama, Youhei Saito, Hayato Yoshikawa, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Yuji Nakayama, Tetsushi Watanabe

Genes and Environment 45(1) 5 2023 年 1 月

MISC

1. ダサチニブによる口内炎副作用に対する半夏瀉心湯含嗽の有効性を示した一症例

溝口浩晃, 幸龍三郎, 松本崇宏, 今西孝至, 辻本雅之

京都薬科大学紀要 4(1) 2023 年

2. ベンラファキシンに起因すると疑われる頭痛に対する薬剤師の介入

今堀翔太, 松本崇宏, 幸龍三郎, 今西孝至, 辻本雅之

京都薬科大学紀要 4(1) 2023 年

講演・口頭発表等

1. 脱 SUMO 化酵素 DESI1 標的候補タンパク質の大腸菌を用いた SUMO 化の検討. 池田有紀, 中山祐治. 第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸) 2023 年 12 月

2. TNK2 阻害剤 XMD16-5 による多核細胞形成. 村田真優, 太田稜子, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 46 回日本分子生物学会年会 (神戸) 2023 年 12 月

3. The PP1 phosphatase regulator SH2D4A promotes centrosome maturation to support spindle microtubule formation and mitotic progression. Ryuzaburo Yuki, Yuki Ikeda, Ryuji Yasutake, Youhei Saito, Yuji Nakayama. CELL BIO 23 (ASCB|EMBO) (Boston) 2023 年 12 月

4. 脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 ノックダウンによる細胞分裂監視機構の破綻. 池田有紀, 中山祐治. 第 96 回日本生化学会大会 (福岡) 2023 年 10 月

5. Ephexin4 のリン酸化による細胞分裂進行制御. 安武隆司, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 96 回日本生化学会大会 (福岡) 2023 年 10 月

6. アミノ酸トランスポーター-LAT1 による CD98 非依存的な細胞分裂支持機構. 柳田さくら, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 96 回日本生化学会大会 (福岡) 2023 年 10 月

7. 脱 SUMO 化酵素 DESI1 のノックダウンによる細胞分裂への影響. 池田有紀, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (西宮) 2023 年 10 月

8. 低分子量 G タンパク質 RhoG による細胞分裂時の形態制御. 栗島弘喜, 安武隆司, 海堀祐一郎, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (西宮) 2023 年 10 月

9. シンバスタチンによる細胞分裂の遅延. 田中潤奈, 天野多詠, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・

大会（西宮）2023年10月

10. メチル化 RNA 読み取りタンパク質 YTHDC1 による分裂制御機構の解明. 道盛里和, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）2023年10月

11. TNK2 阻害による染色体分配の異常. 村田真優, 太田稜子, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）2023年10月

12. アミノ酸トランスポーター-LAT1 はアミノ酸輸送阻害非感受性の分裂支持機構を有する. 柳田さくら, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）2023年10月

13. AuroraB 阻害剤による v-Src 発現細胞の細胞死誘導機構の解析. 定仙大志, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）2023年10月

14. v-Src-induced mitotic slippage confers resistance to microtubule-targeting agents. Yuji Nakayama. 第 82 回日本癌学会学術総会（横浜）2023年9月

15. Combination of the Eph kinase inhibitor NVP-BHG712 and the PLK1 inhibitor BI-2536 inhibits cancer cell proliferation. Ryuzaburo Yuki, Yuji Nakayama. 第 82 回日本癌学会学術総会（横浜）2023年9月

16. 温度の違いが紡錘体形成チェックポイントに及ぼす影響. 太田咲希, 田中優衣, 安武隆司, 池田有紀, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 日本ハイパーサーミア学会第 40 回大会（神奈川）2023年9月

17. プロテオミクス解析による EphA2 チロシンリン酸化の検出と細胞質分裂への関与. 長谷川七海, 北郷真由絵, 中山祐治. 第 75 回日本細胞生物学会大会（奈良）2023年6月

18. 脱 SUMO 化酵素 DESI1 の細胞分裂における機能解析. 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 69 回日本生化学会近畿支部例会（京都）2023年5月

19. 低分子量 G タンパク質 RhoG による細胞分裂制御. 栗島弘喜, 安武隆司, 海堀祐一郎, 中山祐治. 第 69 回日本生化学会近畿支部例会（京都）2023年5月

20. simvastatin 処理による細胞分裂への影響. 田中潤奈, 天野多詠, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 69 回日本生化学会近畿支部例会（京都）2023年5月

21. 擬似的な細胞質分裂への誘導とプロテオミクス解析による EphA2 の機能解析. 長谷川七海, 北郷真由絵, 中山祐治. 第 69 回日本生化学会近畿支部例会（京都）2023年5月

22. 細胞分裂制御における脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 の役割. 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

23. 細胞分裂特異的な Ephexin4 のリン酸化解析. 安武隆司, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

24. がん遺伝子 v-Src は AuroraB の活性を抑え二核細胞を形成する. 太田稜子, 渡邊卓美, 和澤佑樹, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

25. 細胞分裂に対する細胞膜コレステロール除去の影響. 田中潤奈, 天野多詠, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

26. 細胞分裂後期に対する EphA2 のチロシンリン酸化. 長谷川七海, 北郷真由絵, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

27. TNK2 阻害剤 XMD16-5 による細胞質分裂の阻害. 村田真優, 太田稜子, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

28. アミノ酸トランスポーター-LAT1 は紡錘体配向性を制御する. 柳田さくら, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 破綻したリン酸化シグナルを基盤としたがん細胞分裂によるがん進展機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

幸龍三郎

2. 熱ストレスによるがん悪性化シグナル活性化とその阻害効果

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

齊藤洋平

3. がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月

松本崇宏, 太田智絵, 中村誠宏, 渡部匡史, 渡辺徹志, 齊藤洋平

4. 薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023 年 4 月 - 2027 年 3 月

中村誠宏, 齊藤洋平, 小川慶子, 芦原英司, 松本崇宏, 木村寛之, 中田晋

5. ゲノム分配機構の破綻がもたらす細胞のがん化メカニズムの解析

京都薬科大学 京都薬科大学科学振興基金 研究奨励金 2020年4月 - 2023年3月

幸龍三郎

6. 膵がん細胞の分裂支持機構の解明と治療応用の検討

大阪難病研究財団 医学研究助成 2023年

幸龍三郎

7. がん特異的な分裂機構の解明と治療応用の検討

大阪コミュニティ財団 ガン研究基金・医療研究基金 2023年4月 - 2024年3月

幸龍三郎

8. PP1 phosphatase regulator SH2D4A promotes centrosome maturation to support spindle microtubule formation and mitotic progression

興和生命科学振興財団 第35回（2023年度）国際交流助成 2023年度

幸龍三郎

9. PP1 phosphatase regulator SH2D4A promotes centrosome maturation to support spindle microtubule formation and mitotic progression

加藤記念バイオサイエンス振興財団 令和5年度 国際交流助成 2023年

幸龍三郎

論文

1. Targeting acidic pre-metastatic niche in lungs by pH Low Insertion Peptide and its utility for anti-metastatic therapy

Toma Matsui, Yuki Toda, Haruka Sato, Rina Itagaki, Kazuya Konishi, Anna Moshnikova, Oleg A Andreev, Shigekuni Hosogi, Yana K Reshetnyak, Eishi Ashihara
Frontiers in oncology 13 1258442 2023 年

2.Exosome-hijacking drug delivery system with branched arginine linker effectively deliver antisense oligonucleotides into lung adenocarcinoma cells

Shota Oyama, Mao Tomita, Moeka Hata, Yu Mikame, Tsuyoshi Yamamoto, Eishi Ashihara, Asako Yamayoshi
Chemical & pharmaceutical bulletin 71(11) 819–823 2023 年 11 月 1 日

3.Mumefural prevents insulin resistance and amyloid-beta accumulation in the brain by improving lowered interstitial fluid pH in type 2 diabetes mellitus

Hosogi S, Kuwahara A, Kuwahara Y, Tanaka S, Shimamoto C, Tagawa N, Kato I, Yoshimoto K, Aoi W, Takata K, Miyazaki H, Niisato N, Tsubo Y, Yagi K, Nakahari T, and Marunaka Y
BioMed Research International 44: 17-29 2023 年

4.Ambroxol-enhanced ciliary beating via voltage-gated Ca^{2+} channels in mouse airway ciliated cells

Saito D, Suzuki C, Tanaka S, Hosogi S, Kawaguchi K, Asano S, Okamoto S, Yasuda M, Hirano S, Inui T, Marunaka Y, and Nakahari T
European Journal of Pharmacology 941: 175496 2023 年

5.TRPV3-ANO1 interaction positively regulates wound healing in keratinocytes

Yamanoi Y, Lei J, Takayama Y, Hosogi S, Marunaka Y, and Tominaga M
Communications Biology 6: 88 2023 年

6.Hypoxia-adapted Multiple Myeloma Stem Cells Resist $\gamma\delta$ -T-Cell-mediated Killing by Modulating the Mevalonate Pathway

Yusuke Sano, Naoko Kuwabara, Saori Nakagawa, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Shinji Sato, Eishi Ashihara
Anticancer research 43(2) 547-555 2023 年 2 月

7.7,8-Dihydroxy-3-(4'-hydroxyphenyl)coumarin inhibits invasion and migration of osteosarcoma cells

Yuki Sugiyama, Seikou Nakamura, Yuichi Tokuda, Masakazu Nakano, Yasunao Hattori, Hiroki Nishiguchi, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Masayuki Yamashita, Kei Tashiro
Biochemical and Biophysical Research Communications 638 200-209 2023 年 1 月 1 日

講演・口頭発表等

1.小児 MLL 関連白血病細胞株に対する BRD4 および CBP/p300 阻害併用時における CBP/p300 阻害作用機序別の細胞増殖抑制効果の比較

山本京奈, 今吉菜月, 幾田慧子, 勝部友理恵, 重面雄紀, 平 大樹, 中川俊作, 津田真弘, 芦原英司, 寺田智祐

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月 14 日

2.急性骨髄性白血病細胞に対するジペプチド型 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤の抗腫瘍効果の検討

羽立祐貴, 服部恭尚, 若林亮介, 細木誠之, 戸田侑紀, 高田和幸, 芦原英司

第 82 回日本癌学会学術総会 2023 年 9 月 23 日

3.4T1.2 より分泌される細胞外小胞は糖代謝リプログラミングにより肺組織酸性化を誘導する

佐藤晴夏, 松井透磨, 戸田侑紀, Anna Mosnikova, Oleg A. Andreev, 細木誠之, Yana K. Reshetnyak, 芦原英司, 第 82 回日本癌学会学術総会 2023 年 9 月 22 日

4.BRD4/CBP/p300 マルチプロモドメイン阻害の小児 MLL 遺伝子関連 ALL に対する有効性の検証

今吉菜月, Makoto Yoshioka, 加藤格, 戸田侑紀, 細木誠之, 平 大樹, 中川俊作, 津田真弘, 寺田智祐, 芦原英司

第 17 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム 2023 年 9 月 16 日

5.人参由来成分 KPU-230 はエストロゲン受容体を介してマウス気道粘液線毛クリアランスを活性化する

法山康太, 細木誠之, 辰己英司, 岩本和佳奈, 山本頼仁, 藤堂暢久, 戸田侑紀, 田宮暢代, 茂田昌樹, 中村誠宏, 高山浩一, 芦原英司

第 17 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム 2023 年 9 月 16 日

6.POLD1 の悪性胸膜中皮腫に対する治療標的分子としての可能性

石橋未来, 清水大器, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023 年 8 月 26 日

7.公共データベースより同定した POLD1 を標的とした悪性胸膜中皮腫細胞に対する抗腫瘍効果の検討

清水大器, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2023 年 6 月 23 日

8.新規 BRD4/CBP/p300 マルチプロモドメイン阻害剤 CN470 を用いた小児 MLL 遺伝子関連 ALL に対する抗腫瘍効果の検討

今吉菜月, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2023 年 6 月 23 日

9.細胞運動抑制によるクマリン系化合物の転移抑制効果

芦原英司, 杉山雄輝, 戸田侑紀, 細木誠之

第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2023 年 6 月 22 日

10.An artichoke-derived compound increase $[Ca^{2+}]_i$ via inhibiting Sarco/Endoplasmic Reticulum Ca^{2+} -ATPase (SERCA) activated airway ciliary beating in humans

藤堂暢久, 法山康太, 茂田昌樹, 中村誠宏, 田宮暢代, 高山浩一, 芦原英司, 細木誠之

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 2023 年 4 月 28 日

11.気管支細胞培養で分解状と細胞老化マーカーの異常が見られた Mounier-Kuhn 症候群 1 例

田宮暢代, 法山康太, 藤堂暢久, 柴原一毅, 古室太誠, 榎本昌光, 畑 妙, 田中友樹, 土屋美知子, 高山浩一, 長坂行雄, 芦原英司, 細木誠之

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 2023 年 4 月 28 日

12.High speed video analysis における線毛運動周波数算定法の検討

阿保未来, 築田紗矢, 古林崇史, 武田仁浩, 加藤一政, 渡辺知志, 大倉徳幸, 原丈介, 矢野誠二, 今村幸祐, 細木誠之

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 2023 年 4 月 28 日

13.転移予定臓器における組織酸性化の転移巣形成への寄与

小西和也, 松井透磨, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

日本薬学会 第 142 年会 2023 年 3 月 25 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023 年 4 月 - 2027 年 3 月

中村 誠宏, 齊藤 洋平, 小川 慶子, 芦原 英司, 松本 崇宏, 木村 寛之, 中田 晋

2.肺前転移ニッチにおける乳酸アシドーシス発症因子の同定

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023 年 4 月 - 2027 年 3 月

戸田 侑紀

3.新規作用機序に基づくクマリン系がん転移抑制薬の創製

日本医療研究開発機構 橋渡し研究プログラム 2022 年度シーズ A (岡山大学拠点) 2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

芦原 英司

4.基礎や臨床研究で得られた臨床上での有用性はリアルワールドデータで検証できるのか

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

村木 優一, 猪瀬 諒, 細木 誠之

病態生化学

論文

1. Deficiency of group IVA phospholipase A₂ in collagen-producing cells alleviates the aggravated hepatic fibrosis in high-fat diet-fed mice after returning to a normal diet.

Takeyoshi Ozaki, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Satoshi Akiba

Biological & pharmaceutical bulletin 46(3) 488-493 2023年3月 査読あり

2. Plantainoside B in *Bacopa monniera* binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β .

Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Aoi Hanaki, Mizuki Okazaki, Erika Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito, Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata

Biol. Pharm. Bull 46(2) 320-333 2023年2月 査読あり

MISC

1. Bio-metal dyshomeostasis-associated acceleration of aging and cognitive decline in down syndrome.

Keiichi Ishihara, Eri Kawashita, Satoshi Akiba

Biological & pharmaceutical bulletin 46(9) 1169-1175 2023年9月

2. 「海外からの声」 イギリスにおける医療提供制度と薬局薬剤師、そこから見えるもの

河下 映里

京都府薬剤師会 京都薬報 (538) 32-34 2023年6月

3. 【生命と金属～その動態制御と解析法の最前線～】ダウン症候群の認知機能障害と生命金属恒常性破綻

石原 慶一

ファルマシア 59(3) 206-211 2023年3月

4. Involvement of an aberrant vascular system in neurodevelopmental, neuropsychiatric, and neuro-degenerative diseases.

Keiichi Ishihara, Kazuyuki Takata, Ken-Ichi Mizutani

Life (Basel, Switzerland) 13(1) 2023年1月

講演・口頭発表等

1. ダウン症候群モデルマウスでの情動記憶障害と脳での銅蓄積の関与

北川 果鈴, 河下 映里, 山川 和弘, 秋葉 聡, 石原 慶一

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

2. 種々の染色体欠失マウスを用いたダウン症候群モデルマウス脳での銅蓄積遺伝子の遺伝子座同定

巽 友理奈, 高田 修治, 山川 和弘, 河下 映里, 秋葉 聡, 石原 慶一

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

3. 粥状動脈硬化巣形成に対する血管平滑筋細胞選択的 IVA ホスホリパーゼ A₂欠損の影響

林 真生, 河下 映里, 石原 慶一, 丹羽 優悟, 國近 伶奈, 金井 志帆, 秋葉 聡

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

4. ダウン症モデルマウス脳でのエンドソーム異常による銅蓄積の可能性 (シンポジウム)

石原 慶一

バイオメタル研究会 2023 年 10 月

5. ダウン症モデルマウス脳での銅蓄積による記憶学習障害

石原 慶一, 河下 映里, 山川 和弘, 秋葉 聡

第 2 回生命金属科学シンポジウム 2023 年 5 月

6. 移植神経前駆細胞の生存と成熟化における α 2-アンチプラスミンの関与の検討

三崎 友菜, 河下 映里, 西村 周泰, 石原 慶一, 野口 鈴華, 高田 和幸, 松尾 理, 秋葉 聡

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

7. 脳梗塞後の神経新生における α 2-antiplasmin の関与

西村 美紅, 河下 映里, 永井 信夫, 石原 慶一, 井上 和奏, 宮崎 優奈, 松尾 理, 秋葉 聡

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

8. ダウン症モデルマウスにおける脳での銅蓄積と情動記憶障害の相関性

千代 華歩, 河下 映里, 秋葉 聡, 山川 和弘, 石原 慶一

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

9. ダウン症モデルマウスにおける脳での銅蓄積と情動記憶障害の相関性

千代 華歩, 河下 映里, 秋葉 聡, 山川 和弘, 石原 慶一

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

10.ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子座の絞り込み

神保 里菜, 高田 修治, 斉藤 美知子, 山川 和弘, 河下 映里, 左合 治彦, 秋葉 聡, 石原 慶一
日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

11.モデルマウスを用いたダウン症の病態解析～脳発達遅滞などを中心に～

石原 慶一

第 6 回 Neuro-Vascular 研究会 2023 年 2 月

12.セルピンによる脳機能調節と虚血性脳疾患治療への展開

河下 映里

第 6 回 Neuro-Vascular 研究会 2023 年 2 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.新生児低酸素性虚血性脳症における neuronal replacement 効果の向上を目指した細胞外環境整備に関する創薬基盤研究

公益財団法人 武田科学振興財団 薬学系研究助成 2023 年 11 月 - 2025 年 3 月

河下 映里

2.高脂肪食負荷解除下での肝線維化修復促進を狙った IVA 型 PLA₂の細胞種特異的制御

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月

秋葉 聡

3.細胞外プロテアーゼ活性制御による新生児低酸素性虚血性脳症の神経再生療法の高効率化

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月

河下 映里

4.ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

石原 慶一, 高田 和幸

5.ダウン症知的障害における初期エンドソーム破綻と銅蓄積

日本学術振興会 科学研究費助成事業 新学術領域研究(研究領域提案型) 2022 年 4 月 - 2024 年 3 月

石原 慶一

6.プロテアーゼ活性制御による脳神経再生の高効率化と虚血性脳疾患治療への展開

日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A)) 2021 年 6 月 - 2024 年 3 月

河下 映里

7.脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020年4月 - 2024年3月

高田 和幸, 石原 慶一, 西村 周泰

8.NASHの新規治療観点となる細胞種特異的 IVA 型 PLA₂の制御による肝線維化抑制

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020年4月 - 2023年3月

秋葉 聡

薬物治療学

論文

1. Deficiency of leukotriene B4 receptor type 1 ameliorates ovalbumin-induced allergic enteritis in mice.

Shinichi Kato, Suzuka Onishi, Misaki Sasai, Hiroyuki Yasuda, Kazuko Saeki, Kenjiro Matsumoto, Takehiko Yokomizo

Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology 50(9) 766-775 2023年7月5日
査読有り

2. Immunohistochemical characterization of transient receptor potential vanilloid types 2 and 1 in a trinitrobenzene sulfonic acid-induced rat colitis model with visceral hypersensitivity.

Kenjiro Matsumoto, Fumika Sugimoto, Toshiki Mizuno, Taisei Hayashi, Ririka Okamura, Takuya Nishioka, Hiroyuki Yasuda, Syunji Horie, Mizuho A Kido, Shinichi Kato

Cell and tissue research 391(2) 287-303 2023年2月 査読有り

3. ショウガ由来ポリフェノールのマウス消化管運動に対する影響.

加藤 伸一, 松本 健次郎, 安田 浩之, 竹中 涼, 中村 直樹

薬理と治療 51(11) 1667-1675 2023年 査読有り

4. Transient Receptor Potential Ankyrin 1 in Taste Nerve Contributes to the Sense of Sweet Taste in Mice.

Kenjiro Matsumoto, Mayu Kamide, Kunitoshi Uchida, Mitsuki Takahata, Runa Shichiri, Yuka Hida, Yumi Taniguchi, Akihiro Ohishi, Makoto Tominaga, Kazuki Nagasawa ...

Biological & pharmaceutical bulletin 46(7) 939-945 2023年 査読有り

5. Allergic inflammation disrupts epithelial electrogenic electrolyte transport through cholinergic regulation in the mouse colon

Takeshi YAMAMOTO, Yosuke KATSUKI, Yuya KANAUCHI, Shusaku HAYASHI, Makoto KADOWAKI

Biomedical Research 44(1) 31-40 2023年1月25日 査読有り

書籍等出版物

1. 図解薬害・副作用学

川西, 正祐, 小野, 秀樹, 賀川, 義之 (担当: 共著, 範囲: 2章臓器における代表的副作用 7. 薬剤性

消化器障害)

南山堂 2023 年 4 月 (ISBN: 9784525720735)

2.薬がみえる Vol.3

加藤伸一 (担当:監修, 範囲:消化器系の疾患と薬)

2023 年 (ISBN: 9784896329209)

講演・口頭発表等

1. TRPM2 の TNBS 誘起マウス大腸炎および大腸炎関連線維化の病態進展における役割

中本智大, 松本健次郎, 安田浩之, 森泰生, 加藤伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 16 日

2. 大腸炎マウスの腸管神経系における神経新生の解析

林 周作, 宮田佳奈, 山本 武, 門脇 真

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 16 日

3. DSS 誘起マウス大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 2 および 4 の保護的役割

北村 菜月, 安田 浩之, 田上 瑛梨奈, 多田 佳鈴, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

4. Ca²⁺ 高透過性 TRPV6 の粘膜バリア機能の調節を介した大腸炎に対する保護的役割

田嶋 鈴夏, 安田 浩之, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

5. κ -オピオイド受容体タイプ 1 (BLT1) 欠損の卵白アルブミン誘起アレルギー性腸炎の病態に及ぼす影響

朝夷名 芙季, 安田 浩之, 佐伯 和子, 松本 健次郎, 横溝 岳彦, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

6. TNBS 誘起マウス大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 2 および 4 の関与

菅原 彩羽, 安田 浩之, 原 礼子, 藤原 ゆう, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

7. 卵白アルブミン誘発食物アレルギーモデルマウスに対する大腸上皮バリア機能維持を介した TRPV4 の保護作用

村山 有希, 松本 健次郎, 安田 浩之, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

8.デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸の病態におけるオーファン G タンパク質共役型受容体 GPR35 の保護的役割

徳山 瑠雅, 八木 斗真, 文谷 桃佳, 山本 紗恵子, 安田 浩之, 斎藤 美知子, 加藤 伸一

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

9.グルタミン酸は 5-フルオロウラシル誘起腸炎を抑制する

上南 静佳, 加藤伸一, 天ヶ瀬紀久子

第 97 回日本薬理学会 2023 年 12 月 14 日

10. 卵白アルブミン誘発食物アレルギーの病態における TRPV4 の関与

村山有希, 松本健次郎, 安田浩之, 加藤伸一

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023 年 8 月 26 日

11.オーファン G タンパク質共役型受容体 GPR35 の腸管バリアおよび免疫応答制御との関連

徳山瑠雅, 安田浩之, 加藤伸一

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023 年 8 月 26 日

12.TRPM2 の TNBS 誘起大腸炎の病態における役割 : 炎症性サイトカイン・ケモカイン発現および Th1/Th17 誘導との関連

中本智大, 松本健次郎, 安田浩之, 森泰生, 加藤伸一

生体機能と創薬シンポジウム 2023 2023 年 8 月 24 日

13.卵白アルブミン誘発食物アレルギーの病態における TRPV4 の関与

村山有希, 松本健次郎, 安田浩之, 加藤伸一

生体機能と創薬シンポジウム 2023 2023 年 8 月 24 日

14.Comprehensive mathematical understanding of the complex control system between organs, and challenge for ultra-early precision medicine.

Hayashi S, Oku M, Akagi K, Taketani A, Oshima Y, Koizumi K, Kadowaki M, Saito S

Japan-U.S. Research Collaboration Week: Tracking our health trajectories 2023 年 7 月 20 日

15.Berberine, a fatty acid synthase activator, enhances IL-10 production in macrophages and suppresses relapse in murine colitis model.

Hayashi S, Ogawa Y, Yamamoto T, Kadowaki M

Digestive Disease Week 2023 2023 年 5 月 6 日

16.Ca²⁺高透過性 TRPV6 の炎症性腸疾患の病態における保護的役割

高山 麻由, 森 風帆, 齊藤 美知子, 安田 浩之, 松本 健二郎, 加藤 伸一
日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月 27 日

17. TNBS 誘起大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 4 を介した細胞外トラップの役割
田中 義也, 安田 浩之, 宇野 綾花, 甲田 紗弥, 斎藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一
日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月 26 日

18. TNBS 誘起マウス大腸炎および線維化の病態制御における TRPM2 の役割
小山 樹那, 中本 智大, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一
日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月 26 日

19. 消化管炎症関連内蔵痛覚過敏における TRP チャネルの関与
松本健次郎, 加藤伸一
日本薬学会第 143 年会 (札幌) 2023 年 3 月 26 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. Ca²⁺ 高透過性 TRPV6 の腸上皮バリア機能制御における役割解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月
加藤 伸一

2. 粘膜バリアの再構築に基づく再燃予防を目指す炎症性腸疾患に対する治療戦略の創出
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
林 周作

3. 細胞外トラップの消化管炎症における役割解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
安田 浩之

論文

1. Eicosapentaenoic Acid Preserves Mitochondrial Quality and Attenuates Cardiac Remodeling After Myocardial Infarction in Rats

Miyuki Kobara, Tatsuya Shiraishi, Kazuki Noda, Hiroe Toba, Tetsuo Nakata

Journal of Cardiovascular Translational Research 2023年2月27日

2. Nicorandil Suppresses Ischemia-Induced Norepinephrine Release and Ventricular Arrhythmias in Hypertrophic Hearts.

Miyuki Kobara, Toshihiro Amano, Hiroe Toba, Tetsuo Nakata

Cardiovascular drugs and therapy 37(1) 53-62 2023年2月

総説

1. 薬理系薬学 動脈硬化病変は新規に構築された神経回路によって外膜側から支配されている

鳥羽 裕恵

ファルマシア 59(2) 153-153 2023年2月

講演・口頭発表等

1. 糖尿病性糸球体足細胞傷害に対する GLP1 受容体作動薬の保護効果

吉田あかね, 小原幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

第 97 回日本薬理学会 2023年12月

2. 食塩負荷高血圧モデルラットにおける当帰およびトウキ葉の降圧効果

松田百加, 小原幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

第 45 回日本高血圧学会 2023年10月

3. Roles of aldosterone on ventricular arrhythmias, and associated gap junction and ion channel remodeling in hypertrophic heart.

M. Kobara, H. Toba, T. Nakata

ESC congress 2023 2023年8月

4. 高血圧性臓器障害増悪因子としての細胞外マトリックスとプロテアーゼの役割

鳥羽裕恵

第 28 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会 2023年8月25日

5.高血圧性血管障害における細胞外マトリックス SPARC の役割の検討

坂元聡太, 鳥羽裕恵, 小原幸, 中田徹男

日本薬学会 第 143 回年会 2023 年 3 月

6.インスリン抵抗性モデルラットの耐糖能異常と臓器障害に対するエリスロポエチンの効果の検討

瀧澤恭平, 鳥羽裕恵, 小原幸, 中田徹男

日本薬学会 第 143 回年会 2023 年 3 月

7.Low Dose of Erythropoietin Attenuates Insulin Resistance, Renal fibrosis, and Vascular Inflammation in Sucrose-treated Rats

Hiroe Toba, Miyuki Kobara, Tetsuo Nakata

第 87 回日本循環器学会学術集会 2023 年 3 月

8.GLP-1 Analogue Suppresses Hyperglycemia-induced Podocyte Injury via Akt-Bcl2 Preservation

Miyuki Kobara; Akihito Akakura; Minoru Shimizu; Kohei Nagai; Hiroe Toba; Tetsuo Nakata

第 87 回日本循環器学会学術集会 2023 年 3 月

9.Roles of Angiotensin II-induced Autophagy in Mitochondrial Injury and Apoptosis in Cardiomyocytes

Miyuki Kobara; Michika Tomita; Mayu Inoue; Hiroe Toba; Tetsuo Nakata

第 87 回日本循環器学会学術集会 2023 年 3 月

10.細胞外マトリックス SPARC は炎症を惹起し高血圧性血管障害の原因となる

坂元聡太, 鳥羽裕恵, 小原幸, 中田徹男

第 52 回心脈管作動物質学会 2023 年 2 月 11 日

11.虚血誘導性心筋内ノルエピネフリン放出および虚血性心室性不整脈に対するニコランジルの影響

小原 幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

第 32 回日本循環薬理学会 2023 年 1 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.SPARC 関連細胞外マトリックスとマトリックス分解酵素からの動脈硬化治療ターゲットの探索

武田科学振興財団 薬学系研究助成 2022 年 - 2027 年

鳥羽 裕恵

2.ラマン分光法を用いた歯周病菌によるアルツハイマー病発症の分子病態の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

足立 圭司, 狩生 徹, 足立 哲也, 山本 俊郎, 金村 成智, PEZZOTTI G., 小原 幸

3.貧血治療薬エリスロポエチンの動脈硬化抑制薬としてのドラッグ・リポジショニング研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月

鳥羽 裕恵

4.細胞外ミトコンドリア放出を伝達ツールとした心不全病態悪化の検討及び治療への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月

小原 幸

5.バイオセラミックス・コーティングによる骨伝導性の強化とインプラント周囲炎の予防

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2020年4月 - 2023年3月

PEZZOTTI G., 足立 哲也, Marin Elia, 小原 幸, 扇谷 えり子

薬理学

論文

1. Mast cells link immune sensing to antigen-avoidance behaviour

Thomas Plum, Rebecca Binzberger, Robin Thiele, Fuwei Shang, Daniel Postrach, Candice Fung, Marina Fortea, Nathalie Stakenborg, Zheng Wang, Anke Tappe-Theodor, Tanja Poth, Duncan A. MacLaren, Guy Boeckxstaens, Rohini Kuner, Claudia Pitzer, Hannah Monyer, Cuiyan Xin, Joseph V. Bonventre, Satoshi Tanaka, David Voehringer, Pieter Vanden Berghe, Jessica Strid, Thorsten B. Feyerabend, Hans-Reimer Rodewald

Nature 620(7974) 634-642 2023年7月12日 査読有り

2. STIM/Orai-mediated calcium entry elicits spontaneous TSLP overproduction in epidermal cells of atopic dermatitis mice

Masanori Fujii, Shuhei Kobayashi, Ayane Ueda, Misaki Sakagami, Rieko Matsui, Yumeka Yamada, Takeshi Nabe, Susumu Ohya

Exploration of Immunology 3 174-185 2023年6月11日 査読有り 筆頭著者 責任著者

3. ATP and its metabolite adenosine cooperatively upregulate the antigen-presenting molecules on dendritic cells leading to IFN- γ production by T cells.

Kazuyuki Furuta, Hiroka Onishi, Yuki Ikada, Kento Masaki, Satoshi Tanaka, Chikara Kaito

The Journal of biological chemistry 104587-104587 2023年3月6日 査読有り

MISC

1. 中枢における痒み増強メカニズム

藤井正徳

皮膚科 4 309-316 2023年9月 招待有り

2. 望ましい研究のあり方

田中智之

薬学教育 7 1-8 2023年5月 査読有り 招待有り 筆頭著者 責任著者

3. Editorial: Novel insights into inflammatory roles of mast cells and basophils

Satoshi Tanaka, Frans J. Van Overveld

Frontiers in Immunology 14 2023年3月24日 査読有り 招待有り 筆頭著者 責任著者

書籍等出版物

1. 凶解薬害・副作用学

川西, 正祐, 小野, 秀樹, 賀川, 義之 (担当: 分担執筆, 範囲: 薬物アレルギー)

南山堂 2023年4月 (ISBN: 9784525720735)

講演・口頭発表等

1. 中枢における痒みの伝達・調節機構

藤井正徳

第122回日本皮膚科学会総会 2023年6月 招待有り

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. マスト細胞の脱顆粒応答抑制に関わる GPR35 の機能解析

日本学術振興会 科学研究費助成事業 2020年4月 - 2023年3月

論文

1. Identification of c-Met as a novel target of γ -glutamylcyclotransferase.

Yumiko Saito, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Mano Horinaka, Susumu Kageyama, Susumu Nakata, Osamu Ukimura, Toshiyuki Sakai

Scientific reports 13(1) 11922-11922 2023 年 7 月 24 日

2. Development of an activity-based chemiluminogenic probe for γ -glutamylcyclotransferase.

Yukie Nohara, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Shun Masuda, Hiroko Kawakami, Masakatsu Matsumoto, Yasunao Hattori, Susumu Kageyama, Toshiyuki Sakai, Susumu Nakata, Taku Yoshiya

Organic & biomolecular chemistry 21(29) 5977-5984 2023 年 7 月 12 日

3. Thiophene Carboxamide Analogs with Long Alkyl Chains Comprising Ethylene Glycol Units Inhibit Glioblastoma Cell Proliferation by Activating AMPK

Kaito Ohta, Hiromi Ii, Chiami Moyama, Shota Ando, Hisanori Nambu, Susumu Nakata, Naoto Kojima

Journal of Medicinal Chemistry 66(9) 6403-6413 2023 年 4 月 28 日

4. Myb Repression Mediates Stat5b-knockdown-induced Apoptosis and Inhibits Proliferation of Glioblastoma Stem Cells.

Chiami Moyama, Mitsugu Fujita, Hitoshi Okamoto, Hiromi Ii, Susumu Nakata

Cancer genomics & proteomics 20(2) 195-202 2023 年

MISC

1. N-トリエチレングリコール含有アルキル-3-カルボキサミドの合成と膠芽腫に対する抗腫瘍効果

大田海斗, 飯居宏美, 茂山千愛美, 安藤翔太, 岩崎宏樹, 南部寿則, 中田晋, 小島直人

日本薬学会九州山口支部大会 40th 2023 年 11 月

2. N-トリエチレングリコール含有アルキル-3-チオフェンカルボキサミド誘導体の合成と膠芽腫に対する生物活性の評価

大田海斗, 飯居宏美, 茂山千愛美, 安藤翔太, 岩崎宏樹, 南部寿則, 中田 晋, 小島直人

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

3. 新規アセトゲン誘導体による小細胞肺癌および大腸がん細胞の増殖抑制効果

下防 穂乃佳, 草木 菜穂, 小島 直人, 飯居 宏美, 中田 晋

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

4. GGCT 阻害剤と xCT 阻害剤の併用による膠芽腫幹細胞に対する相乗的な増殖抑制効果

櫻井 夏奈, 森 昌也, 野瀬 梢, 藤田 貢, 飯居 宏美, 中田 晋

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

5. 膠芽腫幹細胞の GGCT 発現制御機構に対する cJun の関与

嶋田 絢子, 山本 夏菜, 橋本 彩花, 野瀬 梢, 藤田 貢, 飯居 宏美, 中田 晋

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

6. GGCT ノックダウンの大腸がん細胞増殖抑制効果における Wnt 経路の関与

近藤 由佳, 立川 歩実, 近藤 真帆, 木下 晴菜, 飯居 宏美, 中田 晋

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

7. γ -glutamylcyclotransferase (GGCT) ノックダウンによる膠芽腫幹細胞の増殖抑制効果とそのメカニズム

野瀬 梢, 茂山 千愛美, 森 昌也, 飯居 宏美, 藤田 貢, 中田 晋

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

8. 大腸がん細胞における γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ発現抑制による抗腫瘍効果メカニズムに Wnt 経路抑制が関与する

飯居宏美, 近藤真帆, 伊藤公成, 中田晋

日本癌学会学術総会 82nd 2023 年 9 月

9. マウス膠芽腫幹細胞における GGCT ノックダウンによる細胞増殖抑制に対する Desert hedgehog の関与

森昌也, 嶋田絢子, 谷口恵香, 茂山千愛美, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋

日本癌学会学術総会 82nd 2023 年 9 月

10. γ -glutamylcyclotransferase(GGCT)ノックダウンは膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する。

野瀬梢, 森昌也, 茂山千愛美, 飯居宏美, 藤田貢, 中田晋

日本癌学会学術総会 82nd 2023 年 9 月

11. 新規がん予防標的 γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼの阻害は,c-Met 発現低下を介してがん細胞の増殖を抑制する

齋藤友充子, 谷口恵香, 飯居宏美, 堀中真野, 影山進, 中田晋, 浮村理, 酒井敏行

がん予防学術大会 2023 2023 年 9 月

12. 膠芽腫治療薬の創製を指向したチオフェンカルボキサミド誘導体の合成と抗腫瘍効果の評価

大田海斗, 小島直人, 中田晋

日本がん分子標的治療学会学術集会 27th 2023 年 6 月

13. c-Met 発現低下を介した γ -glutamylcyclotransferase(GGCT)阻害による前立腺がん細胞増殖抑制の新規分子機構の解明(Identification of c-Met as a novel target of gamma-glutamylcyclotransferase in a prostate cancer cell line)

齋藤 友充子, 谷口 恵香, 飯居 宏美, 堀中 真野, 影山 進, 中田 晋, 浮村 理, 酒井 敏行

日本泌尿器科学会総会 110 回 AOP09-07 2023 年 4 月

14. エチレンジグリコール単位を含むアルキル基を側鎖に持つチオフェンカルボキサミド誘導体の合成と膠芽腫幹細胞に対する増殖抑制活性

高橋達哉, 大田海斗, 竜石侑璃, 安藤翔太, 茂山千愛美, 飯居宏美, 中田晋, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

15. 化学発光団 BDU を用いたがん関連 GGCT プローブ“LISA-103”の開発

野原由江, 谷口恵香, 飯居宏美, 増田駿, 河上紘子, 松本正勝, 中田晋, 酒井敏行, 吉矢拓

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

16. アセトゲニンチオフェン誘導体の THF 環部分をトリエチレンジグリコールに置換した新規誘導体の合成とその抗腫瘍効果評価

大田海斗, 藤井真人, 茂山千愛美, 飯居宏美, 中田晋, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

17. シクロペンタン環により配座を固定したアセトゲニンチオフェン誘導体の合成とその作用機序の解明研究

細見紘幸, 小柴佐和子, 松本卓也, 安藤翔太, 茂山千愛美, 飯居宏美, 中田晋, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

18. 新規 PHB2 阻害剤による p21Waf1/Cip1 誘導を介したがん細胞の増殖抑制効果

土持歩夢, 吉井陸, 金田裕太, 松本流風, 茂山千愛美, 飯居宏美, 中田晋

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

19. GGCT ノックダウンによるマウス膠芽腫幹細胞の増殖抑制に対する Dhh の関与

森昌也, 吉田百花, 茂山千愛美, 安藤翔太, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋

日本薬学会年会 143rd 2023 年 3 月

20. sh-p53,EGFRvIII,NRasG12V 導入による膠芽腫幹細胞モデルを用いた GGCT およびヘッジホッグ経路リガンド発現制御機構

山本夏菜, 山向千晶, 松下眞子, 橋本彩花, 野瀬梢, 茂山千愛美, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋
日本薬学会年会 143rd 2023年3月

21. 膠芽腫幹細胞における γ -glutamylcyclotransferase(GGCT)ノックダウンによる増殖抑制メカニズムの解明
野瀬梢, 茂山千愛美, 飯居宏美, 森昌也, 亀井美保, 椎達哉, 吉田百花, 大草由佳子, 南京香, 安藤翔太,
中田晋
日本薬学会年会 143rd 2023年3月

講演・口頭発表等

1. 膠芽腫,大腸がん,肺がん等に有効性を示すミトコンドリア複合体 I 阻害を介した新規 AMPK 活性化剤
中田晋, 小島直人
日本癌学会学術総会 82nd 2023年9月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 薬用植物由来酵素を活用した擬天然物の構築と膠芽腫治療薬開発への展開
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023年4月 - 2027年3月
中村 誠宏, 齊藤 洋平, 小川 慶子, 芦原 英司, 松本 崇宏, 木村 寛之, 中田 晋

2. GGCT 阻害による Notch 制御機構の解明と膠芽腫幹細胞を標的する新規治療法の確立
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023年4月 - 2026年3月
中田 晋, 飯居 宏美, 藤田 貢

3. GGCT と xCT のダブル阻害によりフェロトーシスを増強する全く新しいがん治療戦略
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022年4月 - 2025年3月
飯居 宏美, 中田 晋

4. バイオインフォマティクス的手法による放射線脳壊死関連 M2 マクロファージの機能解析
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
藤田 貢, 山下 公大, 中田 晋, 宮武 伸一

5. GGCT による代謝変容が誘導する新規 Hedgehog 経路活性化機構の解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020年4月 - 2023年3月
中田 晋, 飯居 宏美, 藤田 貢

論文

1.Elucidation of the Tissue Distribution and Host Immunostimulatory Activity of Exogenously Administered Probiotic-Derived Extracellular Vesicles for Immunoadjuvant.

Masaki Morishita, Masakatsu Kida, Tomomi Motomura, Rihito Tsukamoto, Mizuho Atari, Kazuya Higashiwaki, Kisa Masuda, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto

Molecular pharmaceutics 20(12) 6104-6113 2023年12月4日

2.Lymphatic Transport and Immune Activation Effect by Locally Administered Extracellular Vesicles from *Saccharomyces cerevisiae* as Biocompatible Vaccine Adjuvants.

Masaki Morishita, Ryoga Nagata, Kento Maruoka, Ayaka Higuchi, Shota Sasaki, Sorari Wada, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto

Biological & pharmaceutical bulletin 46(10) 1427-1434 2023年10月

3.Encapsulation of an Antioxidant in Redox-Sensitive Self-Assembled Albumin Nanoparticles for the Treatment of Hepatitis

Kengo Yasuda Hitoshi Maeda Ryo Kinoshita Yuki Minayoshi Yuki Mizuta Yuka Nakamura Shuhei Imoto Koji Nishi Keishi Yamasaki Mina Sakuragi Teruya Nakamura Mayumi Ikeda-Imafuku Yasunori Iwao Yu Ishima Tatsuhiko Ishida Yasuko Iwakiri Masaki Otagiri Hiroshi Watanabe Toru Maruyama

ACS Nano 2023年8月14日

4.Anti-PEG IgM production induced by PEGylated liposomes as a function of administration route.

Haruka Takata, Taro Shimizu, Rina Yamade, Nehal E Elsadek, Sherif E Emam, Hidenori Ando, Yu Ishima, Tatsuhiko Ishida

Journal of controlled release : official journal of the Controlled Release Society 360 285-292 2023年6月29日

5.Effectiveness of Albumin-Fused Thioredoxin against 6-Hydroxydopamine-Induced Neurotoxicity In Vitro.

Okina Sakakibara, Mikako Shimoda, Gaku Yamamoto, Youichirou Higashi, Mayumi Ikeda-Imafuku, Yu Ishima, Masahiro Kawahara, Ken-Ichiro Tanaka

International journal of molecular sciences 24(11) 2023年6月5日

6.Effect of Probiotic-derived Extracellular Vesicles on Innate Immunity and Their Usability

Masaki Morishita, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto

YAKUGAKU ZASSHI 143(4) 365-368 2023年4月1日

7. Ionic liquid-based transcutaneous peptide antitumor vaccine; therapeutic effect in a mouse tumor model

清水 太郎 松崎 隆朗 福田 翔一郎 吉岡 千尋 島崎 優奈 竹瀬 俊輔 Yamanaka Katsuhiro Nakae Takashi
Ishibashi Masaki Hamamoto Hidetoshi 安藤 英紀 異島 優 石田 竜弘

The AAPS J Vol.25(No.2) 27-27 2023年3月

8. Development of Serine Modification-based Kidney-targeted Drug Delivery System

Hidemasa Katsumi, Masaki Morishita, Akira Yamamoto

YAKUGAKU ZASSHI 143(2) 121-126 2023年2月1日

9. Functional Characterization of Extracellular Vesicles from Baker's Yeast *Saccharomyces Cerevisiae* as a Novel Vaccine Material for Immune Cell Maturation

Ayaka Higuchi, Masaki Morishita, Ryoga Nagata, Kento Maruoka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto

Journal of Pharmaceutical Sciences 112(2) 525-534 2023年2月

10. Investigation of anti-PEG antibody response to PEG-containing cosmetic products in mice

Ibrahim Mohamed, Taro Shimizu, Hidenori Ando, Yu Ishima, Elgarhy Omar Helmy, Sarhan Hatem A, Hussein Amal K, Tatsuhiko Ishida

Journal of Controlled Release Vol.354 260-267 2023年2月1日

MISC

1. アルブミン受容体を生かした薬物送達—アルブミン介在性細胞内薬物送達促進メカニズムの全容解明に挑む

異島 優

ファルマシア 59(10) 898-902 2023年

書籍等出版物

1. 中分子ペプチド医薬で新たな標的を狙う!!

勝見英正, 森下将輝, 山本 昌 (担当: 分担執筆, 範囲: 第7章 生理活性ペプチドのドラッグデリバリーシステムの開発)

羊土社 2023年

講演・口頭発表等

1. アルブミンを基盤とした臓器特異的移行性を有する DDS キャリアの作製

橋本 愛子, 異島 優, 安藤 英紀, 石田 竜弘

第62回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 2023年10月28日

2.腎臓虚血再灌流時におけるセリン修飾高分子キャリアの腎臓移行性と抗酸化剤の腎臓ターゲティングによる腎臓障害抑制効果

安富彰一龍、勝見英正、木村 葉、辰己日向子、松浦 悟、森下将輝、山本 昌

第73回日本薬学会関西支部総会・大会、2023年10月

3.ビフィズス菌の代謝機構とアジド-アルキン反応を利用した細胞外小胞への分子搭載方法の開発と製剤化

森下 将輝、真壁 瑞歩、篠原 知紗、勝見 英正、異島 優

日本バイオマテリアル学会関西ブロック 第18回若手研究発表会 2023年7月

4.免疫活性化能の高い酵母由来細胞外小胞を獲得可能な酵母培養条件の確立

丸岡 健人、永田 凌雅、佐々木 将太、和田 空莉、中川 美咲、野口 詩織、森下 将輝、勝見 英正、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

5.経口投与型乳酸菌由来細胞外小胞の開発を目指した腸管機能変動の解明と製剤化研究

山口 真里奈、山脇 佑太、杉江 菜々子、堀田 捺月、森下 将輝、勝見 英正、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

6.アミノ酸代謝機構を利用したビフィズス菌由来細胞外小胞への分子搭載法の確立と製剤化

篠原 知紗、森下 将輝、福森 あみ、森田 しおり、真壁 瑞歩、勝見 英正、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

7.ビフィズス菌培養液中の糖組成が細胞外小胞の免疫活性化能に及ぼす影響の解明

阿多利 みずほ、塚本 梨仁、東脇 紀哉、増田 妃紗、森山 恵莉子、森下 将輝、勝見 英正、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

8.セリン修飾高分子を利用したメトレキサートの腎臓ターゲティングによる腎細胞癌治療法の開発

西園 龍之介、安富 彰一龍、勝見 英正、木村 葉、辰己 日向子、北田 翔、安岡 慎太郎、森下 将輝、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

9.腎臓虚血再灌流時におけるセリン修飾高分子キャリアの腎臓移行性と抗酸化剤の腎臓ターゲティングによる腎臓障害抑制効果

木村 葉、勝見 英正、安富 彰一龍、辰己 日向子、松浦 悟、森下 将輝、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

10.ヒアルロン酸ゲルシートを用いた骨粗鬆症治療薬アレンドロネートの経皮送達

手嶋 遥、勝見 英正、青木 梨央、岡田 茉莉、米山 秋穂、森下 将輝、田中 晶子、米戸 邦夫、坂根 稔康、山本 昌

第39回日本DDS学会学術集会 2023年7月

11.アミノ酸修飾を利用したターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発

勝見 英正, 森下 将輝, 山本 昌

第 39 回日本 DDS 学会学術集会 2023 年 7 月

12.ビフィズス菌のアミノ酸代謝機構と click chemistry を利用した細胞外小胞への分子搭載方法の開発と製剤化

森下 将輝, 真壁 瑞歩, 篠原 知紗, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

13.乳酸菌由来細胞外小胞が腸管のバリア能に与える影響の解明及び経口投与を指向した製剤化に関する研究

山脇 佑太, 森下 将輝, 笠井 美希, 村上 浩起, 山口 真里奈, 杉江 菜々子, 堀田 捺月, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

14.プロバイオティクス由来細胞外小胞を全身・局所投与後の体内動態及び生理活性の評価

塚本 梨仁, 森下 将輝, 阿多利 みずほ, 東脇 紀哉, 増田 妃紗, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

15.免疫賦活剤としての活用へ向けた酵母由来細胞外小胞の体内動態ならびに生理活性の評価

永田 凌雅, 森下 将輝, 丸岡 健人, 佐々木 将太, 和田 空莉, 中川 美咲, 野口 詩織, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

16.腎臓虚血再灌流時におけるセリン修飾高分子キャリアの腎臓移行性と抗酸化剤の腎臓ターゲティングによる腎臓障害抑制効果

木村 葉, 勝見 英正, 安富 彰一龍, 辰己 日向子, 松浦 悟, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

17.アミノ酸修飾を用いたターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発

勝見英正

日本薬剤学会第 38 年会 2023 年 5 月

18.アミノ酸修飾薬物キャリアを利用したアクティブターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発

勝見 英正, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

19.セリン修飾高分子を利用した中分子ペプチド [Gly14]-humanin の腎臓ターゲティング

今西 美稀, 勝見 英正, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

20. Investigation of the usefulness of human serum albumin nanoparticles as antigen delivery carriers to the spleen

山出 莉奈, 清水 太郎, 安藤 英紀, 異島 優, 石田 竜弘

日本薬学会第2回英語セミナー 2023年2月2日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 超硫黄分子 in-cell ケミストリーの確立とその生命科学研究への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究(A) 学術変革領域研究(A) 2021年9月 - 2026年3月

中川 秀彦

2. ビフィズス菌の糖代謝機構を利用した機能性細胞外小胞の創製とがん免疫療法への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2020年4月 - 2023年3月

森下 将輝

3. 中分子医薬品の腎臓標的化 DDS の開発による腎臓疾患治療法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022年4月 - 2025年3月

勝見 英正

4. 免疫誘導機能を搭載した善玉細菌由来細胞外小胞の経口接種による疾患発症予防法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2023年4月 - 2026年3月

森下 将輝

論文

1. Translational PK-PD/TD modeling of antitumor effects and peripheral neuropathy in gemcitabine and nab-paclitaxel chemotherapy from xenograft mice to patients for optimal dose and schedule.
Shinji Kobuchi, Atsuko Morita, Shizuka Jonan, Kikuko Amagase, Yukako Ito
Cancer chemotherapy and pharmacology 93(4) 365-379 2023年12月20日
2. Mobilization of Circulating Tumor Cells after Short- and Long-Term FOLFIRINOX and GEM/nab-PTX Chemotherapy in Xenograft Mouse Models of Human Pancreatic Cancer
Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Amiri Kawakita, Kazuki Tosaka, Yume Matsunaga, Shoma Yoshioka, Shizuka Jonan, Kikuko Amagase, Katsunori Hashimoto, Mitsuro Kanda, Takuya Saito, Hayao Nakanishi
Cancers 2023年11月20日
3. Pharmacokinetic evaluation of oxaliplatin combined with S-1 (SOX) chemotherapy in a rat model of colorectal cancer with acute kidney injury: predictive renal biomarkers for dose optimisation.
Takumi Tanaka, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
Xenobiotica; the fate of foreign compounds in biological systems 1-8 2023年11月15日
4. A Pharmacokinetic-Pharmacodynamic Model Predicts Uracil-tegafur Effect on Tumor Shrinkage and Myelosuppression in a Colorectal Cancer Rat Model
Shinji Kobuchi, Motoi Tsuda, Maki Okamura, Takanori Nakamura, Yukako Ito
Anticancer Research 43(3) 1121-1130 2023年2月28日

講演・口頭発表等

1. ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害剤 dapagliflozin の血漿中濃度と triglyceride 値低下作用との関係性について
廣井貴一, 西脇敬書, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
第97回日本薬理学会年会/第44回日本臨床薬理学会学術総会(兵庫) 2023年12月
2. 末梢神経障害マネジメントに向けたクロノセラピー導入 XELOX 療法の提案
竹若政国, 河津真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第97回日本薬理学会年会/第44回日本臨床薬理学会学術総会 2023年12月

3. II型糖尿病モデルラットにおけるナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin の血漿中濃度と insulin 濃度低下
溝田莉夕, 寺尾美優, 河津真治, 伊藤由佳子, 柴田敏之
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸) 2023 年 10 月
4. リキッドバイオプシーによる膵癌化学療法時の血中循環腫瘍細胞動態
松永夢, 吉岡祥真, 上南静佳, 河津真治, 天ヶ瀬紀久子, 中西速夫, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸) 2023 年 10 月
5. Fenofibrate 投与に伴う横紋筋融解症に対する pitavastatin、atorvastatin 併用の影響 – JADER データベースの解析とラットにおける基礎的検討 –
千頭咲, 森脇茜, 河津真治, 須瀬涼, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸) 2023 年 10 月
6. 膵癌化学療法中の骨髄抑制予防のための用量調節の可能性
寺内涼音, 吉岡宏祐, 河津真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 (神戸) 2023 年 10 月
7. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与後の HbA1c の経時的変化に関する母集団薬物動態 – 薬力学的解析
西岡啓太, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
第 11 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 (神戸) 2023 年 9 月
8. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin による脂質プロファイル改善作用について
西脇敬書, 廣井貴一, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
第 11 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 (神戸) 2023 年 9 月
9. Risk factor analysis for acute kidney injury during cancer chemotherapy in colorectal cancer with AKI model rats
Akari Yoshimoto, Kaito Shinzatio, Takumi Tanaka, Shinji Kobuchi, Yuuki Otsuka, Kikuko Amagase, Toshiyuki Sakaeda, Yukako Ito
第 82 回日本癌学会学術総会 (神奈川) 2023 年 9 月
10. Preventive effect of omeprazole as drug repositioning strategy on onset of OIPN
Yasuhiro Tsukushi, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
日本薬物動態学会第 38 回年会 / 第 23 回シントコム P450 国際会議国際合同大会 (横浜) 2023 年 9 月

11. Pharmacokinetics and biomarker analysis of SOX chemotherapy in chronic kidney disease model rats
Takumi Tanaka, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
日本薬物動態学会第 38 回年会／第 23 回シクロム P450 国際会議国際合同大会（横浜） 2023 年 9 月
12. 診療情報の統計解析入門
河瀬真治
第 39 回日本 TDM 学会・学術大会 2023 年 6 月 25 日
13. 医薬品情報を読み解くための「薬物動態学」
河瀬真治
第 25 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 2023 年 6 月 10 日
14. II 型糖尿病患者におけるナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与後の HbA1c の推移の変動要因の解明
栄井修平, 河瀬真治, 伊藤由佳子, 藤野秀樹, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
第 39 回日本 TDM 学会・学術大会（京都） 2023 年 6 月
15. スタチン系薬剤、フィブラート系薬剤の安全性に関する薬剤疫学的検討および基礎的検討
大畑亜理佐, 森脇茜, 河瀬真治, 須藤隼, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之
第 39 回日本 TDM 学会・学術大会（京都） 2023 年 6 月
16. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin による血清マグネシウム濃度の上昇に関する臨床的、基礎的研究
遠矢季穂, 河瀬真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
日本薬学会第 143 年会（北海道） 2023 年 3 月
17. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin の血漿中濃度の長期安定性と体重低下作用との関係について
岩原愛実, 西岡啓太, 河瀬真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
日本薬学会第 143 年会（北海道） 2023 年 3 月
18. II 型糖尿病モデルラットにおけるナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与による血漿中 insulin 濃度への影響について
寺尾美優, 西村京介, 珠久一貴, 河瀬真治, 伊藤由佳子, 柴田敏之
日本薬学会第 143 年会（北海道） 2023 年 3 月

19. ナトリウム・グルコース共輸送体2阻害剤 dapagliflozin による脂質プロファイルの改善と基礎的研究
谷手智, 三好達也, 河淵真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
日本薬学会第143年会(北海道) 2023年3月
20. スタチン系薬剤投与に伴う横紋筋融解症の発現について—JADER データベースの解析とラットを用いた基礎的検討—
西田美沙緒, 飯間杏奈, 森脇茜, 河淵真治, 豨瀬諒, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之
日本薬学会第143年会(北海道) 2023年3月
21. フィbrates系薬剤投与に伴う横紋筋融解症の発現について—JADER データベースの解析とラットを用いた基礎的検討—
飯間杏奈, 西田美沙緒, 森脇茜, 河淵真治, 豨瀬諒, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之
日本薬学会第143年会(北海道) 2023年3月
22. FOLFIRINOX 長期治療時のモデリング&シミュレーションアプローチによる予後予測の検討
登坂一樹, 川北亜実莉, 伊藤由佳子, 河淵真治, 柴田敏之
日本薬学会第143年会(北海道) 2023年3月
23. 急性腎障害発症時の XELOX 療法の用量調節に関する検討
新里海翔, 吉本朱里, 田中拓実, 河淵真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
日本薬学会第143年会(北海道) 2023年3月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. SGLT2 阻害剤ダパグリフロジンの慢性心不全に対する有効性に関する研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023年4月 - 2026年3月
柴田 敏之, 豨瀬 諒, 村木 優一, 河淵 真治
2. 脂肪由来幹細胞と免疫賦活剤を組み合わせた次世代治療法の開発—心疾患治療の高度化と新たな疾患治療への応用—
京都薬科大学国際共同研究 2023年4月 - 2025年3月
河淵真治, Wan-Tseng Hsu, Fei-Yuan Hsiao, Tzu-Tang Wei, 高田和幸, 河嶋秀和, 辻本雅之, 浜田翔平
3. リキッドバイオシーを活用する肺癌化学療法マネジメント実用化への展開
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
伊藤 由佳子

4. がん化学療法施行時の悪心・嘔吐リスク予測システムの構築と戦略的制吐療法の確立
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
河瀬 真治

臨床薬学

論文

1. Yusuke Tabuchi, Masayuki Tsujimoto, Kosuke Yamamoto, Ryo Shimizu, Tadashi Kosaka, Koichi Sakaguchi, Naoya Dobuchi, Kohshi Nishiguchi, Keisuke Shikata, Risk factors for infusion reactions in patients with breast cancer administered trastuzumab therapy, *Biol Pharm Bull* **46**(7), 964-968 (2023).
2. Yusuke Tabuchi, Masayuki Tsujimoto, Kosuke Yamamoto, Tadashi Kosaka, Koichi Sakaguchi, Naoya Dobuchi, Kohshi Nishiguchi, Keisuke Shikata, Incidence and risk factors of infusion reactions in patients with breast cancer administered trastuzumab plus pertuzumab-based regimen, *Cancer Chemother Pharmacol* **91**(1), 25-31 (2023).

MISC

1. ダサチニブによる口内炎副作用に対する半夏瀉心湯合嗽の有効性を示した一症例
溝口 浩晃, 幸 龍三郎, 松本 崇宏, 今西 孝至, 辻本 雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 117-121 2023年5月
2. 改善しない腰の痛みに対して処方提案した1例
中井洋平, 辻本雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 107-111 2023年5月
3. 認知症患者へのソラフェナシン投与の妥当性と副作用の評価
大井秀人, 辻本雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 89-92 2023年5月
4. ベンラファキシンに起因すると疑われる頭痛に対する薬剤師の介入
今堀 翔太, 松本 崇宏, 幸 龍三郎, 今西 孝至, 辻本 雅之
京都薬科大学紀要 4(1) 83-88 2023年5月
5. 学会誌編集委員会セミナー 論文執筆のお作法 論文初心者の皆さんへ
川添 和義, 森住 誠, 浦田 元樹, 岡田 直人, 辻本 雅之, 学会誌編集委員会
日本腎臓病薬物療法学会誌 12(1) 23-28 2023年4月

書籍等出版物

1. 災害を見据えた薬の準備

監修：西口工司

2023 K.K Sampowells Vol 3 小冊子

講演・口頭発表等

1. 論文作成概論

西口工司

京都薬科大学 2023 年度 Lehmann プログラム 2023 年 10 月

2. 薬物動態を学び直して 慢性腎臓病患者の 薬学的介入に繋げよう

辻本雅之

山科薬剤師会研修会 2023 年 8 月 5 日

3. Effects of kidney and heart function on PT-INR/Dose ratio in patients taking warfarin with heart failure

Masayuki Tsujimoto

2023 National Taiwan University School of Pharmacy Research Day and International Conference

2023 年 5 月 13 日

4. 医療を支える薬物動態学

辻本雅之

京都薬科大学 2023 年度 Lehmann プログラム 2023 年 5 月

5. ICT 活用

辻本雅之

京都薬科大学 2023 年度 Lehmann プログラム 2023 年 4 月

6. 倫理審査概論

辻本雅之

京都薬科大学 2023 年度 Lehmann プログラム 2023 年 4 月

7. 実臨床で活かす薬物動態の知識 ～相互作用について踏み込んで考えよう～

辻本雅之

びわこ薬剤師会 2023 年 1 月 28 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. トリプルネガティブ乳癌における PARP 阻害剤耐性化の克服を目指した新規機序の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月

西口工司, 辻本雅之

2. 金属カチオン製剤によるロスバスタチン濃度低下メカニズムの解明と関連医薬品への応用
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
辻本雅之, 西口工司
3. 小細胞肺癌患者におけるUDP-グルクロン酸転移酵素 1A1 の遺伝子多型がエトポシドの体内動態及びその副作用発現に及ぼす影響
大学間連携等による共同研究 2019年10月 - 2024年3月
辻本雅之, 西口工司

学会発表

1. Yusuke Tabuchi, Masayuki Tsujimoto, Naoya Dobuchi, Kohshi Nishiguchi, Keisuke Shikata. Influence of premedication with dexamethasone and pertuzumab combination on infusion reactions during trastuzumab therapy in patients with breast cancer. 2023 Midyear Clinical Meeting & Exhibition. 2023年12月3~6日 (アメリカ合衆国)
2. 田淵祐輔, 辻本雅之, 山本皓介, 清水瞭, 小阪直史, 阪口晃一, 土淵尚也, 西口工司, 四方敬介, 乳癌患者におけるトラスツマブ療法施行時に生じる infusion reaction に及ぼすデキサメタゾン前投与およびベルツマブ併用の影響, 第33回日本医療薬学会, 仙台, 2023,11.
3. 辻本雅之, 根来 寛, 辰己 晴菜, 松尾 憲治, 松本 優花, 藤岡 栞, 前田 明日香, 西口 工司, ヒトリコンビナント UGT1A1 によるエトポシド代謝に及ぼす種々薬物の影響, 第9回日本医薬品安全性学会学術大会, 東京, 2023, 07. 優秀演題賞受賞
4. 門木哲也, 辻本雅之, 阿部 恵, 高橋一栄, 経口セマグルチド導入における有効性及び投与中止原因に関する背景因子の探求, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島, 2023,05.
5. 木瀬優奈, 田淵祐輔, 坂本智美, 松田美祐, 辻本雅之, 西口工司, 医薬品副作用データベース (JADER) を用いた Infusion reaction に関連する生物学的製剤の特徴に関する検討, 日本薬学会第143年会, 札幌, 2023, 03.
6. 吉田梨紗, 山田奈月, 大西 蘭, 宮谷茉莉, 湯浅遥菜, 辻本雅之, 西口工司, ヒト乳癌細胞株の PARP 阻害薬耐性化が浸潤能に影響を及ぼす要因の解明, 日本薬学会第143年会, 札幌, 2023, 03.
7. 藤井 愛, 池田ひなた, 戸谷彩か, 葛本貴大, 米田朋美, 辻本雅之, 西口工司, 低酸素下における乳癌細胞株の 5-FU 感受性低下に対する STAT3 の寄与, 日本薬学会第143年会, 札幌, 2023, 03.

8. 弦牧美空, 清水真衣, 利安美咲, 阿部隆結衣, 中野祐介, 辻本雅之, 西口工司, ヒト乳癌細胞株の PARP 阻害薬耐性機序に対する AKT および mTOR の関与, 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023, 03.
9. 小菅真広, 辻本雅之, 今宿夏野, 川本真由香, 中村紗英, 西口工司, 消化管上皮 Caco-2 細胞におけるロスバスタチンの細胞内取り込みに及ぼすリン吸着剤の影響, 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023, 03.
10. 五十棲桃香, 辻本雅之, 沖本華南恵, 鈴木耀正, 岩田怜子, 藤井 藍, 西口工司, ヒトケラチノサイト由来 HaCaT 細胞におけるイブラグリフロジンの細胞障害性に及ぼす尿毒症物質の影響, 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023, 03.
11. 赤坂美穂, 辻本雅之, 中川幸歩, 日野萌那, 西口工司, リネゾリドの肝取り込みに及ぼす OATP1B1 及び OATP1B3 の影響, 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023, 03.

論文

1. Relationship between antihypertensive drug use and number of people with high blood pressure in FY 2018: a descriptive epidemiological study based on the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan open data
Kanakano Mizuno, Ryo Inose, Yukina Yoshimura, Yuichi Muraki
Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 9(1) 2023 年 12 月 9 日
2. 三重県の保険薬局における薬剤耐性 (AMR) 対策の現状に関するアンケート調査
岡下さくら, 猪瀬諒, 後藤良太, 田辺正樹, 大毛宏喜, 村木優一
日本薬剤師会雑誌 75(12) 1315-1320 2023 年 12 月
3. Trends in Implementation of Loading Dose of Voriconazole from 2010 to 2019 and Influencing Factors of Loading Dose Based on a Japanese Administrative Claim Database: A Retrospective Cohort Study
Ryo Inose, Ryota Goto, Misato Shimoki, Norio Ohmagari, Yuichi Muraki
Biological and Pharmaceutical Bulletin 46(12) 1838-1841 2023 年 12 月 1 日
4. Relationship between carbapenem use and major diagnostic category in curative care beds: Analysis of a 2020 Japanese national administrative database.
Kozue Yamaguchi, Maeda Masayuki, Norio Ohmagari, Yuichi Muraki
Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy
2023 年 11 月 10 日
5. Trends in teicoplanin loading dose implementation from 2010 to 2019 and evaluation of safety and efficacy factors: a retrospective cohort study based on a Japanese administrative claims database.
Ryota Goto, Yuichi Muraki, Ryo Inose, Moeno Ichii, Keisuke Sawada, Kanako Mizuno, Ryuji Koizumi, Shinya Tsuzuki, Masahiro Ishikane, Norio Ohmagari
Journal of pharmaceutical health care and sciences 9(1) 35-35 2023 年 11 月 1 日
6. Comparative effectiveness of cefmetazole versus carbapenems and piperacillin/tazobactam as initial therapy for bacteremic acute cholangitis: A retrospective study
Kazuhiro Aoto, Ryo Inose, Tadashi Kosaka, Keisuke Shikata, Yuichi Muraki
Journal of Infection and Chemotherapy 2023 年 10 月

7. Risks of malignant lymphoma in rheumatoid arthritis patients receiving methotrexate-alone and in combination therapy compared with the general population: A study based on a Japanese medical claims database.

Ryo Inose, Arisa Nakamura, Rina Omi, Shujiro Takeno, Yuichi Muraki

International journal of clinical pharmacology and therapeutics 2023年8月14日

8. 抗微生物薬適正使用支援活動の実施状況並びに成果公表の障壁要因に関するアンケート調査

猪瀬 諒, 三宅 健文, 上田 覚, 眞継 賢一, 前田 真之, 北原 隆志, 村木 優一, 日本病院薬剤師会学術委員会令和4年度学術第1小委員会

日本病院薬剤師会雑誌 59(8) 847-852 2023年8月

9. Evaluation of the meropenem dosage and administration schedule in patients with bacteremia initial therapy.

Tatsuya Tai, Takaaki Yamamoto, Kazunori Yamaguchi, Masahiro Watanabe, Hiroaki Tanaka, Yuichi Muraki, Shinji Kosaka

Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 29(8) 749-753 2023年8月

10. 2010年および2016年当時における全国を対象とした医療機関による薬剤耐性対策の実態調査

後藤 良太, 猪瀬 諒, 田中 真幸, 大曲 貴夫, 村木 優一

日本化学療法学会雑誌 71(3) 326-331 2023年5月

11. Effectiveness of Noncertified Pharmacist-Led Antimicrobial Stewardship Programs in a Medium-Sized Hospital Without an Infectious Disease Specialist: A Retrospective Pre-Post Study.

Keisuke Sawada, Ryo Inose, Ryota Goto, Takeshi Nakatani, Shuji Kono, Yuichi Muraki

Open forum infectious diseases 10(3) ofad116 2023年3月

12. Risk of a second cancer and infection in patients with indolent B-cell lymphoma exposed to first-line bendamustine plus rituximab: A retrospective analysis of an administrative claims database.

Satoshi Dote, Ryo Inose, Ryota Goto, Yuka Kobayashi, Yuichi Muraki

Hematological oncology 2023年2月15日

13. Effects of population age structure on parenteral antimicrobial use estimations.

Ryuji Koizumi, Yoshiki Kusama, Yusuke Asai, Shinya Tsuzuki, Kensuke Aoyagi, Masahiro Ishikane, Yuichi Muraki, Norio Ohmagari

Scientific reports 13(1) 840-840 2023年1月16日

14. Necessity for a System Implementing Therapeutic Drug Monitoring in Outpatient Settings Based on the Actual Use of Voriconazole Using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan: A Descriptive Epidemiological Study.

Yuichi Muraki, Ryuji Koizumi, Yoshiki Kusama, Ryo Inose, Masahiro Ishikane, Norio Ohmagari
Biological & pharmaceutical bulletin 46(10) 1490-1493 2023 年

MISC

1. 【抗真菌薬選択がよくわかる 表在性皮膚真菌症・深在性真菌症の薬物治療】抗真菌薬の投与設計 抗真菌薬の使用量調査からみえる投与計画の問題点

村木 優一

薬事 65(8) 1561-1564 2023 年 6 月

2. デジタルトランスフォーメーション(DX)時代にむけた TDM 研究の新しい潮流 大規模保険請求情報を TDM 研究に活用する新たな試み

豕瀬 諒, 村木 優一

TDM 研究 40(2) 115-115 2023 年 6 月

3. 薬物相互作用を考慮したリバーロキサバンの投与量に関する考察

佐々木京子, 豕瀬諒, 村木優一

京都薬科大学紀要 4(1) 98-101 2023 年 5 月

4. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学(完) 抗菌薬と相互作用をもつ薬剤服用中の患者/抗菌薬アレルギーの患者/受診勧奨を行うべき患者

山口 諒, 丹羽 隆, 片山 歳也, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 65(6) 1195-1206 2023 年 5 月

5. 日本で初めて明らかとなった全国の薬局から収集した調剤情報に基づく抗菌薬使用動向とその影響因子の探索

村木 優一

調剤と情報 29(5) 806-810 2023 年 4 月

6. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学(第 11 回)(Case1) 小児

丹沢 彩乃, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 65(4) 800-808 2023 年 3 月

書籍等出版物

1. 感染症・病原体とくすり

継田, 雅美, 辻, 泰弘 (薬学), 松元, 一明, 村木, 優一
南山堂 2023 年 12 月 (ISBN: 9784525780913)

2. WHO 手指衛生テクニカルリファレンスマニュアル

坂本 史衣, 笠原 敬, 具 芳明, 三鴨 廣繁, 村木 優一, 八木 哲也, 柳原 克紀, 吉田 眞紀子, 早川 佳代子, 松永 展明, 石岡 春彦, 田島 太一
2023 年

講演・口頭発表等

1. 薬学部における DX を活用した先進的な臨床薬学教育の実践

村木 優一

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

2. この先 12 年にむけた感染症領域における卒前教育の方向性

村木 優一

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

3. 膵がんに対する S-1 術後補助化学療法における重篤な好中球減少症の発現が予後に及ぼす影響

野口 裕介, 大坪 達弥, 小林 大祐, 加藤 良隆, 豨瀬 諒, 村木 優一, 友金 幹視

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

4. 大規模保険請求情報は多剤耐性アシネトバクター感染症の感染契機を分類できるのか？

上本 花南, 村木 優一, 後藤 良太, 福岡 千晴, 水野 香菜子, 豨瀬 諒, 大毛 宏喜, 大曲 貴夫

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

5. 大規模保険請求情報を用いたドセタキセルによる血管外漏出の発現頻度とリスク因子の評価

柳澤 里奈, 豨瀬 諒, 後藤 良太, 村木 優一

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

6. 腎機能障害を有する COVID-19 感染症患者におけるレムデシビル安全性評価

村瀬 大翔, 段林 正明, 山田 正実, 村木 優一, 高橋 一栄

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

7. 大規模保険請求情報は多剤耐性緑膿菌感染症の感染契機を分類できるのか？

福岡 千晴, 村木 優一, 後藤 良太, 水野香菜子, 豨瀬 諒, 大毛 宏喜, 大曲 貴夫

第 71 回日本化学療法学会西日本支部総会 第 93 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 合同学会
2023 年 11 月

8. 決定木分析における候補モデル集合の構築について
林邦好, 猪瀬諒, 竹村祐亮, 土田潤, 山田隆行, 中村智洋, 阿部貴行, 栗原考次
日本計算機統計学会第 37 回シンポジウム 2023 年 11 月
9. 2016 年度から 2020 年度における NDB オープンデータを用いた日本における睡眠薬の使用状況の評価
松谷幸一郎, 猪瀬諒, 水野香菜子, 後藤良太, 村木優一
第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月
10. AMR 対策における疫学研究の展開
村木 優一
医療薬学フォーラム 2023 2023 年 7 月
11. 2018 年度のレセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) オープンデータに基づく DDDs/1000 inhabitants/day (DID) を用いた日本における血糖降下薬の使用状況
後藤良太, 猪瀬諒, 栗島優, 村木優一
医療薬学フォーラム 2023 2023 年 7 月
12. 大規模保険請求情報を用いた生産年齢人口の関節リウマチ患者における悪性リンパ腫の発現状況の評価.
猪瀬諒, 中村有沙, 大見里奈, 岳野秀二郎, 村木優一
医療薬学フォーラム 2023 2023 年 7 月
13. 京都薬科大学における感染症領域の教育
村木 優一
第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会 2023 年 7 月
14. 大規模保険請求情報を用いたバンコマイシンの負荷投与における経年的な実施状況および有効性に与える影響の評価
後藤 良太, 猪瀬 諒, 沢田 佳祐, 村木 優一
MRSA フォーラム 2023 2023 年 7 月
15. 実例に基づく有害事象自発報告データベースを用いた臨床的疑問の解決法と注意点
猪瀬諒
第 25 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 2023 年 6 月
16. 日本の大規模保険請求情報を用いたポリコナゾールの負荷投与の実施状況および 30 日死亡に影響を及ぼす因子の検討
猪瀬諒, 後藤良太, 下木美里, 村木優一
第 39 回日本 TDM 学会・学術大会 2023 年 6 月

17. 大規模保険請求情報を TDM 研究に活用する新たな試み

豕瀬諒, 村木優一

第 39 回日本 TDM 学会・学術大会 2023 年 6 月

18. 臨床薬剤師が視るリアルワールドデータ研究の萌芽

土手 賢史, 村木 優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

19. AMR 研究 – AMR 対策に向けた様々な抗菌薬の使用状況を明らかにするための研究 –

村木 優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

20. フィブレート系薬剤投与に伴う横紋筋融解症の発現について – JADER データベースの解析とラットを用いた基礎的検討 –

飯間杏奈, 西田美沙緒, 森脇茜, 河津真治, 豕瀬諒, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

21. スタチン系薬剤投与に伴う横紋筋融解症の発現について – JADER データベースの解析とラットを用いた基礎的検討 –

西田美沙緒, 飯間杏奈, 森脇茜, 河津真治, 豕瀬諒, 伊藤由佳子, 村木優一, 柴田敏之

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

22. 2010 年および 2016 年当時における全国を対象とした医療機関による薬剤耐性対策の実態調査

後藤良太, 豕瀬諒, 村木優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

23. ドセタキセルを投与された肺癌患者における呼吸器感染症の発現状況の評価: 基礎研究で得られた仮説に対する大規模保険請求情報を用いた検証

豕瀬諒, 後藤良太, 細木誠之, 芦原英司, 村木優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

24. NDB オープンデータを用いた日本の外来における経口降圧薬の使用状況と高血圧患者数との関係

吉村 優希奈, 豕瀬 諒, 村木 優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

25. 日本の大規模請求情報を用いた薬剤師の介入がポリコザールの適正使用に及ぼす影響の評価

下木 美里, 後藤 良太, 豕瀬 諒, 一井萌 乃, 伊藤 早紀, 村木 優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

26. 日本の大規模保険請求情報を用いたテイコプラニンの負荷投与の実施状況および 30 日死亡に影響を与える因子の検討

一井 萌乃, 後藤 良太, 豕瀬 諒, 村木 優一

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月

27. 病院薬剤師から大学教員へキャリアを転換し、論文博士を取得した経験と今後の展望

豕瀬諒

第 44 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 2023 年 3 月

28. 生産年齢人口の関節リウマチ患者における悪性腫瘍の発現リスクの評価：大規模保険請求情報を用いた後方視的検討

豕瀬諒, 中村有沙, 大見里奈, 岳野秀二郎, 村木優一

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 2023 年 3 月

29. 薬剤師における学位取得の支援体制の必要性

村木 優一

近畿薬剤師合同学術大会 2023 2023 年 2 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. SGLT2 阻害剤ダパグリフロジンの慢性心不全に対する有効性に関する研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月

柴田 敏之, 豕瀬 諒, 村木 優一, 河淵 真治

2. 薬剤耐性対策の費用対効果を適切に評価するための研究手法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月

赤沢 学, 莊司 智和, 村木 優一

3. 医療リアルワールドデータに対するデータサイエンス手法及び影響診断法の応用と新たな知見獲得～医薬品の創出と適正使用の為に

京都薬科大学 京都薬科大学シナジー共同研究 2023 年 4 月 - 2025 年 3 月

柴田 敏之, 豕瀬 諒, 地寄 悠吾, 林 邦好, 中村 智洋, 阿部 貴行, 栗原 考次

4. 抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月

長澤 一樹, 森戸 克弥, 村木 優一, 高山 健太郎

5. 薬剤耐性(AMR)アクションプラン 2023-2027 年の実行における課題解決のための研究

厚生労働省(MHLW) 厚生労働科学研究費補助金(厚生科研費) 2023年4月 - 2026年3月
大曲 貴夫

6. 診療所及び高齢者施設を対象とする効率的・効果的な薬剤耐性菌制御手法の確立のための研究
厚生労働省(MHLW) 厚生労働科学研究費補助金(厚生科研費) 2022年4月 - 2025年3月
大毛 宏喜

7. 複数のリアルワールドデータを用いて制吐薬の適正使用に関する実態を評価できるのか
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2022年4月 - 2024年3月
豨瀬 諒

8. 基礎や臨床研究で得られた臨床上での有用性はリアルワールドデータで検証できるのか
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月
村木 優一

9. 薬局薬剤師による AMR 対策への提言に向けた居宅訪問による抗菌薬適正使用の実態調査
日本薬剤師会 薬剤師職能振興研究助成事業 2023年

論文

1. Sugar-rich food intake negatively associates to plasma PTX3 levels

Asako Zempo-Miyaki, Hiroshi Kumagai, Koichiro Tanahashi, Hirofumi Zempo, Takeshi Otsuki, Seiji Maeda

Journal of Obesity & Metabolic Syndrome 2023年11月

2. 健常者の静止立位姿勢における足圧中心動揺変数の性差と年代差,及び変数間の関係

青木 宏樹, 出村 慎一, 山次 俊介, 長澤 吉則, 中谷 敏昭, 灘本 雅一

教育医学 68(4) 247-257 2023年6月

講演・口頭発表会

1. 健康サポート薬局研修修了者における研修の効率性および研修内容の利用度調査

戸井真也, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

第33回日本医療薬学会年会 2023年11月

2. 薬局薬剤師と薬局利用者における健康サポート薬局サービスの重要度の比較

田中克憲, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

第73回日本薬学会関西支部総会・大会 2023年10月

3. 下肢の等張性筋力発揮調整能の性差及び年代差

長澤吉則, 出村慎一, 青木宏樹, 沼尾成晴, 棚橋嵩一郎

日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会 2023年8月

4. 敏捷能力を評価する新規四肢の連続選択反応テストと既存のテストとの関係

青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則, 屋敷恭介

日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会 2023年8月

5. 転倒回避能力テストの試行間信頼性

屋敷恭介, 出村慎一, 藤谷かおる, 青木宏樹, 長澤吉則, 永山亮一, 当麻成人

日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会 2023年8月

6. 敏捷能力を評価する新規四肢の連続選択反応テストと既存のテストの試行間信頼性の比較

青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則, 屋敷恭介

第70回日本教育医学会記念大会 2023年8月

7.中高年者における受動的バランス保持時の重心動揺変数の信頼性, 性差及び方向差

長澤吉則, 出村慎一, 松浦義昌, 青木宏樹

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

8.馴染みのない音楽の聴取が作業パフォーマンスに及ぼす影響

辻畑真奈美, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

9.サージカルマスクを介した精油吸入が自律神経機能及び気分に及ぼす影響

新井優希, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

10.若年女性における口腔乾燥感と身体的及び心理的ストレスの関係

町田邑子, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

11.スマートフォン使用が座位姿勢及び肩こりに及ぼす影響

業合伸梧, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

12.若年者における立ち上がり及び 2 ステップテスト得点と健康関連因子の関係

藤本萌未, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

13.タッチとステップを利用した連続選択反応テストによる女子バスケットボール選手の敏捷能力

永山亮一, 出村慎一, 青木宏樹, 長澤吉則, 屋敷恭介

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

14.高齢者の転倒回避能力テストにおける評価変数の検討

屋敷恭介, 出村慎一, 藤谷かおる, 青木宏樹, 長澤吉則, 永山亮一, 当麻成人

第 70 回日本教育医学会記念大会 2023 年 8 月

15.月経周期が一過性の有酸素性運動による皮膚特性変化に及ぼす影響

内山珠緒, 鈴木志穂, 棚橋嵩一郎, 田中喜代次, 長澤吉則

第 23 回日本抗加齢医学会総会 2023 年 6 月

16.若年者における睡眠の質と皮膚特性の関係及びその性差

鈴木志穂, 内山珠緒, 棚橋嵩一郎, 田中喜代次, 長澤吉則

第 23 回日本抗加齢医学会総会 2023 年 6 月

17.健康サポート薬局研修の達成目標に対する研修修了者と未受講者の到達度比較

戸井真也, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

日本薬学会 第 143 年会(北海道) 2023 年 3 月

18.若年者における心理的ストレスと生活習慣の関連

堀健太, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

19.中高年者における新規器具によるバランス能力テストの信頼性、性差及び方向差

長澤吉則, 出村慎一, 松浦義昌, 青木宏樹

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

20.中高年者における四肢の連続選択反応テストの性差及び指示パターン間差

屋敷恭介, 出村慎一, 藤谷かおる, 青木宏樹, 長澤吉則, 永山亮一

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

21.四肢の連続選択反応テストの差異妥当性

青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則, 屋敷恭介

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

22.大学サッカー競技者における BCAA 摂取のタイミングが疲労に及ぼす影響

塩飽海士, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

23.若年女性における握力発揮特性値と健康関連因子の関係

武田慎平, 棚橋嵩一郎, 長澤吉則

日本体育測定評価学会 第 22 回大会・第 5 回身体科学研究会 合同大会(神奈川) 2023 年 3 月

社会貢献活動

1.運動ですこやかに良い人生をかさねる：サクセスフル・エイジングと高齢者の心臓リハビリの取組みから

講師

京都橘大学・京都薬科大学 京都市「学まち連携大学」促進事業 市民向け共同公開講座 京のやくたちばなし

2023 年 7 月

物理学

論文

1. Strength estimation for moving iodine-125 source for brachytherapy; application to source link loader” K.Tanaka, T.Kajimoto, O.Asanuma, M.Hori, K.Kamo, T.Suzuki, I.Sumida, Y.Takahashi, G.Bengua, K.Sakata, Bulletin of Kyoto Pharmaceutical University 4 167-174 2023年12月 査読有り
2. Internal organ dose rate conversion coefficients of Japanese macaques to 134Cs,137Cs and 131I, Y.Takamura, T.Kajimoto, K.Tanaka, T.Yamamoto, M.Suzuki, Y.Inaba, K.Chida, M.Fukumoto, C.Rangacharyulu, S.Endo, Journal of Radiation Research 64 1-7 2023年9月 査読有り
3. “Preliminary analysis of spherical Iron-rich particles extracted from Moto-Ujina beach sand as a possible tracer for Hiroshima black rain” S.Endo, T.Kajimoto, K.Tanaka, H.Higuchi, S.Fukutani, K.Takamiya, M.Maeda, Y.Igarashi, Journal of Nuclear and Radiochemical Sciences 23 5-13 2023年7月 査読有り
4. 小線源治療のための移動中線源強度評価法の開発;線源連結装置への適用, K. Tanaka, T. Kajimoto, O. Asanuma, M. Hori, K. Kamo, T. Suzuki, I. Sumida, Y. Takahashi, G. Bengua, K. Sakata, 医学物理 43(Sup3) 154-154 2023年9月 査読無し

MISC

1. 高村侑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 田中憲一, 遠藤暁「134Cs、137Cs、129I、131I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数」日本原子力学会 2023 年秋の大会要旨集、(2023) 1J06.

学会発表

1. 高村侑汰、梶本剛、鈴木正敏、福本学、田中憲一、遠藤暁、「ボクセルファントムを用いた二ホンザルの内部被ばく臓器線量評価」日本原子力学会中国・四国支部第 17 回研究発表会、(2023.12.9)広島
2. 梶本剛、中尾徳晶、佐波俊哉、田中憲一、遠藤 暁、Froeschl Robert、「Simulation calculation of aluminum activation experiment at CERN/CHARM--7Be, 22Na, and 24Na production--CERN/CHARM でのアルミニウム放射化実験の模擬計算--7Be, 22Na, 24Na 生成量--」核データ+PHITS 研究会 (2023.11.15-17) 茨城.
3. 高村侑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 福本学, 田中憲一, 遠藤暁、「134Cs、137Cs、129I、131I における二ホンザルの内部・外部被ばく臓器線量率換算係数 Organ dose rate conversion coefficients for internal and external exposure of Japanese macaques for 134Cs, 137Cs, 129I, 131I」日本放射線影響学会第 66 回大会 (2023.11.6-8) 東京
4. 高村侑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 福本学, 田中憲一, 遠藤暁、「134Cs、137Cs、129I、131I における二ホンザルの内部・外部被ばく臓器線量率換算係数の推定と線量評価」第 8 回 福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会 (2023.10.28) 仙台

5. 田中憲一、梶本剛、浅沼治、堀正和、加茂憲一、鈴木健史、隅田伊織、高橋豊、G.Bengua、坂田耕一、遠藤暁、「小線源治療のための移動中線源強度評価法の開発(5)線源連結装置への適用」第 124 回日本医学物理学学会学術大会 (2023.9.15-17) 広島 (ポスター)

6. 中島 寛, 山崎 岳, 長沼 毅, 田中 憲一, 免田 一徳, 稲田 晋宣, 松嶋 亮人, 木庭 亮二, 寺元 浩昭, 宗岡 亜衣、「広島大学の非密封放射線施設の集約」、日本放射線管理学会第 22 回大会、(2023.11.11-13)、静岡.

7. 高村侑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 田中憲一, 遠藤暁「 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{129}I 、 ^{131}I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数」日本原子力学会 2023 年秋の大会、(2023.9.6-8) 名古屋.

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 代表者、基盤研究 (C) (一般)、2023~2025 年度 (課題番号: 23K07118) 「BNCT の線量・線質の体内 3 次元分布の評価法—全身ファントム型蛍光体の開発—」、直接経費計 370 万円、間接経費含めて計 481 万円

数学

論文

1. The Phase Space Description of the Geodesics on the Statistical Model on a Finite Set - Trajectory-Confinement and Integrability -

Yoshio Uwano

Lecture Notes in Computer Science, Springer (Heidelberg, Germany) 14072 444-453 2023 年 8 月

書籍等出版物

1. 薬科系の基礎数学 Part 2 –積分, 微分方程式– 第2版

上野嘉夫

学術図書出版社 2023 年 10 月 (ISBN: 9784780611601)

2. 薬科系の基礎数学 Part 1 –微分– 第2版

上野嘉夫

学術図書出版社 2023 年 3 月 (ISBN: 9784780611359)

講演・口頭発表等

1. The Phase Space Description of the Geodesics on the Statistical Model on a Finite Set - Trajectory Confinement and Integrability -

Yoshio Uwano

GSI'23, The 6th International Conference on Geometric Science of Information 2023 年 8 月 31 日

一般教育

論文

1. Amyloidogenic 60–71 deletion/ValThr insertion mutation of apolipoprotein A-I generates a new aggregation-prone segment that promotes nucleation through entropic effects.

Norihiro Namba, Takashi Ohgita, Hiroko Tamagaki-Asahina, Kazuchika Nishitsuji, Toshinori Shimanouchi, Takeshi Sato, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 13(1) 18514-18514 2023年12月

2. Characterizing interaction between the juxtamembrane region of the single transmembrane protein and membrane using chemically synthesized peptides.

Takeshi Sato, Akira Shinohara

STAR Protocols 4(3) 102454-102454 2023年9月 査読有り

MISC

1. Bleak House の世界を理解するカギとしての伝染病

今井千壽

京都薬科大学紀要 4(2) 149-158 2023年12月

2. コロナ禍でのウィーン留学

坂本尚志

京都薬科大学紀要 4(1) 122-130 2023年7月 筆頭著者

3. 2022年夏季ドイツ語教員研修参加報告

岩崎 大輔

京都薬科大学紀要 4(1) 56-69 2023年5月29日

4. マスクから見たヨーロッパと日本

坂本尚志

京都薬報 (533) 85-86 2023年1月 招待有り筆頭著者

書籍等出版物

1. フランスの高校生が学んでいる哲学の教科書

Pépin, Charles, 永田, 千奈

草思社 2023年11月 (ISBN: 9784794226808)

担当区分

その他

担当範囲

解説「フランスの高校生はどのように哲学を学んでいるのか？」

2.変動する総合・探究学習：欧米と日本歴史と現在

伊藤, 実歩子

大修館書店 2023年3月 (ISBN: 9784469222784)

担当範囲

哲学教育はなぜ総合学習なのか フランスの中等教育における「体系」の再構築

担当ページ

197-214

3.リベラルアーツと自然科学

石井, 洋二郎, 大栗, 博司, 長谷川, 真理子, 下条, 信輔

水声社 2023年3月 (ISBN: 9784801006973)

担当範囲

なぜフランスの理系エリートには一般教養が必要なのか？

担当ページ

179-193

4.生命と規範の哲学：カンギレム『正常と病理』を読む

Le Blanc, Guillaume, 坂本, 尚志

以文社 2023年3月 (ISBN: 9784753103737)

講演・口頭発表等

1.『生命と規範の哲学』とギヨーム・ルブランの思想

坂本尚志

ギヨーム・ルブラン 著 坂本尚志 訳 『カンギレム『正常と病理』を読む 生命と規範の哲学』（以文社） 書評会

2023年11月25日

2.フランスの理系人材はどう育てられるか？哲学と一般教養をめぐって

坂本尚志

科学カフェ京都 第173回定例会 2023年11月19日 招待有り

3.「根本説一切有部律」に説かれる病者にまつわる諸規定について

岸野良治

日本佛教学会第92回学術大会（駒澤大学） 2023年9月30日

4.東アジアにおける「根本説一切有部律」の伝承とその意義について

岸野良治

對法雜誌刊行会主宰講演会（佛教大学） 2023年9月14日 招待有り

5.學如の校訂・出版した『根本薩婆多部律攝』に見られる書き込みについて

岸野良治

日本印度学佛教学会第74回学術大会 2023年9月3日

6.インドにおける勸化：『摩訶僧祇律』を中心に

岸野良治

日本印度学佛教学会第74回学術大会 2023年9月2日

7.インドにおける「勸化」：チャンダカについての一考察

岸野良治

律藏研究の現在（東京大学） 2023年7月29日 招待有り

8.アカデミック・ライティングの基礎 問題意識を問いに変換する

坂本尚志

大学コンソーシアム京都 SD ゼミナール 2023年5月27日 招待有り

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. Notch 受容体機能の膜組成への依存性の解析とシグナリング機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月

佐藤 毅

2. 「最初のフーコー」の総合的研究－フランス国立図書館所蔵の未公開資料に基づく考察

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022年4月 - 2026年3月

坂本 尚志

3. 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021年4月 - 2024年3月

林 篤裕, 坂本 尚志, 児玉 忠, 鈴木 慶子

4. 空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動

日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤 C） 基盤研究(C) 2022年4月 - 2027年3月

岸野 亮示

5. TACE の切断能を誘導する細胞外領域と細胞膜との相互作用

日本私立学校振興・共済事業団 2023年度女性研究者奨励金 2023年4月-2024年3月

朝比奈 裕子

6.脂質二重膜上における TACE の切断能誘導機構の解明

内藤記念科学財団 2023 年度内藤記念女性研究者研究助成 2023 年 12 月-2026 年 11 月

朝比奈 裕子

MISC

1. Akihiro Hiraki, Norihisa Yoshimura, Shinzo Hosoi. Verification of learning effects of the pharmacy practice type questions of the National Examination for Pharmacists prepared by students: Importance of reviewing long-term practical training (学生による「薬学実践問題」作成の学修効果の検証—長期実務実習の振り返りの重要性—). *Bulletin of Kyoto Pharmaceutical University* (京都薬科大学紀要), **2023**, 4(1), 70-82.

書籍等出版物

1. 開章宏(分担執筆). 第1章 基礎的な学びのスキル 1.3 講義を終えてから-学修の定着に向けて-, 「京薬生のためのアカデミック・スキル(2023年度版)」, 坂本尚志, 開章宏, 高尾郁子; 京都薬科大学アカデミック・スキル育成研究会, **2023**, 26-31.

講演・口頭発表等

1. 吉村典久, 開章宏, 細井信造. 薬剤師国家試験の総得点率と強い相関がある「正答率が高い問題」に関する解析〜より効果的な学修支援を目指して〜, 第8回日本薬学教育学会大会, 熊本, **202308**.

論文

1.デザインに拠る薬効を示すピクトグラム の 作成とその必要性ならびに視認性の評価

今西孝至, 中居由稀, 中野仁人, 井上 郁, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 4(2) 175-181 2023 年 12 月 査読有り

2.京都府下における抗アレルギー薬の薬剤負担額を提示した後発医薬品使用促進への効果測定

中村 暢彦, 寺門 真夕, 太田 実侖, 光岡 由利子, 中林 保, 楠本 正明

ジェネリック研究 17(2) 59-65 2023 年 12 月 査読有り

3. Cost-Effectiveness Analysis of Atezolizumab versus Platinum-Based Chemotherapy as First-Line Treatment for Patients with Unresectable Advanced Non-small Cell Lung Cancer with PD-L1 Expression Status in Japan.

Yugo Chisaki, Hajime Nakano, Juna Minamide, Yoshitaka Yano

Clinical drug investigation 43(11) 839-850 2023 年 10 月 27 日 査読有り

4. Survival Prediction of Patients Who Were Terminally Ill Using the EORTC QLQ-C15-PAL Scores and Laboratory Test Values.

Chikako Matsumura, Nanako Koyama, Kaho Okuno, Nobuhiko Nakamura, Morito Sako, Hideo Kurosawa, Takehisa Nomura, Yuki Eguchi, Kazuki Ohba, Yoshitaka Yano

Palliative medicine reports 4(1) 202-207 2023 年 査読有り

MISC

1.在宅医療で活躍できる薬剤師の教育プログラムの構築と実践

今西孝至

薬学教育 7 41-49 2023 年 10 月 査読有り

2.テキストマイニングの基礎知識 (概念、方法、解釈、注意点について)

今西孝至

京都薬報 7 月号 539 65-67 2023 年 7 月 招待有り

3.ベンラファキシンに起因すると疑われる頭痛に対する薬剤師の介入

今堀翔太, 松本崇宏, 幸龍三郎, 今西孝至, 辻本雅之

京都薬科大学紀要 4(1) 83-88 2023 年 5 月 招待有り

4.S 状結腸癌における CAPOX 術後補助化学療法中に霧視を認めた 1 症例

沢 仁美, 中村 暢彦

京都薬科大学紀要 4(1) 102-106 2023 年 5 月

5.ガサニチブによる口内炎副作用に対する半夏瀉心湯含嗽の有効性を示した一症例

溝口浩晃, 幸龍三郎, 松本崇宏, 今西孝至, 辻本雅之

京都薬科大学紀要 4(1) 117-121 2023 年 5 月 招待有り

6.気象病と疾患について

津島美幸

京都薬報 3 月号 535 60-61

書籍等出版物

1.京薬生のためのアカデミック・スキル (2023 年度版)

坂本尚志, 開 章宏, 高尾郁子編集, 今西孝至 (担当:分担執筆, 第 3・5 章)

京都薬科大学アカデミック・スキル育成研究会 2023 年 4 月 1 日

講演・口頭発表等

1.健康サポート薬局研修修了者における研修の効率性および研修内容の利用度調査

戸井真也, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月

2. S 状結腸癌における CAPOX 術後補助化学療法中に霧視を認めた 1 症例

沢 仁美, 中村暢彦

第 33 回日本医療薬学会年会 2023 年 11 月 4 日

3.薬局薬剤師と薬局利用者における健康サポート薬局サービスの重要度の比較

田中克憲, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

第 73 回日本薬学会関西支部総会・大会 2023 年 10 月

4.京都府下における抗アレルギー薬の薬剤負担額を提示した後発医薬品使用促進への効果測定

寺門真夕, 中村暢彦, 太田実伶, 光岡由利子, 楠本正明

第 56 回日本薬剤師会学術大会, 和歌山, 2023 年 9 月 18 日

5.2022 年度第 14 回薬学共用試験 OSCE の結果解析

松元一明, 有田悦子, 石田志朗, 入江徹美, 岡村 昇, 小澤孝一郎, 木内祐二, 向後麻里, 佐藤雄己, 鈴木 匡, 高柳理早, 田村 豊, 富岡佳久, 中嶋幹郎, 西 圭史, 野田幸裕, 橋詰 勉, 松下 良, 山下美妃, 渡邊真知子, 木津純子, 増野匡彦, 伊藤智夫

第8回日本薬学教育学会大会, 熊本市, 2023年8月20日

6.2022年度薬学共用試験報告

石川はと子, 増野匡彦, 中村明弘, 出口芳春, 石塚忠男, 野田幸裕, 松野純男, 前田定秋, 小澤孝一郎, 西端芳彦, 三田智文, 岡村 昇, 田村 豊, 橋詰 勉, 松元一明, 飯島史朗, 宮崎 智, 矢ノ下良平, 伊藤智夫

第55回日本医学教育学会大会, 長崎市, 2023年7月29日

7.高齢者の化学療法においてチーム医療としての関わった1症例

沢 仁美, 岸下陽子, 湯山聖子, 中村暢彦

第15回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会, 名古屋, 2023.6

8.高齢者の腎機能低下における盲腸癌治療の薬剤師として関わった1症例

沢 仁美, 中村暢彦

第7回日本老年薬学会学術大会, 福岡, 2023年5月20日

9.近畿各府県での公的データを用いた高齢者における熱中症予防のための新しい暑さ指数(WBGT)に関する検討

川島瑞紀, 宮地純平, 矢野義孝, 津島己幸

日本薬学会第143年会, 札幌, 2023年3月28日

10.OTC薬に対するアンチ・ドーピング活動についての実態調査 -登録販売者・薬剤師・スポーツファーマシストの比較検討-

今西孝至, 伊藤 海, 坂本 健

日本薬学会第143年会, 札幌, 2023年3月28日

11.2021年薬学共用試験OSCEの結果解析報告と2022年度OSCE結果の速報

野田幸裕, 有田悦子, 石田志朗, 入江徹美, 岡村 昇, 小澤孝一郎, 木内祐二, 向後麻里, 田村 豊, 富岡佳久, 中嶋幹郎, 橋詰 勉, 松下 良, 松元一明, 渡邊真知子, 木津純子, 増野匡彦, 伊藤智夫

日本薬学会第143年会, 札幌, 2023年3月27日

12.健康サポート薬局研修の達成目標に対する研修修了者と未受講者の到達度比較

戸井真也, 棚橋嵩一郎, 今西孝至, 長澤吉則

日本薬学会第143年会, 札幌, 2023年3月26日

13.京都府薬剤師会会報誌「京都薬報」の歴史と存在意義

桑原千奈美, 夏目君幸, 今西孝至, 内本恵介, 大橋正和, 小路剛義, 田中秀明, 依 知可, 津島美幸, 土谷有美, 船戸一晴, 松井常孝, 三上由美, 三角武宏, 山南貴一, 渡邊由佳子, 神林純二

近畿薬剤師合同学会大会 2023（第 25 回近畿薬剤師学会大会・第 44 回日本病院薬剤師会近畿学会大会），京
都，2023 年 2 月 5 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.医療リアルワールドデータに対するデータサイエンス手法及び影響診断法の応用と新たな知見獲得～医薬品の創出と適正使
用の為に

京都薬科大学 京都薬科大学シナジー共同研究 2023 年 4 月 - 2025 年 3 月

栄田 敏之, 須瀬 諒, 地寄 悠吾, 林 邦好, 中村 智洋, 阿部 貴行, 栗原 考次

2.数理モデルを用いたインフルエンザの流行と治療法の評価

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2019 年 4 月 - 2023 年 3 月

地寄 悠吾

社会貢献活動

1.高齢者に対する予防救急 ～家の中には危険がいっぱい！未然に防ぐためには…～

今西孝至

京都市「学まち連携大学」促進事業 2023 年度市民向け共同公開講座「京のやくたちばなし 第 3 回」2023 年 10 月 14
日

2. 薬剤師のためのフィジカルアセスメント ～“ヒトを診る力”を兼ね備えた薬剤師に必要なこと～

今西孝至

令和 5 年度第 6 回大阪府薬剤師会泉大津支部研修会 2023 年 9 月 30 日

論文

1. 薬剤師の研究活動に関する実践知の共有を目的としたパターン・ランゲージの開発
渡邊 慶剛, 酒井 隆全, 高尾 郁子, 大津 史子
薬学教育 8(2024) 2023 年 12 月 <https://doi.org/10.24489/jjphe.2023-042> 査読有り
2. 学生評価を用いたコロナ禍におけるオンデマンド型実験実習講義の問題点の抽出
高尾 郁子, 木村 徹, 河野 享子, 平山 恵津子, 徳山 友紀, 高田 哲也, 金瀬 薫, 藤原 洋一
京都薬科大学紀要 4(1) 42-50 2023 年 7 月
3. コロナ禍において実験実習に講じた感染予防対策の取り組みとその取り組みに対する学生の評価
高尾郁子, 木村 徹, 河野享子, 平山恵津子, 徳山友紀, 高田哲也, 金瀬 薫, 藤原洋一
京都薬科大学紀要 3(2) 245-254 2023 年 1 月

講演、口頭発表等

1. 教育改善に向かう実践コミュニティの事例検討-相互研修型 FD から発展した実践コミュニティのパターン・ランゲージを用いて-
デイヴィス恵美, 長田尚子, 高尾郁子, 神崎秀嗣, 田中浩朗
大学教育学会 2023 年度課題研究集会 2023 年 11 月 11 日
2. 実験実習に取り入れたオンデマンド型実習講義の利点と問題点の抽出
高尾郁子, 徳山友紀, 金瀬薫, 高田哲也, 平山恵津子, 木村徹, 藤原洋一
第 8 回日本薬学教育学会大会 2023 年 8 月 19 日
3. 油脂の変質試験に着目した実験実習教材の開発 その 2
高田哲也, 徳山友紀, 金瀬薫, 高尾郁子, 平山恵津子, 木村徹, 藤原洋一
第 8 回日本薬学教育学会大会 2023 年 8 月 19 日
4. ハイビスカス抽出物による生活習慣病改善に関する基礎的検討
林美沙, 工藤麻耶, 國吉智子, 楊金緯, 高明
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 25-28 日
5. マテ熱水抽出物の肥満モデルラットにおける体重増加抑制効果及び 3T3-L1 脂肪細胞における AMPK を介した細胞内脂肪蓄積抑制効果について
工藤麻耶, 林美沙, 小林夕希子, 楊金緯, 高明

日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 25-28 日

6. 教員による実践コミュニティをパターン・ランゲージで理解する

長田尚子, 田中浩朗, 高尾郁子, 神崎秀嗣, 神谷健一, 勝又あずさ

第 29 回大学教育研究フォーラム参加者企画セッション 2023 年 3 月 15 日

7. 実験実習教育における動画教材の開発と今後の展望

高田哲也, 高尾郁子, 河野享子, 平山恵津子, 徳山友紀, 金瀬薫, 木村徹, 藤原洋一

2022 年度第 28 回 FD フォーラム 2023 年 2 月 18 日

Works(作品等)

1. 京薬生のためのアカデミック・スキル (2023 年度版)

坂本尚志, 開 章宏, 高尾郁子, 今西孝至, 岸野良治, 齋藤洋平, 武上茂彦, 徳山友紀, 中村誠宏

2023 年 3 月

2. 「教育に情熱を注ぐ教員を後押しするコミュニティのことば」コミュニティ初版

長田尚子, デイヴィス恵美, 神崎秀嗣, 町田小織, 高尾郁子, 田中浩朗

2023 年 3 月 15 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. オンライン授業のピアレビューを活用した相互研修型大学横断 FD による教育の質向上

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

飯吉 透, 木村 修平, 長田 尚子, 近藤 雪絵, 神崎 秀嗣, 長谷川 元洋, 神谷 健一, 坂本 洋子, 矢野
浩二郎, 村上 裕美, 吉富 賢太郎, 田口 真奈, 岡本 雅子, デイヴィス恵美, 高尾郁子, 香西 佳美

社会貢献活動

1. 市民向け公開講座「京のやくたちばなし」：科学は面白い～子ども向け理科実験を通して伝えたいこと～

高尾郁子 講師 京都橘大学・京都薬科大学

京都市「学まち連携大学」促進事業 市民向け共同公開講座「京のやくたちばなし」 2023 年 9 月 9 日

2. 理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2023 イン山科」：デンブンをうがい薬で調べよう、電気の力で紙に字を書こう

高尾郁子, 木村 徹, 河野享子, 平山恵津子, 徳山友紀, 高田哲也, 金瀬 薫, 林 美沙, 藤原洋一
司会, 講師, 企画, 運営参加・支援, 実演, 報告書執筆 京都薬科大学

京都薬科大学 理科実験講座 2023 年 7 月 31 日

論文

1. Expression and role of nicotinic acetylcholine receptors during midbrain dopaminergic neuron differentiation from human induced pluripotent stem cells.

Takeshi Kato, Kaneyasu Nishimura, Masahiro Hirao, Shun Shimohama, Kazuyuki Takata
Neuropsychopharmacology Rep 2023 年 6 月 27 日

2. CRISPR-Cas9-edited SNCA knockout human induced pluripotent stem cell-derived dopaminergic neurons and their vulnerability to neurotoxicity.

Shizen Inoue, Kaneyasu Nishimura, Serina Gima, Mai Nakano, Kazuyuki Takata
Biol. Pharm. Bull. 46(3) 517-522 2023 年 3 月 1 日

3. Plantainoside B in Bacopa monniera binds to A β aggregates attenuating neuronal damage and memory deficits induced by A β .

Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Takashi Ohgita, Eri Kawashita, Keiichi Ishihara, Aoi Hanaki, Mizuki Okazaki, Erika Matsuda, Yui Tanaka, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Satoshi Akiba, Hiroyuki Saito, Hisashi Matsuda, Kazuyuki Takata
Biol. Pharm. Bull. 46(2) 320-333 2023 年 2 月 1 日

4. Mumefural prevents insulin resistance and amyloid-beta accumulation in the brain by improving lowered interstitial fluid pH in type 2 diabetes mellitus.

Shigekuni Hosogi, Atsukazu Kuwahara, Yuko Kuwahara, Saori Tanaka, Chikao Shimamoto, Noriko Tagawa, Ikuo Kato, Kanji Yoshimoto, Wataru Aoi, Kazuyuki Takata, Hiroaki Miyazaki, Naomi Niisato, Yasuhiro Tsubo, Katsumi Yagi, Takashi Nakahari, Yoshinori Marunaka
Biomedical Research 44(1) 17-29 2023 年 1 月 25 日

5. Analysis of A β -induced neurotoxicity and microglial responses in simple two- and three-dimensional human iPSC-derived cortical culture systems.

Mayuko Takata, Kaneyasu Nishimura, Koki Harada, Ryota Iwasaki, Momona Ando, Shiho Yamada, Florent Ginhoux, Kazuyuki Takata
Tissue Cell 81 2023 年 1 月 14 日

MISC

1. Involvement of an Aberrant Vascular System in Neurodevelopmental, Neuropsychiatric, and

Neuro-Degenerative Diseases

Keiichi Ishihara, Kazuyuki Takata, Ken-ichi Mizutani

Life 13(1) 221 2023 年 1 月 12 日

2. ヒト iPS 細胞から誘導したマイクログリアおよび脳領域特異的神経細胞を用いた神経変性疾患の再現

西村周泰, 高田和幸

日本薬理学雑誌 158(1) 52-56 2023 年 1 月 1 日

講演・口頭発表等

1. ヒト iPS 細胞由来神経およびマイクログリアによる脳オルガノイド作製およびアミロイド β オリゴマーに対する細胞反応性の解析

原田考輝, 西村周泰, 山田志歩, 岩崎良太, 安藤ももな, 高田和幸

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 16 日

2. ミクログリア含有脳オルガノイドの作製と神経変性疾患研究への応用

高田和幸

第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

3. ヒト iPS 細胞由来マイクログリア含有脳オルガノイドのアルツハイマー病研究への応用例

高田和幸, 原田考輝, 山田志歩, 岩崎良太, 安藤ももな, 西村周泰

第 9 回細胞凝集研究会 2023 年 12 月 8 日

4. ミクログリア含有ヒト iPS 細胞由来脳オルガノイドを用いた A β 誘発細胞応答性の解析

安藤ももな, 原田考輝, 西村周泰, 山田志歩, 岩崎良太, 高田和幸

第 42 回日本認知症学会学術集会 2023 年 11 月 24 日

5. ミクログリア様細胞を含む脳オルガノイド作製とアルツハイマー病病態解析への応用

原田考輝, 西村周泰, 山田志歩, 岩崎良太, 安藤ももな, 高田和幸

第 64 回日本組織細胞化学会総会・学術集会 2023 年 10 月 20 日

6. ヒト iPS 細胞を用いた黒質線条体経路を再現する三次元脳モデルの作製

中野舞, 西村周泰, 網本直弥, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023 年 8 月 26 日

7. 2 つの転写因子 ASCL1 と LMX 1 A の誘導性発現によるヒト人工多能性幹細胞由来ドパミン神経細胞へのダイレクトコンバージョン

仁田達海, 西村周泰, 土居佳祐, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023年8月26日

8. ヒト iPS 細胞由来マイクログリアと神経細胞との共培養系におけるアミロイド β 誘発神経毒性とマイクログリア応答の解析

山田志歩, 原田考輝, 西村周泰, 岩崎良太, 安藤ももな, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023年8月26日

9. 脳に移植したヒト iPS 細胞由来ドパミン神経への α -シヌクレイン伝播の評価

儀間芹菜, 西村周泰, 扇田隆司, 斎藤博幸, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023 2023年8月26日

10. 多様性が織りなすシナジー研究に向けて

高田和幸

第4回和漢医薬学会若手研究者フォーラム 2023年8月25日

11. ミクログリアを含有するヒト iPS 細胞由来脳オルガノイドにおけるアミロイド β オリゴマーに対する細胞反応性の解析

原田考輝, 西村周泰, 山田志歩, 岩崎良太, 安藤ももな, 高田和幸

生体機能と創薬シンポジウム 2023 2023年8月25日

12. ヒト iPS 細胞由来マイクログリア前駆細胞と大脳皮質神経または脳オルガノイドの共培養系におけるアミロイド β ストレス負荷の解析

原田考輝, 西村周泰, 岩崎良太, 安藤ももな, 山田志歩, 高田和幸

第66回日本神経化学学会大会 2023年7月8日

13. ライトシート顕微鏡を用いた α -シヌクレインの脳内伝播の空間的可視化法の解析

宗野虎滋, 西村周泰, 扇田隆司, 伊東春香, 斎藤博幸, 高田和幸

日本薬学会第143年会 2023年3月27日

14. ヒト多能性幹細胞由来原始マクロファージの誘導過程における細胞増殖および遊走機能関連分子の発現に関するニコチン性アセチルコリン受容体の機能解析

原田考輝, 岩崎良太, 寺本絵梨, 山田志歩, 荒木里緒奈, 安藤ももな, 西村周泰, 下濱俊, 高田和幸

日本薬学会第143年会 2023年3月26日

15. Bacopa monniera に含有される $A\beta$ 結合物質 plantainoside B による $A\beta$ 凝集体の検出と神経保護作用

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 河嶋秀和, 木村寛之, 扇田隆司, 河下映里, 石原慶一, 花木葵, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 中村誠宏, 松本崇宏, 秋葉聡, 斎藤博幸, 松田久司, 高田和幸

日本薬学会第143年会 2023年3月26日

16. 移植神経前駆細胞の生存と成熟化における $\alpha 2$ -アンチプラスミンの関与の検討

三崎友菜, 河下映里, 西村周泰, 石原慶一, 野口鈴華, 高田和幸, 松尾理, 秋葉聡
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 脳免疫細胞ミクログリアの発生・分化・成熟に対するアセチルコリンシグナルの関与の解析
一般財団法人 清水免疫学・神経科学振興財団 第 11 回 清水免疫学・神経科学振興財団助成金 2023 年 1 月 - 2025 年 12 月
高田 和幸
2. ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月
石原 慶一, 高田 和幸
3. 脳免疫細胞ミクログリアの発生から迫る脳機能構築機序の解明と脳疾患治療への応用の研究
公益財団法人小林財団 公益財団法人小林財団 第 10 回 (令和 3 年度) 研究助成 2022 年 3 月 - 2025 年 2 月
高田 和幸
4. 神経変性疾患の早期診断・疾患修飾・機能補填を包括するニューロセラノティクス開発に向けたシナジー共同研究
京都薬科大学 シナジー共同研究助成 2023 年 5 月 - 2024 年 3 月
高田 和幸
5. 細胞分化、組織生着ならびに成熟に対するニコチン性アセチルコリン受容体の機能解析
公益財団法人喫煙科学研究財団 公益財団法人喫煙科学研究財団 令和 5 年度 (2023 年度) 助成研究
2023 年 4 月 - 2024 年 3 月
高田 和幸
6. 脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
高田 和幸, 石原 慶一, 西村 周泰

論文

1. Synthesis and Biological Evaluation of a Novel Sugar-Conjugated Platinum(II) Complex Having a Tumor-Targeting Effect

Marina Omokawa, Hiroyuki Kimura, Kenji Arimitsu, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Yuki Naito, Hiroyuki Yasui

ACS Omega 2023 年 12 月 27 日

2. Effect of Water on Direct Radioiodination of Small Molecules/Peptides Using Copper-Mediated Iododeboronation in Water-Alcohol Solvent

Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Sumina Koike, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui

ACS Omega 2023 年 6 月 27 日

講演・口頭発表等

1. Fundamental Study on Image Improvement of X-ray Fluorescence Computed Tomography by Deep Image Prior

Kazuki Sato, Yuta Tsushima, Masahiro Matsuoka, Sota Kusakari, Tenta Sasaya, Naoki Sunaguchi, Hidekazu Kawashima, Kazuyuki Hyodo, Tetsuya Yuasa, Tsutomu Zeniya

2023 IEEE Medical Imaging Conference 2023 年 11 月

2. 放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会活動報告 2023

坂口修一, 赤石泰一, 阿部利明, 池本祐志, 伊藤正悟, 岩崎智之, 尾上昌平, 河嶋秀和, 近藤真理, 角山雄一, 都留忍, 外山実千留, 東山真二, 菱本純次, 松田淑美, 宮武秀男, 宮本裕介, 三輪美代子, 吉岡潤子

令和 5 年度放射線安全取扱部会年次大会 2023 年 10 月

3. Development of Ultra-High-Resolution X-ray Fluorescence Computed Tomography System: Feasibility Study of Mouse Brain Imaging

Tsutomu Zeniya, Yuta Tsushima, Masahiro Matsuoka, Sota Kusakari, Kazuki Sato, Tenta Sasaya, Naoki Sunaguchi, Hidekazu Kawashima, Kazuyuki Hyodo, Tetsuya Yuasa

2023 年 9 月

4. nanoSPECT による褐色脂肪組織への CD36 を介した酸化 LDL 集積機構の発見

細見 謙登, 河嶋 秀和, 中野 厚史, 垣野 明美, 岡松 優子, 山下 裕騎, 笹岡 真衣, 増田 大作, 山下 静

也, 細田 洋司, 飯田 秀博, 沢村 達也

2023年7月

5. Deep Image Priorを用いた蛍光 X 線 CT 画像再構成

對馬 結太, 松岡 将宏, 佐藤 和樹, 草刈 颯太, 笹谷 典太, 砂口 尚輝, 河嶋 秀和, 兵藤 一行, 湯浅 哲也, 錢谷 勉

第 42 回 日本医用画像工学会大会 2023 年 7 月

6. 超高解像度蛍光 X 線 CT システムによるマウス脳イメージング

草刈 颯太, 對馬 結太, 松岡 将宏, 佐藤 和樹, 笹谷 典太, 砂口 尚輝, 河嶋 秀和, 兵藤 一行, 湯浅 哲也, 錢谷 勉

日本分子イメージング学会 第 17 回 学会総会・学術集会 2023 年 6 月

7. 電子飛跡検出型コンプトンカメラ(ETCC)を用いたテクネチウム同位体の生体撮像実験

遠藤 冴星, 野口 幸俊, 杉山 亮, 初川 雄一, 木村 寛之, 河嶋 秀和, 浅井 雅人, 櫛田 淳子, 株木 重人

第 125 回日本医学物理学会学術大会 2023 年 4 月

8. *Bacopa monniera* に含有される A β 結合物質 plantainoside B による A β 凝集体の検出と神経保護作用

福田 愛菜, 中嶋 聡一, 尾田 好美, 西村 周泰, 河嶋 秀和, 木村 寛之, 扇田 隆司, 河下 映里, 石原 慶一, 花木 葵, 岡崎 瑞紀, 松田 英里香, 田中 雪衣, 中村 誠宏, 松本 崇宏, 秋葉 聡, 斎藤 博幸, 松田 久司, 高田 和幸

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月

9. 銅触媒を用いた放射性ヨウ素標識反応と固相合成法を組み合わせたワンポット標識

近藤 悠斗, 木村 寛之, 河嶋 秀和, 服部 恭尚, 安井 裕之

日本薬学会 第 143 年会 2023 年 3 月

10. 褐色脂肪組織への CD36 を介した酸化 LDL 集積機構の発見

細見 謙登, 河嶋 秀和, 中野 厚史, 垣野 明美, 岡松 優子, 細田 洋司, 飯田 秀博, 沢村 達也

第 32 回 日本循環薬理学会 2023 年 1 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. Tc 同位体を用いた医療用 Tc 製剤開発と医療用ガンマ線カメラの臨床応用へ向けた開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023 年 4 月 - 2028 年 3 月

株木 重人, 木村 寛之, 浅井 雅人, 櫛田 淳子, 河嶋 秀和, 西嶋 恭司, 国枝 悦夫

2. 骨格筋の新機能としての老廃物除去機能を解明する

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2023 年 4 月 - 2026 年 3 月
細田 洋司, 垣野 明美, 沢村 達也, 河嶋 秀和

3. スカベンジャー受容体のイメージングに基づく生活習慣病および悪性腫瘍の評価

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
河嶋 秀和

論文

1. Synthesis and Biological Evaluation of a Novel Sugar-Conjugated Platinum(II) Complex Having a Tumor-Targeting Effect
Marina Omokawa, Hiroyuki Kimura, Kenji Arimitsu, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Yuki Naito, Hiroyuki Yasui
ACS Omega 2023 年 12 月
2. Structural flexibility of apolipoprotein E-derived arginine-rich peptides improves their cell penetration capability
Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Akiko Usui, Kazuchika Nishitsuji, Kenji Uchimura, Yasuhiro Abe, Ryuji Kawano, Monika I Konaklieva, Mart Reimund, Alan T Remaley, Yoji Sato, Ken-Ichi Izutsu, Hiroyuki Saito
Scientific reports 13(1), 10885 2023 年 11 月
3. Amyloidogenic 60-71 deletion/ValThr insertion mutation of apolipoprotein A-I generates a new aggregation-prone segment that promotes nucleation through entropic effects
Norihiro Namba, Takashi Ohgita, Hiroko Tamagaki-Asahina, Kazuchika Nishitsuji, Toshinori Shimanouchi, Takeshi Sato, Hiroyuki Saito
Scientific reports 13(1), 18514 2023 年 10 月
4. Effect of Water on Direct Radioiodination of Small Molecules/Peptides Using Copper-Mediated Iododeboronation in Water-Alcohol Solvent
Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Sumina Koike, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui
ACS Omega 2023 年 6 月
5. Development of an activity-based chemiluminogenic probe for γ -glutamylcyclotransferase
Yukie Nohara, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Shun Masuda, Hiroko Kawakami, Masakatsu Matsumoto, Yasunao Hattori, Susumu Kageyama, Toshiyuki Sakai, Susumu Nakata, Taku Yoshiya
Organic & Biomolecular Chemistry 21(29) 5977-5984 2023 年 6 月
6. Intramolecular interaction kinetically regulates fibril formation by human and mouse α -synuclein
Takashi Ohgita, Hiroki Kono, Izumi Morita, Hiroyuki Oyama, Toshinori Shimanouchi, Norihiro Kobayashi, Hiroyuki Saito
Scientific reports 13(1), 10885 2023 年 6 月

7. 7,8-Dihydroxy-3-(4'-hydroxyphenyl)coumarin inhibits invasion and migration of osteosarcoma cells
Yuki Sugiyama, Seikou Nakamura, Yuichi Tokuda, Masakazu Nakano, Yasunao Hattori, Hiroki Nishiguchi,
Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Masayuki Yamashita, Kei Tashiro, Eishi Ashihara
Biochemical and Biophysical Research Communications 638 200-209 2023 年 1 月

書籍等出版物

講演・口頭発表等

1. 西村周泰、儀間芹菜、扇田隆司、斎藤博幸、高田和幸、脳に生着したヒト iPS 細胞由来神経細胞への α -シヌクレイン伝播の組織学的評価、第 97 回 日本薬理学会年会（神戸）、2023 年 12 月、ポスター発表
2. 小林数也、川上夏輝、谷口智奈美、田中美咲、木村蘭希、小紫香穂、桑野芽、池本茉由、服部恭尚、大石真也、ヒドロキシプロリンを母核とするプロテアーゼ阻害剤の設計と BACE1 阻害剤探索への適用、第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム（名古屋）、2023 年 11 月、ポスター発表
3. 河野野山樹、南波憲宏、扇田隆司、斎藤博幸、環境感受性蛍光プローブ標識による パーキンソン病 α シヌクレインの脂質膜結合挙動の解析、第 13 回京都四大学連携研究フォーラム（京都）、2023 年 11 月、ポスター発表
4. Norihiro Namba, Takashi Ohgita, Hiroko Tamagaki-Asahina, Toshinori Shimanouchi, Takeshi Sato, Hiroyuki Saito, Amyloidogenic mutation of the N-terminal fragment of apolipoprotein A-I generates a new aggregation-prone segment that acts as an entropic driver of aggregation、第 60 回ペプチド討論会（大津）、2023 年 11 月、ポスター発表
5. Ryusei Endo, Hinata Sano, Koki Makabe, Shigekazu Yano, Yasunao Hattori, Kenta Teruya, Hiroyuki Konno, Preparation of SARS-CoV-2 3CL protease and investigation of its substrate recognition、第 60 回ペプチド討論会（大津）、2023 年 11 月、ポスター発表
6. 北川裕一郎、内藤禎人、南波憲宏、扇田隆司、斎藤博幸、カイロミクロンタンパク質 apoA-IV の N 末フラグメントは強いアミロイド凝集特性を有する、第 73 回日本薬学会関西支部大会（神戸）、2023 年 10 月、ポスター発表
7. 羽立祐貴、服部恭尚、若林亮介、細木誠之、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、急性骨髄性白血病細胞に対するジペプチド型 Wnt/b-catenin 経路阻害剤の抗腫瘍効果の検討、第 82 回日本癌学会学術総会（横浜）、2023 年 9 月、ポスター発表
8. 近藤悠斗、木村寛之、河嶋秀和、服部恭尚、安井裕之、銅触媒を用いた放射性ヨウ素標識反応と固相合成法を組み合わせたワンポット標識、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、口頭発表

9. 福田愛菜、中嶋聡一、尾田好美、西村周泰、河嶋秀和、木村寛之、扇田隆司、*Bacopa monniera* に含有される A β 結合物質 plantainoside B による A β 凝集体の検出と神経保護作用、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、口頭発表
10. 扇田隆司、南波憲宏、河野弘樹、斎藤博幸、アミロイド形成タンパク質の凝集核形成特性の速度論的解析、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、口頭発表
11. 川北百花、大谷拓也、服部恭尚、大石真也、小林数也、大環状 BACE1 阻害剤を基盤とする P4 位置換基の構造活性相関研究、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、ポスター発表
12. 宗野虎滋、西村周泰、扇田隆司、伊東春香、斎藤博幸、高田和幸、ライトシート顕微鏡を用いた α -シヌクレインの脳内伝播の空間的可視化法の解析、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、ポスター発表
13. 坂井瑚都、福井和華、南波憲宏、扇田隆司、木口裕貴、森田いずみ、大山浩之、長尾耕治郎、小林典裕、斎藤博幸、新規抗アポ E モノクローナル抗体のアポ E アイソフォーム反応特性の物理化学的評価、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、ポスター発表
14. 南波憲宏、上野美羽、朝比奈裕子、扇田隆司、島内寿徳、佐藤毅、斎藤博幸、ApoA-I の構造安定性とアミロイド線維形成性に及ぼすアミロイドーシス変異の影響、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、ポスター発表
15. 内藤禎人、南波憲宏、扇田隆司、斎藤博幸、アミロイド共存タンパク質 ApoA-IV の物性とアミロイド線維形成促進効果、日本薬学会第 143 年会（札幌）、2023 年 3 月、ポスター発表
16. 服部恭尚、若林亮介、羽立祐貴、戸田侑紀、高田和幸、細木誠之、芦原英司、ジペプチド型 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤の設計と合成、活性評価、日本農芸化学会 2023 年度大会（広島、オンライン開催）、2023 年 3 月、口頭発表
17. 佐野陽菜、及川慧人、遠藤龍生、照屋健太、服部恭尚、赤路健一、矢野成和、今野博行、フルレインド型 SARS-CoV 3CL protease 阻害剤の構造活性相関研究、日本農芸化学会 2023 年度大会（広島、オンライン開催）、2023 年 3 月、口頭発表

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の高活性化と抗 COVID-19 薬への展開
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
服部 恭尚, 今野 博行
2. アミロイド凝集核を構成する異常型 α シヌクレインの構造特性の物理化学的解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

扇田 隆司

学会発表

1. デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸の病態におけるオーファン G タンパク質共役型受容体 GPR35 の保護的役割

徳山 瑠雅, 八木 斗真, 文谷 桃佳, 山本 紗恵子, 安田 浩之, 斉藤 美知子, 加藤 伸一
第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

2. Ca²⁺ 高透過性 TRPV6 の粘膜バリア機能の調節を介した大腸炎に対する保護的役割

田嶋 鈴夏, 安田 浩之, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一
第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

3. DSS 誘起マウス大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 2 および 4 の保護的役割

北村 菜月, 安田 浩之, 田上 瑛梨奈, 多田 佳鈴, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一
第 97 回日本薬理学会年会 2023 年 12 月 14 日

4. ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子座の絞り込み

神保里菜, 高田修治, 斉藤美知子, 山川和弘, 河下映里, 左合治彦, 秋葉聡, 石原慶一
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26-28 日

5. TNBS 誘起大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 4 を介した細胞外トラップの役割

田中義也, 安田浩之, 宇野綾花, 甲田紗弥, 斉藤美知子, 松本健次郎, 加藤伸一
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26-28 日

6. Ca²⁺高透過性 TRPV6 の炎症性腸疾患の病態における保護的役割

高山麻由, 森風帆, 斉藤美知子, 安田浩之, 松本健二郎, 加藤伸一
日本薬学会第 143 年会 2023 年 3 月 26-28 日

薬用植物園

論文

1. Production of Dihydroisocoumarins by Callus Induction from *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii* Leaves

Junko Tsukioka, Tomoka Takami, Yuki Ario, Seikou Nakamura

Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(11) 832-837 2023年10月1日

2. Quantitative analysis of taxiphyllin, a cyanogenic glycoside, in the leaves of *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii*

Junko Tsukioka, Yutaro Ohki, Momona Nakao, Seikou Nakamura

Journal of Natural Medicines 77(4) 978-985 2023年9月

3. Comparison of growth in *Hydrangea macrophylla* var. *thunbergii* grown in different soil pH and quantitative analysis of its sweetness-related constituents

Junko Tsukioka, Seikou Nakamura

Chemical and Pharmaceutical Bulletin 71(5) 368-373 2023年5月1日

社会貢献活動

1. 令和5年度 漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修

講師

公益財団法人 日本薬剤師研修センター

京都薬科大学教育研究業績録第 42 集(2023)

発行日 2024 年 6 月

発行者 学校法人京都薬科大学

〒607-8414

京都市山科区御陵中内町 5

TEL 075-595-4716

FAX 075-595-4750